

| 改 正 後 | 現 行 | | | | | | | | |
|---|---|---------|-----|---|---|---------|---------|-----|---|
| 別紙 | 別紙 | | | | | | | | |
| 森林整備保全事業施工パッケージ型積算方式 試行実施要領 | 森林整備保全事業施工パッケージ型積算方式 試行実施要領 | | | | | | | | |
| 第 1～第 3 (略) | 第 1～第 3 (略) | | | | | | | | |
| 第 4 本方式における留意点 (略) | 第 4 本方式における留意点 (略) | | | | | | | | |
| 1 (略) | 1 (略) | | | | | | | | |
| 2 工種の適用範囲 本方式の基準による積算の各工種の適用範囲は、次のとおりとする。 (1) 「1 章. 土工」の適用範囲 土工の適用可能な作業は、次のとおりとする。 <u>なお、山地治山土工は、注記がある場合を除き、森林整備保全事業標準歩掛を用いて積算方式により積算するものとする。</u> | 2 工種の適用範囲 本方式の基準による積算の各工種の適用範囲は、次のとおりとする。 (1) 「1 章. 土工」の適用範囲 土工の適用可能な作業は、次のとおりとする。 <u>(新設)</u> | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">施工パッケージ</th> <th style="text-align: center;">適用可能な作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・掘削</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂の小規模土工 ①標準：1 箇所当たりの施工土量が 100m³ 以下、又は 100m³ 以上で現場が狭隘な場合バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) ②標準以外：構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の場合バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) <u>(注) 山地治山土工で適用可</u> ・土砂、岩塊、玉石の掘削押土 ①施工数量 10,000m³ 以上 30,000m³ 未満又は湿地軟弱土、ブルドーザ 20 t 級 ②施工数量 30,000m³ 以上、ブルドーザ 32 t 級 ・土砂、岩塊・玉石の掘削積込 施工数量 50,000m³ 以上、バックホウ山積 1.4m³ (平積 1.0m³) ・土砂、岩塊・玉石の水中掘削 (掘削積込) クラムシェル平積 0.8m³ ・土砂、岩塊・玉石の掘削 現場制約あり 人力施工 <u>(注) 山地治山土工で適用可</u> </td> </tr> </tbody> </table> | 施工パッケージ | 適用可能な作業 | ・掘削 | <ul style="list-style-type: none"> ・土砂の小規模土工 ①標準：1 箇所当たりの施工土量が 100m³ 以下、又は 100m³ 以上で現場が狭隘な場合バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) ②標準以外：構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の場合バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) <u>(注) 山地治山土工で適用可</u> ・土砂、岩塊、玉石の掘削押土 ①施工数量 10,000m³ 以上 30,000m³ 未満又は湿地軟弱土、ブルドーザ 20 t 級 ②施工数量 30,000m³ 以上、ブルドーザ 32 t 級 ・土砂、岩塊・玉石の掘削積込 施工数量 50,000m³ 以上、バックホウ山積 1.4m³ (平積 1.0m³) ・土砂、岩塊・玉石の水中掘削 (掘削積込) クラムシェル平積 0.8m³ ・土砂、岩塊・玉石の掘削 現場制約あり 人力施工 <u>(注) 山地治山土工で適用可</u> | <table border="1"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">施工パッケージ</th> <th style="text-align: center;">適用可能な作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・掘削</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂の小規模土工 ①標準：1 箇所当たりの施工土量が 100m³ 以下、又は 100m³ 以上で現場が狭隘な場合バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) ②標準以外：構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の場合バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) <u>(新設)</u> ・土砂、岩塊、玉石の掘削押土 ①施工数量 10,000m³ 以上 30,000m³ 未満又は湿地軟弱土、ブルドーザ 20 t 級 ②施工数量 30,000m³ 以上、ブルドーザ 32 t 級 ・土砂、岩塊・玉石の掘削積込 施工数量 50,000m³ 以上、バックホウ山積 1.4m³ (平積 1.0m³) ・土砂、岩塊・玉石の水中掘削 (掘削積込) クラムシェル平積 0.8m³ ・土砂、岩塊・玉石の掘削 現場制約あり 人力施工 <u>(新設)</u> </td> </tr> </tbody> </table> | 施工パッケージ | 適用可能な作業 | ・掘削 | <ul style="list-style-type: none"> ・土砂の小規模土工 ①標準：1 箇所当たりの施工土量が 100m³ 以下、又は 100m³ 以上で現場が狭隘な場合バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) ②標準以外：構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の場合バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) <u>(新設)</u> ・土砂、岩塊、玉石の掘削押土 ①施工数量 10,000m³ 以上 30,000m³ 未満又は湿地軟弱土、ブルドーザ 20 t 級 ②施工数量 30,000m³ 以上、ブルドーザ 32 t 級 ・土砂、岩塊・玉石の掘削積込 施工数量 50,000m³ 以上、バックホウ山積 1.4m³ (平積 1.0m³) ・土砂、岩塊・玉石の水中掘削 (掘削積込) クラムシェル平積 0.8m³ ・土砂、岩塊・玉石の掘削 現場制約あり 人力施工 <u>(新設)</u> |
| 施工パッケージ | 適用可能な作業 | | | | | | | | |
| ・掘削 | <ul style="list-style-type: none"> ・土砂の小規模土工 ①標準：1 箇所当たりの施工土量が 100m³ 以下、又は 100m³ 以上で現場が狭隘な場合バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) ②標準以外：構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の場合バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) <u>(注) 山地治山土工で適用可</u> ・土砂、岩塊、玉石の掘削押土 ①施工数量 10,000m³ 以上 30,000m³ 未満又は湿地軟弱土、ブルドーザ 20 t 級 ②施工数量 30,000m³ 以上、ブルドーザ 32 t 級 ・土砂、岩塊・玉石の掘削積込 施工数量 50,000m³ 以上、バックホウ山積 1.4m³ (平積 1.0m³) ・土砂、岩塊・玉石の水中掘削 (掘削積込) クラムシェル平積 0.8m³ ・土砂、岩塊・玉石の掘削 現場制約あり 人力施工 <u>(注) 山地治山土工で適用可</u> | | | | | | | | |
| 施工パッケージ | 適用可能な作業 | | | | | | | | |
| ・掘削 | <ul style="list-style-type: none"> ・土砂の小規模土工 ①標準：1 箇所当たりの施工土量が 100m³ 以下、又は 100m³ 以上で現場が狭隘な場合バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) ②標準以外：構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の場合バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) <u>(新設)</u> ・土砂、岩塊、玉石の掘削押土 ①施工数量 10,000m³ 以上 30,000m³ 未満又は湿地軟弱土、ブルドーザ 20 t 級 ②施工数量 30,000m³ 以上、ブルドーザ 32 t 級 ・土砂、岩塊・玉石の掘削積込 施工数量 50,000m³ 以上、バックホウ山積 1.4m³ (平積 1.0m³) ・土砂、岩塊・玉石の水中掘削 (掘削積込) クラムシェル平積 0.8m³ ・土砂、岩塊・玉石の掘削 現場制約あり 人力施工 <u>(新設)</u> | | | | | | | | |

| | |
|----------------|--|
| ・土砂等運搬 | <ul style="list-style-type: none"> 小規模土工におけるダンプトラック運搬 <ul style="list-style-type: none"> ①バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) による積込、ダンプトラック 4 t 積級 ②バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) による積込、ダンプトラック 2 t 積級 (注) 山地治山土工で適用可 土砂、岩塊・玉石の水中掘削 (掘削積込) <ul style="list-style-type: none"> クラムシェル平積 0.8m³ による積込、ダンプトラック 10 t 積級 現場制約ありのダンプトラック運搬 <ul style="list-style-type: none"> 人力による積込、ダンプトラック 2 t 積級 (注) 山地治山土工で適用可 |
| ・整地 | <ul style="list-style-type: none"> 残土受け入れ地での整地作業 敷均し (ルーズ) <ul style="list-style-type: none"> ①標準以外、ブルドーザ 21 t 級 ②狭小幅員 (2.5m以上 4.0m未満)、ブルドーザ 3 t 級 |
| ・路体(築堤) 盛土 | <ul style="list-style-type: none"> 施工幅員 2.5m未満 施工幅員 2.5m以上 4.0m未満 施工幅員 4.0m以上 施工数量 10,000m³ 以上、ブルドーザ 16 t 級 |
| ・路床盛土 | <ul style="list-style-type: none"> 施工幅員 2.5m未満 施工幅員 2.5m以上 4.0m未満 施工幅員 4.0m以上 施工数量 10,000m³ 以上、ブルドーザ 16 t 級 |
| ・押土(ルーズ) | ・適用可 |
| ・積込(ルーズ) | <ul style="list-style-type: none"> 土砂の小規模積込 <ul style="list-style-type: none"> ①標準: 1 箇所当りの施工土量が 100m³ 以下、又は 100m³ 以上で現場が狭隘な場合 バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) ②標準以外: 構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の場合 バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) (注) 山地治山土工で適用可 土砂、岩塊・玉石、破碎岩 <ul style="list-style-type: none"> 施工数量 50,000m³ 以上、バックホウ山積 1.4m³ (平積 1.0m³) |
| ・人力積込 | ・適用可 |
| ・転石破碎 | ・適用可 |
| ・床掘り | <ul style="list-style-type: none"> 土砂の小規模床掘り <ul style="list-style-type: none"> 1 箇所当たり施工土量 100m³ 程度、又は平均施工幅 1 m 未満 (注) 山地治山土工で適用可 土砂、岩塊・玉石の床掘り <ul style="list-style-type: none"> 現場制約がある場合の人力施工 (注) 山地治山土工で適用可 掘削深さ 5 m 超のクラムシェルによる床掘り |
| ・掘削補助機械搬入搬出 | ・適用可 |
| ・基面整正 | ・適用可 |
| ・舗装版破碎 (小規模土工) | ・適用可 |
| ・埋戻し | ・適用可 |
| ・タンパ締固め | ・適用可 |
| (削除) | (削除) |
| ・人力運搬 | ・適用可 (200m以下) |
| ・安定処理 | ・適用可 |

| | |
|----------------|--|
| ・土砂等運搬 | <ul style="list-style-type: none"> 小規模土工におけるダンプトラック運搬 <ul style="list-style-type: none"> ①バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) による積込、ダンプトラック 4 t 積級 ②バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) による積込、ダンプトラック 2 t 積級 (新設) 土砂、岩塊・玉石の水中掘削 (掘削積込) <ul style="list-style-type: none"> クラムシェル平積 0.8m³ による積込、ダンプトラック 10 t 積級 現場制約ありのダンプトラック運搬 <ul style="list-style-type: none"> 人力による積込、ダンプトラック 2 t 積級 (新設) |
| ・整地 | <ul style="list-style-type: none"> 残土受け入れ地での整地作業 敷均し (ルーズ) <ul style="list-style-type: none"> ①標準以外、ブルドーザ 21 t 級 ②狭小幅員 (2.5m以上 4.0m未満)、ブルドーザ 3 t 級 |
| ・路体(築堤) 盛土 | <ul style="list-style-type: none"> 施工幅員 2.5m未満 施工幅員 2.5m以上 4.0m未満 施工幅員 4.0m以上 施工数量 10,000m³ 以上、ブルドーザ 16 t 級 |
| ・路床盛土 | <ul style="list-style-type: none"> 施工幅員 2.5m未満 施工幅員 2.5m以上 4.0m未満 施工幅員 4.0m以上 施工数量 10,000m³ 以上、ブルドーザ 16 t 級 |
| ・押土(ルーズ) | ・適用可 |
| ・積込(ルーズ) | <ul style="list-style-type: none"> 土砂の小規模積込 <ul style="list-style-type: none"> ①標準: 1 箇所当りの施工土量が 100m³ 以下、又は 100m³ 以上で現場が狭隘な場合 バックホウ山積 0.28m³ (平積 0.2m³) ②標準以外: 構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の場合 バックホウ山積 0.13m³ (平積 0.10m³) (新設) 土砂、岩塊・玉石、破碎岩 <ul style="list-style-type: none"> 施工数量 50,000m³ 以上、バックホウ山積 1.4m³ (平積 1.0m³) |
| ・人力積込 | ・適用可 |
| ・転石破碎 | ・適用可 |
| ・床掘り | <ul style="list-style-type: none"> 土砂の小規模床掘り <ul style="list-style-type: none"> 1 箇所当たり施工土量 100m³ 程度、又は平均施工幅 1 m 未満 (新設) 土砂、岩塊・玉石の床掘り <ul style="list-style-type: none"> 現場制約がある場合の人力施工 (新設) 掘削深さ 5 m 超のクラムシェルによる床掘り |
| ・掘削補助機械搬入搬出 | ・適用可 |
| ・基面整正 | ・適用可 |
| ・舗装版破碎 (小規模土工) | ・適用可 |
| ・埋戻し | ・適用可 |
| ・タンパ締固め | ・適用可 |
| ・人肩運搬 | ・適用可 (200m以下) |
| ・小車運搬 | ・適用可 (200m以下) |
| ・安定処理 | ・適用可 |

(注) (略)

(2) (略)

(3) 「3章 コンクリート工」の適用範囲

山腹工において、コンクリート体積(1工事当り)が100m³未満の場合は、本方式で算出した単価に、別途、下式により算出した単価を加算できるものとする。

(略)

(4) 適用範囲が限定される施工パッケージ

(略)

① 掘削

| 土質 | 施工方法 (施工内容) | 施工数量 | 掘削機械・機種 | 適用可能 | 備考 |
|---------------|-----------------------|---|---|------|---|
| 土砂 | 片切掘削 | — | バックホウ山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | × | |
| | 小規模 | 標準 (100 m ³ 以下又は 100 m ³ 以上で狭隘) | バックホウ山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) | ○ | 山地 治 山 土 工 で 適 用 可 |
| | | 標準以外 (50 m ³ 以下又は 障害物等の制限あり) | バックホウ山積 0.13 m ³ (平積 0.1 m ³) | ○ | |
| 土砂及び 岩塊・玉石 | オープン カット(掘 削押土) | 10,000 m ³ 未満 (施工幅員 4.0m以上) | ブルドーザ・普通型 15t 級 (※11t 級) | × | ※対 象 土 量 が 少 な い 場 合 |
| | | 10,000 m ³ 以上 30,000 m ³ 未満又は湿地軟弱 土 | ブルドーザ・湿地型 20t 級 | ○ | |
| | | 30,000 m ³ 以上 | ブルドーザ・普通型 32t 級 | ○ | |
| | オープン カット(掘 削積込) | 50,000 m ³ 未満 | バックホウ山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | × | |
| | | 50,000 m ³ 以上 | バックホウ山積 1.4 m ³ (平積 1.0 m ³) | ○ | |
| | 水中掘削 (掘削積 込) | — | クラムシェル・油圧ロー プ式 平積 0.8 m ³ | ○ | |
| | 現場制約 あり | — | (人力掘削) | ○ | 山地 治 山 土 工 で 適 用 可 |
| 軟岩 | | | | × | す べ て の 条 件 で 適 用 不 可 |
| 硬岩 | | | | × | す べ て の 条 件 で 適 用 不 可 |

(注) (略)

(2) (略)

(3) 「3章 コンクリート工」の適用範囲

山腹工において、コンクリート体積が100m³未満の場合は、本方式で算出した単価に、別途、下式により算出した単価を加算できるものとする。

(略)

(4) 適用範囲が限定される施工パッケージ

(略)

① 掘削

| 土質 | 施工方法 (施工内容) | 施工数量 | 掘削機械・機種 | 適用可能 | 備考 |
|---------------|-----------------------|---|---|------|---|
| 土砂 | 片切掘削 | — | バックホウ山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | × | |
| | 小規模 | 標準 (100 m ³ 以下又は 100 m ³ 以上で狭隘) | バックホウ山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) | ○ | (新設) |
| | | 標準以外 (50 m ³ 以下又は 障害物等の制限あり) | バックホウ山積 0.13 m ³ (平積 0.1 m ³) | ○ | (新設) |
| 土砂及び 岩塊・玉石 | オープン カット(掘 削押土) | 10,000 m ³ 未満 (施工幅員 4.0m以上) | ブルドーザ・普通型 15t 級 (※11t 級) | × | ※対 象 土 量 が 少 な い 場 合 |
| | | 10,000 m ³ 以上 30,000 m ³ 未満又は湿地軟弱 土 | ブルドーザ・湿地型 20t 級 | ○ | |
| | | 30,000 m ³ 以上 | ブルドーザ・普通型 32t 級 | ○ | |
| | オープン カット(掘 削積込) | 50,000 m ³ 未満 | バックホウ山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | × | |
| | | 50,000 m ³ 以上 | バックホウ山積 1.4 m ³ (平積 1.0 m ³) | ○ | |
| | 水中掘削 (掘削積 込) | — | クラムシェル・油圧ロー プ式 平積 0.8 m ³ | ○ | |
| | 現場制約 あり | — | (人力掘削) | ○ | (新設) |
| 軟岩 | | | | × | す べ て の 条 件 で 適 用 不 可 |
| 硬岩 | | | | × | す べ て の 条 件 で 適 用 不 可 |

② 土砂等運搬

| 土砂等発生現場 | 積込機械・機種 | 運搬機械・機種 | 適用可能 | 備考 |
|---------|---|----------------|------|--|
| 標準 | バックホウ山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | ダンプトラック 10t 積級 | × | |
| | バックホウ山積 1.4 m ³ (平積 1.0 m ³) | | × | |
| | バックホウ山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³) | | × | |
| | クラムシェル平積 0.8 m ³ | | ○ | |
| 小規模 | バックホウ山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) | ダンプトラック 4t 積級 | ○ | 山地 治 山 土 工 で 適 用 可 |
| | バックホウ山積 0.13 m ³ (平積 0.1 m ³) | ダンプトラック 2t 積級 | ○ | |
| 現場制約あり | (人力積込) | | | ○ |

③～⑤ (略)

⑥ 積込 (ルーズ)

| 土質 | 作業内容 | 積込機械・機種 | 適用可能 | 備考 |
|-----------------------|---|--|------|--|
| 土砂 | 小規模 (標準) (100 m ³ 以下又は100 m ³ 以上で 狭隘) | バックホウ山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) | ○ | 山地 治 山 土 工 で 適 用 可 |
| | 小規模 (標準以外) (50 m ³ 以下又は障害物等の制 限あり) | バックホウ山積 0.13 m ³ (平積 0.1 m ³) | ○ | |
| 土砂、 岩塊・玉石 及び破碎岩 | 土量 50,000 m ³ 未満 | バックホウ山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | × | |
| | 土量 50,000 m ³ 以上 | バックホウ山積 1.4 m ³ (平積 1.0 m ³) | ○ | |
| | 平均施工幅 1m以上 2m未満 | バックホウ山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³) | × | |

② 土砂等運搬

| 土砂等発生現場 | 積込機械・機種 | 運搬機械・機種 | 適用可能 | 備考 |
|---------|---|----------------|------|------|
| 標準 | バックホウ山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | ダンプトラック 10t 積級 | × | |
| | バックホウ山積 1.4 m ³ (平積 1.0 m ³) | | × | |
| | バックホウ山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³) | | × | |
| | クラムシェル平積 0.8 m ³ | | ○ | |
| 小規模 | バックホウ山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) | ダンプトラック 4t 積級 | ○ | (新設) |
| | バックホウ山積 0.13 m ³ (平積 0.1 m ³) | ダンプトラック 2t 積級 | ○ | (新設) |
| 現場制約あり | (人力積込) | | | ○ |

③～⑤ (略)

⑥ 積込 (ルーズ)

| 土質 | 作業内容 | 積込機械・機種 | 適用可能 | 備考 |
|-----------------------|---|--|------|------|
| 土砂 | 小規模 (標準) (100 m ³ 以下又は100 m ³ 以上で 狭隘) | バックホウ山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) | ○ | (新設) |
| | 小規模 (標準以外) (50 m ³ 以下又は障害物等の制 限あり) | バックホウ山積 0.13 m ³ (平積 0.1 m ³) | ○ | (新設) |
| 土砂、 岩塊・玉石 及び破碎岩 | 土量 50,000 m ³ 未満 | バックホウ山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | × | |
| | 土量 50,000 m ³ 以上 | バックホウ山積 1.4 m ³ (平積 1.0 m ³) | ○ | |
| | 平均施工幅 1m以上 2m未満 | バックホウ山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³) | × | |

⑦ 床掘り

| 土質 | 施工方法 | 床掘機械・機種 | 適用可能 | 備考 |
|-----------|---|--|------|------------|
| 土砂 | 小規模（1箇所当たり100 m ³ 程度又は平均施工幅1m未満） | バックホウ山積 0.28 m ³ （平積0.2 m ³ ） | ○ | 山地治山土工で適用可 |
| 土砂及び岩塊・玉石 | 標準 | バックホウ山積 0.8 m ³ （平積0.6 m ³ ） | × | |
| | 平均施工幅1m以上2m未満 | バックホウ山積 0.45 m ³ （平積0.35 m ³ ） | × | |
| | 掘削深さ5m超20m以下 | クラムシェル・テレスコピック式 平積0.4 m ³ | ○ | |
| | 掘削深さ20m超 | クラムシェル・油圧ロープ式 平積0.8 m ³ | ○ | |
| | 現場制約あり | (人力床掘) | ○ | 山地治山土工で適用可 |

(削除)

⑧ 人力運搬

| 運搬対象 | 作業内容 | 換算距離 | 適用可能 | 備考 | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--|
| 土砂 岩塊・玉石 | 積込～運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | | |
| | | 200m超え | × | | |
| | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | |
| | | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | |
| <u>(削除)</u> | 運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | | |
| | | 200m超え | × | | |
| <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | | |
| | | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | | |
| | | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | | |
| <u>(削除)</u> | | | <u>(削除)</u> | <u>(削除)</u> | |

⑦ 床掘り

| 土質 | 施工方法 | 床掘機械・機種 | 適用可能 | 備考 |
|-----------|---|--|------|------|
| 土砂 | 小規模（1箇所当たり100 m ³ 程度又は平均施工幅1m未満） | バックホウ山積 0.28 m ³ （平積0.2 m ³ ） | ○ | (新設) |
| 土砂及び岩塊・玉石 | 標準 | バックホウ山積 0.8 m ³ （平積0.6 m ³ ） | × | |
| | 平均施工幅1m以上2m未満 | バックホウ山積 0.45 m ³ （平積0.35 m ³ ） | × | |
| | 掘削深さ5m超20m以下 | クラムシェル・テレスコピック式 平積0.4 m ³ | ○ | |
| | 掘削深さ20m超 | クラムシェル・油圧ロープ式 平積0.8 m ³ | ○ | |
| | 現場制約あり | (人力床掘) | ○ | (新設) |

⑧ 人肩運搬

| 運搬対象 | 作業内容 | 換算距離 | 適用可能 | 備考 |
|----------------------------|----------------|--------|------|-------------|
| 土・石 | 積込～運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| | 掘削（床掘り）～運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| | 運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| セメント等 積ブロック類 (控35cm) | 積込～運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| | 運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| ※上記以外 | | | × | すべての条件で適用不可 |

⑨ 小車運搬

| 運搬対象 | 作業内容 | 換算距離 | 適用可能 | 備考 |
|----------------------------|----------------|--------|------|-------------|
| 土・石 | 積込～運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| | 掘削（床掘り）～運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| | 運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| セメント等 積ブロック類 (控35cm) | 積込～運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| | 運搬～取卸し | 200m以下 | ○ | |
| | | 200m超え | × | |
| ※上記以外 | | | × | すべての条件で適用不可 |

(5) 施工パッケージ単価のみ設定されている工種

次の工種は、「森林整備保全事業標準歩掛」に掲載がない工種であり、作業条件等に留意し適用するものとする。

- ・安定処理工～立入防止柵工 (略)
- ・雪崩予防防止柵工
- ・落下物等防止柵設置工～橋梁補修工(支承取替工) (略)
- ・橋梁補修工(現場溶接鋼桁補強工)
- ・落橋防止装置工～現場発生品及び支給品運搬 (略)

3～8 (略)

第5 (略)

(5) 施工パッケージ単価のみ設定されている工種

次の工種は、「森林整備保全事業標準歩掛」に掲載がない工種であり、作業条件等に留意し適用するものとする。

- ・安定処理工～立入防止柵工 (略)
- ・(新設)
- ・落下物等防止柵設置工～橋梁補修工(支承取替工) (略)
- ・(新設)
- ・落橋防止装置工～現場発生品及び支給品運搬 (略)

3～8 (略)

第5 (略)

(参考資料) 施工パッケージ型積算方式の解説

(新設)

1. 施工パッケージ型積算方式

施工パッケージ型積算方式では、施工単位ごとに機械経費・労務費・材料費をひとまとめにした「標準単価(施工パッケージ単価)」が設定され、これを積算地区、積算年月日、材料規格(代表材料以外の規格が適用できる場合)、時間外割増賃金等に応じた積算単価に補正して直接工事費を算出します。

2. 標準単価

標準単価とは、各積算条件区分に対応した、東京地区(東京17区)における基準年月(基準年月は、標準単価適用年度の前年4月)の施工単位当たりの単価(円)です。

この標準単価は、「森林整備保全事業 施工パッケージ型積算方式標準単価表」(以下「標準単価表」という。)に記載されています。

(注) 標準単価は、毎年度更新しています。更新の際には、実際の施工状況の変動や、標準単価を構成する個々の単価(機械経費単価・労務単価・材料単価・市場単価)の物価変動等を反映して、標準単価を設定しています。

3. 機労材構成比

機労材構成比とは、標準単価に対する機械経費(K)、労務費(R)、材料費(Z)、市場単価(S)の金額構成比率です。

K1~K3、R1~R4、Z1~Z4、Sは機械経費、労務費、材料費における代表的な規格の金額構成比率であり、また、K、R、Zは機械経費、労務費、材料費それぞれの合計金額構成比率です。

この機労材構成比は、標準単価表に記載されています。

(注) 各合計金額構成比率(K、R、Z)は代表的な規格以外の金額も含むため、K1~K3、R1~R4、Z1~Z4の合計がK、R、Zと一致しない場合があります。

4. 代表機労材規格

代表機労材規格とは、「機労材構成比」で代表的な規格の金額構成比率を示した機械経費、労務費、材料費、市場単価の具体的な規格名称です。

ただし、コンクリートやアスファルト等の一部の材料規格については、最も代表的な材料規格のみを示しています。

この代表機労材規格は、「森林整備保全事業 施工パッケージ型積算方式の基準」及び「標準単価表」に記載されています。

(注) 「森林整備保全事業 施工パッケージ型積算方式の基準」に記載している「代表機労材規格一覧」は、機械経費、労務費、材料費、市場単価の代表的な組合せのみを記載している場合等があり、標準単価表の記載内容と一致しないことがあります。その場合は、標準単価表の記載内容を適用するものとします。

5. 標準単価から積算単価への補正式

標準単価 (P) から積算単価 (P') への補正は、各施工パッケージの標準単価および機労材構成比を用い、下記の補正式により算出します。

$$P' = P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + \dots + K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + \dots + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{Sr}{100} \times \frac{St'}{St} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}$$

- P' : 積算単価(積算地区、積算年月)
- P : 標準単価(東京地区、基準年月)
- Kr : 標準単価における全機械(K1~K3,他)の構成比合計
- K1r~K3r : 標準単価における代表機械規格 K1~3 の構成比
- K1t~K3t : 代表機械規格 K1~3 の単価(東京地区、基準年月)
- K1t'~K3t' : 代表機械規格 K1~3 の単価(積算地区、積算年月)
- Rr : 標準単価における全労務(R1~R4,他)の構成比合計
- R1r~R4r : 標準単価における代表労務規格 R1~4 の構成比
- R1t~R4t : 代表労務規格 R1~4 の単価(東京地区、基準年月)
- R1t'~R4t' : 代表労務規格 R1~4 の単価(積算地区、積算年月)
- Zr : 標準単価における全材料(Z1~Z4,他)の構成比合計
- Z1r~Z4r : 標準単価における代表材料規格 Z1~4 の構成比
- Z1t~Z4t : 代表材料規格 Z1~4 の単価(東京地区、基準年月)
- Z1t'~Z4t' : 代表材料規格 Z1~4 の単価(積算地区、積算年月)
- Sr : 標準単価における市場単価 S の構成比
- St : 市場単価 S の所与条件における単価(東京地区、基準年月)
- St' : 市場単価 S の所与条件における単価(積算地区、積算年月)

6. 標準単価から積算単価への計算例

(1) 積算地区及び積算年月日の違いによる補正の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条件区分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・ 標準単価：50,809 円

大阪地区の令和4年5月における積算単価を算出する場合

- ① 標準単価、機労材構成比、代表機労材規格：令和4年度版の標準単価表
- ② 標準単価における代表機労材の各単価：東京地区の令和3年4月の単価
- ③ 積算単価における代表機労材の各単価：大阪地区の令和4年5月の単価

表1：L型擁壁の代表機労材規格・構成比

| | 規格 (上記①) | 構成比(%) (上記①) | 東京(R3.4)(円) (上記②) | 大阪(R4.5)(円) (上記③) |
|----|---|-----------------|----------------------|----------------------|
| K | | 2.27 | — | — |
| K1 | コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h | 1.24 | 51,800 | 51,800 |
| K2 | 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料) | 0.31 | 747 | 715 |
| K3 | 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA | 0.21 | 416 | 416 |
| R | | 42.22 | — | — |
| R1 | 普通作業員 | 15.40 | 21,500 | 19,000 |
| R2 | 型わく工 | 9.72 | 26,000 | 25,800 |
| R3 | 土木一般世話役 | 3.40 | 24,700 | 23,700 |
| R4 | 特殊作業員 | 0.96 | 24,600 | 21,600 |
| Z | | 44.00 | — | — |
| Z1 | 生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55% | 29.58 | 14,700 | 20,000 |
| Z2 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25 | 12.58 | 69,000 | 79,500 |
| Z3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 1.25 | 64.5 | 66.2 |
| Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | 0.51 | 116 | 110 |
| S | 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物 | 11.51 | 65,000 | 52,500 |

(注) 上記の例で示した標準単価、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は、仮定の単価であり、実際の単価と一致していません。

P'(大阪 R4.5) = 50,809

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.24}{100} \times 51,800 + \frac{0.31}{100} \times 747 + \frac{0.21}{100} \times 416 \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right. \\
 & + \left(\frac{15.40}{100} \times 19,000 + \frac{9.72}{100} \times 25,800 + \frac{3.40}{100} \times 23,700 + \frac{0.96}{100} \times 21,600 \right) \times \frac{42.22}{15.40 + 9.72 + 3.40 + 0.96} \\
 & + \left(\frac{29.58}{100} \times 14,700 + \frac{12.58}{100} \times 69,000 + \frac{1.25}{100} \times 66.2 + \frac{0.51}{100} \times 110 \right) \times \frac{44.00}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\
 & + \frac{11.51}{100} \times 52,500 \\
 & \left. + \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44.00 - 11.51}{100} \right\} \\
 & = 54,539.2439664 \dots \approx 54,540(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

(2) 代表材料以外の規格により積算する場合の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条件区分：早強 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・ 標準単価：50,809 円

材料の生コンクリート規格が早強 24-12-25(20)で、大阪地区の令和4年5月における積算単価を算出する場合

- ①標準単価、機労材構成比、代表機労材規格：令和4年度版の標準単価表
- ②標準単価における代表機労材の各単価：東京地区の令和3年4月の単価
- ③積算単価における代表機労材の各単価：大阪地区の令和4年5月の単価

表2：L型擁壁の代表規格・構成比

| | 規格 (上記①) | 構成比(%) (上記①) | 東京(R3.4)(円) (上記②) | 大阪(R4.5)(円) (上記③) |
|----|---|-----------------|----------------------|---|
| K | | 2.27 | — | — |
| K1 | コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h | 1.24 | 51,800 | 51,800 |
| K2 | 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料) | 0.31 | 747 | 715 |
| K3 | 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA | 0.21 | 416 | 416 |
| R | | 42.22 | — | — |
| R1 | 普通作業員 | 15.40 | 21,500 | 19,000 |
| R2 | 型わく工 | 9.72 | 26,000 | 25,800 |
| R3 | 土木一般世話役 | 3.40 | 24,700 | 23,700 |
| R4 | 特殊作業員 | 0.96 | 24,600 | 21,600 |
| Z | | 44.00 | — | — |
| Z1 | 生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55% | 29.58 | 14,700 | 21,600 (<u>早強 24-12-25(20)</u>) |
| Z2 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25 | 12.58 | 69,000 | 79,500 |
| Z3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 1.25 | 64.5 | 66.2 |
| Z4 | 軽油 1.2号 バトロール給油 | 0.51 | 116 | 110 |
| S | 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物 | 11.51 | 65,000 | 52,500 |

(注) 上記の例で示した標準単価、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は、仮定の単価であり、実際の単価と一致していません。

$$\begin{aligned}
 P'(\text{大阪 R4.5}) &= 50,809 \\
 &\times \left\{ \left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right. \\
 &+ \left(\frac{15.40}{100} \times \frac{19,000}{21,500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{25,800}{26,000} + \frac{3.40}{100} \times \frac{23,700}{24,700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{21,600}{24,600} \right) \times \frac{42.22}{15.40 + 9.72 + 3.40 + 0.96} \\
 &+ \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{21,600}{14,700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79,500}{69,000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44.00}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\
 &+ \frac{11.51}{100} \times \frac{52,500}{65,000} \\
 &+ \left. \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44.00 - 11.51}{100} \right\} \\
 &= 56,178.0660592 \dots \approx \mathbf{56,180}(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

(3) 条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例

- ① 「基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)」
 「基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)」
 「排水性舗装・表層(車道・路肩部)」 「透水性アスファルト舗装」の場合

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：1.4m以上 3.0m以下、1層当り平均仕上り厚 **70mm**、密粒度 As20
 （締固め後密度 2.35t/m3）、タックコート PK-4
- ・標準単価：1,531.1円

1層当り平均仕上り厚が70mmで、大阪地区の令和4年5月における積算単価を算出する場合

- ①標準単価、機労材構成比、代表機労材規格：令和4年度版の標準単価表
 ②標準単価における代表機労材の各単価：東京地区の令和3年4月の単価
 ③積算単価における代表機労材の各単価：大阪地区の令和4年5月の単価

表3：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

| 規格 (上記①) | 構成比(%) (上記①) | 東京(R3.4)(円) (上記②) | 大阪(R4.5)(円) (上記③) |
|--|-----------------|---|--|
| K | 1.94 | — | — |
| K1 アスファルトフィニッシャー [ホイール型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 舗装幅 1.4~3.0m (*賃料) | 1.30 | 14,800 | 15,000 |
| K2 振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t (*賃料) | 0.26 | 3,540 | 3,540 |
| K3 タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t (*賃料) | 0.24 | 3,250 | 3,310 |
| R | 15.12 | — | — |
| R1 普通作業員 | 5.40 | 21,500 | 19,000 |
| R2 特殊作業員 | 3.71 | 24,600 | 21,600 |
| R3 運転手 (特殊) | 3.65 | 24,200 | 21,800 |
| R4 土木一般世話役 | 1.24 | 24,700 | 23,700 |
| Z | 82.94 | — | — |
| Z1 アスファルト混合物 密粒度 A S 混合物(20) (平均仕上り厚 50mm) | 80.11 | 487,500 ^(注) (50mm×9.750円/t) | 707,000^(注) (70mm×10,100円/t) |
| Z2 アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | 2.56 | 91.5 | 91 |
| Z3 軽油 1.2号 バトロール給油 | 0.25 | 116 | 110 |
| Z4 — | — | — | — |
| S | — | — | — |

(注) 上記の例で示した標準単価、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は、仮定の単価であり、実際の単価と一致していません。

$$\begin{aligned}
 P'(\text{大阪 R4.5}) &= 1,531.1 \\
 &\times \left\{ \left(\frac{1.30}{100} \times 15,000 + \frac{0.26}{100} \times 3,540 + \frac{0.24}{100} \times 3,310 \right) \times \frac{1.94}{1.30 + 0.26 + 0.24} \right. \\
 &+ \left(\frac{5.40}{100} \times 21,500 + \frac{3.71}{100} \times 24,600 + \frac{3.65}{100} \times 24,200 + \frac{1.24}{100} \times 24,700 \right) \times \frac{15.12}{5.40 + 3.71 + 3.65 + 1.24} \\
 &+ \left(\frac{80.11}{100} \times 707,000 + \frac{2.56}{100} \times 91 + \frac{0.25}{100} \times 110 \right) \times \frac{82.94}{80.11 + 2.56 + 0.25} \\
 &\left. + \frac{100 - 1.94 - 15.12 - 82.94}{100} \right\} \\
 &= 2,058.7720150 \dots \approx \mathbf{2,059(\text{円}/\text{m}^2)}
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

(補足) アスファルト混合物の材料費(m2 当り)は、**平均仕上り厚(mm) / 1,000 × 締固め後密度(t/m3) × 材料単価(円/t) × (1 + ロス率)**で算出しますが、締固め後密度(t/m3)に応じた標準単価を選択するため、締固め後密度が同条件となることから、計算例では簡易的に材料費を算出しています。また、材料のロス分については標準単価に含まれています。

②「安定処理」の場合

- ・施工パッケージ名称：安定処理
- ・条 件 区 分：バックホウ、構造物基礎、1m を超え 2m 以下、
固化材使用量 **7.00t/100m2 (材料ロスを含む)**
- ・標 準 単 価：2,237.9 円

固化材使用量が 7.00t/100m2 で、大阪地区の令和 4 年 5 月における積算単価を算出する場合

- ①標準単価、機労材構成比、代表機労材規格：令和 4 年度版の標準単価表
- ②標準単価における代表機労材の各単価：東京地区の令和 3 年 4 月の単価
- ③積算単価における代表機労材の各単価：大阪地区の令和 4 年 5 月の単価

表 4：安定処理の代表規格・構成比

| | 規格 (上記①) | 構成比(%) (上記①) | 東京(R3.4)(円) (上記②) | 大阪(R4.5)(円) (上記③) |
|----|---|-----------------|--|--|
| K | | 8.59 | — | — |
| K1 | バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第3次基準値）] 山積 0.8m3（平積 0.6m3）吊能力 2.9t（*賃料） | 7.42 | 9,840 | 10,500 |
| K2 | 振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式・超低騒音型] 質量 0.8～1.1t（*賃料） | 1.17 | 1,560 | 1,650 |
| K3 | — | — | — | — |
| R | | 57.38 | — | — |
| R1 | 土木一般世話役 | 14.96 | 24,700 | 23,700 |
| R2 | 特殊作業員 | 14.85 | 24,600 | 21,600 |
| R3 | 運転手（特殊） | 14.60 | 24,200 | 21,800 |
| R4 | 普通作業員 | 12.97 | 21,500 | 19,000 |
| Z | | 34.03 | — | — |
| Z1 | セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンバック(5.25t/100m2) | 29.08 | 65,100 ^(注) (5.25t/100m2×12,400円/t) | 83,300 ^(注) (7.00t/100m2×11,900円/t) |
| Z2 | 軽油 1.2号 バトロール給油 | 4.95 | 116 | 110 |
| Z3 | — | — | — | — |
| Z4 | — | — | — | — |
| S | — | — | — | — |

(注) 上記の例で示した標準単価、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は、仮定の単価であり、実際の単価と一致していません。

$$P'(\text{大阪 R4.5}) = 2,237.9$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left(\frac{7.42}{100} \times \frac{10,500}{9,840} + \frac{1.17}{100} \times \frac{1,650}{1,560} \right) \times \frac{8.59}{7.42 + 1.17} \right. \\ & + \left(\frac{14.96}{100} \times \frac{23,700}{24,700} + \frac{14.85}{100} \times \frac{21,600}{24,600} + \frac{14.60}{100} \times \frac{21,800}{24,200} + \frac{12.97}{100} \times \frac{19,000}{21,500} \right) \times \frac{57.38}{14.96 + 14.85 + 14.60 + 12.97} \\ & + \left(\frac{29.08}{100} \times \frac{83,300}{65,100} + \frac{4.95}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{34.03}{29.08 + 4.95} \\ & \left. + \frac{100 - 8.59 - 57.38 - 34.03}{100} \right\} \\ & = 2,306.5212619 \dots \approx 2,307(\text{円/m}^2) \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字 4 桁、5 桁目を降切り上げ。

(補足) セメント系固化材の材料費(m2 当り)は、**固化材使用量(材料ロスを含む)(t/100m2) / 100 × 材料単価(円/t)**で算出しますが、計算例では簡易的に材料費を算出しています。また、材料のロス分については標準単価に含まれていないため、材料のロス分を含んだ使用数量を適用する必要があります。

(4) 時間外割増賃金等の補正を行う場合の計算例

(時間外割増賃金による補正の計算例)

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：50,809 円

労務費 20%割増で、大阪地区の令和4年5月における積算単価を算出する場合

- ①標準単価、機労材構成比、代表機労材規格：令和4年度版の標準単価表
- ②標準単価における代表機労材の各単価：東京地区の令和3年4月の単価
- ③積算単価における代表機労材の各単価：大阪地区の令和4年5月の単価

表5：L型擁壁の代表規格・構成比

| | 規格 (上記①) | 構成比(%) (上記①) | 東京(R3.4)(円) (上記②) | 大阪(R4.5)(円) (上記③) |
|----------|---|-----------------|----------------------|-------------------------------|
| K | | 2.27 | — | — |
| K1 | コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h | 1.24 | 51,800 | 51,800 |
| K2 | 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料) | 0.31 | 747 | 715 |
| K3 | 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA | 0.21 | 416 | 416 |
| R | | 42.22 | — | — |
| R1 | 普通作業員 | 15.40 | 21,500 | 22,800 (19,000×1.2) |
| R2 | 型わく工 | 9.72 | 26,000 | 30,960 (25,800×1.2) |
| R3 | 土木一般世話役 | 3.40 | 24,700 | 28,440 (23,700×1.2) |
| R4 | 特殊作業員 | 0.96 | 24,600 | 25,920 (21,600×1.2) |
| Z | | 44.00 | — | — |
| Z1 | 生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55% | 29.58 | 14,700 | 20,000 |
| Z2 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25 | 12.58 | 69,000 | 79,500 |
| Z3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 1.25 | 64.5 | 66.2 |
| Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | 0.51 | 116 | 110 |
| S | 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物 | 11.51 | 65,000 | 52,500 |

(注) 上記の例で示した標準単価、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は、仮想の単価であり、実際の単価と一致していません。

$$\begin{aligned}
 P'(\text{大阪 R4.5}) &= 50,809 \\
 &\times \left\{ \left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right. \\
 &+ \left(\frac{15.40}{100} \times \frac{22,800}{21,500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{30,960}{26,000} + \frac{3.40}{100} \times \frac{28,440}{24,700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{25,920}{24,600} \right) \times \frac{42.22}{15.40 + 9.72 + 3.40 + 0.96} \\
 &+ \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{20,000}{14,700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79,500}{69,000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44.00}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\
 &+ \frac{11.51}{100} \times \frac{52,500}{65,000} \\
 &\left. + \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44.00 - 11.51}{100} \right\} \\
 &= 58,520.9981022 \dots \approx \mathbf{58,530}(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

(5) 支給品がある場合の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：早強 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：50,809 円

生コンクリートが支給された場合で、大阪地区の令和4年5月における積算単価を算出する場合（※支給品費および支給品費が控除された積算単価を算出する例）

- ①標準単価、機労材構成比、代表機労材規格：令和4年度版の標準単価表
- ②標準単価における代表機労材の各単価：東京地区の令和3年4月の単価
- ③積算単価における代表機労材の各単価：大阪地区の令和4年5月の単価

表6：L型擁壁の代表規格・構成比

| | 規格 (上記①) | 構成比(%) (上記①) | 東京(R3.4)(円) (上記②) | 大阪(R4.5)(円) (上記③) |
|----|---|-----------------|----------------------|---|
| K | | 2.27 | — | — |
| K1 | コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h | 1.24 | 51,800 | 51,800 |
| K2 | 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料) | 0.31 | 747 | 715 |
| K3 | 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA | 0.21 | 416 | 416 |
| R | | 42.22 | — | — |
| R1 | 普通作業員 | 15.40 | 21,500 | 19,000 |
| R2 | 型わく工 | 9.72 | 26,000 | 25,800 |
| R3 | 土木一般世話役 | 3.40 | 24,700 | 23,700 |
| R4 | 特殊作業員 | 0.96 | 24,600 | 21,600 |
| Z | | 44.00 | — | — |
| Z1 | 生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55% | 29.58 | 14,700 | 21,600 (早強 24-12-25(20) (支給品)) |
| Z2 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25 | 12.58 | 69,000 | 79,500 |
| Z3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 1.25 | 64.5 | 66.2 |
| Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | 0.51 | 116 | 110 |
| S | 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物 | 11.51 | 65,000 | 52,500 |

(注) 上記の例で示した標準単価、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は、仮定の単価であり、実際の単価と一致していません。

【支給品費】

$$\text{支給品費} = 50,809 \times \frac{29.58}{100} \times \frac{21,600}{14,700} = 22,083.8726204 \dots \approx \mathbf{22,083(円/m^3)}$$

※支給品費は1,000円以上の場合、円未満切り捨て。1,000円未満の場合は、小数位含め有効数字4桁とし、以降切り捨て。ただし、小数第2位までとし、3位以下は切り捨てる。

【支給品費が控除された積算単価】

$$\begin{aligned} \text{支給品費が控除された積算単価} &= (\text{端数調整なしの積算単価}) - (\text{端数調整なしの支給品費}) \\ &= 56,178.0660592 \dots - 22,083.8726204 \dots = 34,094.1934388 \dots \approx \mathbf{34,100(円/m^3)} \end{aligned}$$

※1. 端数調整なしの積算単価 (56,178.0660592...) は「(2) 代表材料以外の規格により積算する場合の計算例」内の計算式を参照

※2. 支給品費が控除された積算単価は、端数調整した場合の積算単価 (56,180円/m³) と同じ単位止め (以降切り上げ) とする。今回の計算例では、1円の位以降を切り上げ。

1) 端数調整した場合の積算単価が 561.8円/m³ の場合、小数第2位以降を切り上げ。

2) 端数調整した場合の積算単価が 5,618円/m³ の場合、小数第1位以降を切り上げ。

1章 土工

① 土量変化率 (略)

② 土工

1. 適用範囲

(略)

1-1 適用出来る範囲

1-1-1~1-1-2 (略)

1-1-3 整地

(1) (略)

(2) 作業区分「残土受入れ地での処理」は施工場所が残土処理場の場合に適用する。

1-1-4~1-1-11 (略)

1-2~1-3 (略)

2. 施工概要 (略)

3. 施工パッケージ

3-1 掘削

(1) (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.3 掘削 代表機材規格一覧

| 土質 | 項目 | 代表機材規格 | 施工方法 | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-------|---|---|---------------------------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------|-------------------|------|---|--|------|--------|--|
| | | | オープンカット | | | | | 片切掘削 | 小規模 | | | | 水中掘削 | 現場制約あり | |
| | | | 普通土 30,000 m ³ 未満 又は湿 地軟弱 土 | 普通土 30,000 m ³ 以上 | 5,000 m ³ 以上 | 10,000 m ³ 以上 | 50,000 m ³ 以上 | 小規模 (標準) | 小規模 (標準以 外) | 施工数量 | | | | | |
| 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 機械 K1 | ブルドーザ[湿地・排出ガス対策型(第3次基準値)]20t級 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(2011年規制)]32t級 | | ○ | | | | | | | | | | | |
| | | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| | | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積1.4m ³ (平積1.0m ³) | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積0.28m ³ (平積0.2m ³) | | | | | | | | | ○ | | | | |

1章 土工

① 土量変化率 (略)

② 土工

1. 適用範囲

(略)

1-1 適用出来る範囲

1-1-1~1-1-2 (略)

1-1-3 整地

(1) (略)

(新設)

1-1-4~1-1-11 (略)

1-2~1-3 (略)

2. 施工概要 (略)

3. 施工パッケージ

3-1 掘削

(1) (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.3 掘削 代表機材規格一覧

| 土質 | 項目 | 代表機材規格 | 施工方法 | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-------|---|---|---------------------------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------|-------------------|------|--|---|------|--------|--|
| | | | オープンカット | | | | | 片切掘削 | 小規模 | | | | 水中掘削 | 現場制約あり | |
| | | | 普通土 30,000 m ³ 未満 又は湿 地軟弱 土 | 普通土 30,000 m ³ 以上 | 5,000 m ³ 以上 | 10,000 m ³ 以上 | 50,000 m ³ 以上 | 小規模 (標準) | 小規模 (標準以 外) | 施工数量 | | | | | |
| 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 機械 K1 | ブルドーザ[湿地・排出ガス対策型(第1次基準値)]20t級 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準値)]32t級 | | ○ | | | | | | | | | | | |
| | | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| | | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積1.4m ³ (平積1.0m ³) | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積0.28m ³ (平積0.2m ³) | | | | | | | | | | ○ | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | R2 | 運転手(特殊) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | R3 | さく岩工 普通作業員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| | R4 | 土木一般世話役 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Z1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 材料 | Z2 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Z3 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Z4 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | S | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

3-2 土砂等運搬 (略)

3-3 整地

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.20 整地 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| 作業区分 | 施工数量 | 障害の有無 |
|------------|----------------------|----------|
| 残土受入れ地での処理 | — | — |
| 敷均し(ルーズ) | 標準 (10,000m³未満) | 無し 有り |
| | 標準以外 (10,000m³以上) | 無し 有り |
| | (削る) | |
| | (削る) | |

(注)1. ~3. (略)

4. 施工数量は、1工事当たりの整地(敷均し(ルーズ))の土量とする。

5. 障害の有無

①無し：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合(例えば、バイパス工事など、工事をするうえでの障害が少ない工事)

②有り：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合(例えば、現道上の工事、一車線程度の現道拡幅工事等の交通規制を伴う工事、現場が不連続、構造物等の障害)

6. 幅2.5m未満の狭隘箇所での作業は「1章④作業土工(埋戻工)」の現場制約ありによる。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.21 整地 代表機材規格一覧

| 作業区分 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|------------|----|--------|---|--|
| 残土受入れ地での処理 | 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8m³(平積0.6m³) | |
| | | K2 | - | |
| | | K3 | - | |
| | 労務 | R1 | 運転手(特殊) | |
| | | R2 | - | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | R2 | 運転手(特殊) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | R3 | さく岩工 普通作業員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| | R4 | 土木一般世話役 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Z1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 材料 | Z2 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Z3 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Z4 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | S | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

3-2 土砂等運搬 (略)

3-3 整地

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.20 整地 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| 作業区分 | 敷均し作業内容 | (新設) |
|------------|--------------------|------|
| 残土受入れ地での処理 | — | (新設) |
| 敷均し(ルーズ) | 標準 (新設) | (新設) |
| | 標準以外 (新設) | (新設) |
| | 狭小幅員 | |
| | トラフィカビリティが確保できない場合 | |

(注)1. ~3. (略)

4. 敷均し作業内容における標準以外とは、1工事当たりの全体盛土量が10,000m³以上の場合である。

(新設)

5. 幅2.5m未満の狭隘箇所での作業は「1章④作業土工(埋戻工)」の現場制約ありによる。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.21 整地 代表機材規格一覧

| 作業区分 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|------------|----|--------|---|--|
| 残土受入れ地での処理 | 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8m³(平積0.6m³) | |
| | | K2 | - | |
| | | K3 | - | |
| | 労務 | R1 | 運転手(特殊) | |
| | | R2 | - | |

| | | | | |
|--------------|------|------------------|---|------|
| 敷均し (ルーズ) | 材料 | R3 | - | |
| | | R4 | - | |
| | | Z1 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | | Z2 | - | |
| | | Z3 | - | |
| | Z4 | - | | |
| | 市場単価 | S | - | |
| | 機械 | K1 | バックホウ (クローラ型 [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 山積0.8m3 (平積0.6m3)) | 賃料 |
| | | | (削る) | (削る) |
| | | | (削る) | (削る) |
| | | | (削る) | (削る) |
| | K2 | - | | |
| | K3 | - | | |
| | 労務 | R1 | 運転手 (特殊) | |
| | | R2 | (削る) | |
| | | R3 | - | |
| R4 | | - | | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | | |
| | Z2 | - | | |
| | Z3 | - | | |
| | Z4 | - | | |
| 市場単価 | S | - | | |

3-4~3-11 (略)

③ 土工 (ICT)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%] 積算条件区分一覧
(積算単位: m3)

| 土質 | 施工方法 | 障害の有無 | 施工数量 |
|----|---------|-------|----------------------|
| 土砂 | オープンカット | 無し | 5,000m3未満 |
| | | | 5,000m3以上10,000m3未満 |
| | | | 10,000m3以上50,000m3未満 |
| | | 有り | 50,000m3以上 |
| | | | 5,000m3未満 |
| | | | 5,000m3以上10,000m3未満 |
| | | | 10,000m3以上50,000m3未満 |
| | | | 50,000m3以上 |

| | | | | |
|--------------|------|------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 敷均し (ルーズ) | 材料 | R3 | - | |
| | | R4 | - | |
| | | Z1 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | | Z2 | - | |
| | | Z3 | - | |
| | Z4 | - | | |
| | 市場単価 | S | - | |
| | 機械 | K1 | ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 15t 級 | 敷均し作業内容が標準の場合 |
| | | | ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 21t 級 | 敷均し作業内容が標準以外の場合 |
| | | | ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 3t 級 | 敷均し作業内容が狭小幅員 (幅2.5m以上4m未満) の場合 |
| | | | ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 16t 級 | 敷均し作業内容がトラフイカビリティが確保できない場合 |
| | K2 | - | | |
| | K3 | - | | |
| | 労務 | R1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | | R2 | 運転手 (特殊) | |
| | | R3 | - | |
| R4 | | - | | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | | |
| | Z2 | - | | |
| | Z3 | - | | |
| | Z4 | - | | |
| 市場単価 | S | - | | |

3-4~3-11 (略)

③ (参考) 土工 (ICT)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 (参考) 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 (参考) 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%] 積算条件区分一覧
(積算単位: m3)

| 土質 | 施工方法 | 障害の有無 | 施工数量 |
|----|---------|-------|----------------------|
| 土砂 | オープンカット | 無し | 5,000m3未満 |
| | | | 5,000m3以上10,000m3未満 |
| | | | 10,000m3以上50,000m3未満 |
| | | 有り | 50,000m3以上 |
| | | | 5,000m3未満 |
| | | | 5,000m3以上10,000m3未満 |
| | | | 10,000m3以上50,000m3未満 |
| | | | 50,000m3以上 |

| | | | |
|-------|---------|----|----------------------|
| | 片切掘削 | — | — |
| 岩塊・玉石 | オープンカット | 無し | 5,000m3未満 |
| | | | 5,000m3以上10,000m3未満 |
| | | | 10,000m3以上50,000m3未満 |
| | | | 50,000m3以上 |
| | | 有り | 5,000m3未満 |
| | | | 5,000m3以上10,000m3未満 |
| | | | 10,000m3以上50,000m3未満 |
| | | | 50,000m3以上 |

(注) 1. 上表は、土砂、岩塊・玉石の掘削積込（片切掘削は掘削のみ）の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含み、クレーン作業は含まない。
2. ～7. (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.2 掘削(ICT)※[ICT建機使用割合 100%] 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|---|--|
| 機械 | K1 | バックホウ（クローラ型）[標準型・ICT施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）] 山積 0.8m3（平積 0.6m3）吊能力 2.9t | ・賃料 ・「オープンカット」で、施工数量 50,000m3 未満の場合 ・「片切掘削」の場合 |
| | K1 | バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（2014年規制）] 山積 1.4m3（平積 1.0m3） | 「オープンカット」で施工数量 50,000m3 以上の場合 |
| | K2 | ICT建設機械経費賃料加算額（バックホウ（ICT施工対応型）） | ・賃料 ・「オープンカット」で、施工数量 50,000m3 未満の場合 ・「片切掘削」の場合 |
| | | ICT建設機械経費損料加算額（バックホウ） | ・賃料 ・「オープンカット」で施工数量 50,000m3 以上の場合 |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 運転手（特殊） | |
| | R2 | 普通作業員 | 片切掘削の場合 |
| | R3 | — | |
| | R4 | — | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

(注) 1.・2. (略)

3-2 路体（築堤）盛土（ICT）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 路体（築堤）盛土(ICT) 積算条件区分一覧

| | | | |
|-------|---------|----|----------------------|
| | 片切掘削 | — | — |
| 岩塊・玉石 | オープンカット | 無し | 5,000m3未満 |
| | | | 5,000m3以上10,000m3未満 |
| | | | 10,000m3以上50,000m3未満 |
| | | | 50,000m3以上 |
| | | 有り | 5,000m3未満 |
| | | | 5,000m3以上10,000m3未満 |
| | | | 10,000m3以上50,000m3未満 |
| | | | 50,000m3以上 |

(注) 1. 上表は、土砂、岩塊・玉石の掘削積込（片切掘削は掘削のみ）の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. ～7. (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.2 (参考)掘削(ICT)※[ICT建機使用割合 100%] 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|---|--|
| 機械 | K1 | バックホウ（クローラ型）[標準型・ICT施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2011年規制）] 山積 0.8m3（平積 0.6m3）吊能力 2.9t | ・賃料 ・「オープンカット」で、施工数量 50,000m3 未満の場合 ・「片切掘削」の場合 |
| | K1 | バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）] 山積 1.4m3（平積 1.0m3） | 「オープンカット」で施工数量 50,000m3 以上の場合 |
| | K2 | ICT建設機械経費賃料加算額（バックホウ（ICT施工対応型）） | ・賃料 ・「オープンカット」で、施工数量 50,000m3 未満の場合 ・「片切掘削」の場合 |
| | | ICT建設機械経費損料加算額（バックホウ） | ・賃料 ・「オープンカット」で施工数量 50,000m3 以上の場合 |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 運転手（特殊） | |
| | R2 | 普通作業員 | 片切掘削の場合 |
| | R3 | — | |
| | R4 | — | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

(注) 1.・2. (略)

3-2 (参考)路体（築堤）盛土（ICT）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 (参考)路体（築堤）盛土(ICT) 積算条件区分一覧

(略)

- (2) 代表機材規格
下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 路体(築堤)盛土(ICT) 代表機材規格一覧
(略)

3-3 路床盛土 (ICT)

- (1) 条件区分
条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 路床盛土(ICT) 積算条件区分一覧
(略)

- (2) 代表機材規格
下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.6 路床盛土(ICT) 代表機材規格一覧
(略)

4. ICT建設機械経費加算額 (略)

5. その他ICT建設機械経費等

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

5-1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

- (1) 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]
(略)

- (2) 路体 (築堤) 盛土 (ICT), 路床盛土 (ICT)
(略)

5-2 システム初期費
(略)

- (1) 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%] 対象機械：バックホウ
(略)
- (2) 路体 (築堤) 盛土 (ICT), 路床盛土 (ICT) 対象機械：ブルドーザ
(略)

5-3 (略)

5-4 3次元出来形管理・3次元データ納品及び外注経費等にかかる費用

3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。

・共通仮設費率補正係数 : 1.2

・現場管理費率補正係数 : 1.1

※小数点第3位四捨五入2位止め

(略)

6. 参考資料 (掘削 (ICT) ※[ICT建機使用割合 100%])

6-1 (略)

(略)

- (2) 代表機材規格
下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 (参考)路体(築堤)盛土(ICT) 代表機材規格一覧
(略)

3-3 (参考)路床盛土 (ICT)

- (1) 条件区分
条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 (参考)路床盛土(ICT) 積算条件区分一覧
(略)

- (2) 代表機材規格
下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.6 (参考)路床盛土(ICT) 代表機材規格一覧
(略)

4. ICT建設機械経費加算額 (略)

5. その他ICT建設機械経費等

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

5-1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

- (1) (参考)掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]
(略)

- (2) (参考)路体 (築堤) 盛土 (ICT), (参考)路床盛土 (ICT)
(略)

5-2 システム初期費
(略)

- (1) (参考)掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%] 対象機械：バックホウ
(略)
- (2) (参考)路体 (築堤) 盛土 (ICT), (参考)路床盛土 (ICT) 対象機械：ブルドーザ
(略)

5-3 (略)

5-3 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用

3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積上げるものとする。

(新設)

(略)

6. 参考資料 ((参考)掘削 (ICT) ※[ICT建機使用割合 100%])

6-1 (略)

6-2 積算例（ICT建機使用割合100%以外の場合）

④ 作業土工(床掘工) (略)

⑤ 床掘工（ICT）

1. 適用範囲

本資料は、ICT施工において、3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術及び3次元マシンコントロール（バックホウ）技術を使用して、構造物の築造又は撤去を目的とした、平均施工幅2m以上の土砂の掘削等である床掘りに適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 床掘り（ICT）

- (1) 3D-MG又はMCバックホウによる作業土工（床掘り）（ICT）のうち、土砂におけるバックホウ床掘りの場合
- (2) 3D-MG又はMCバックホウによる作業土工（床掘り）（ICT）における、床付面の基面整正の場合

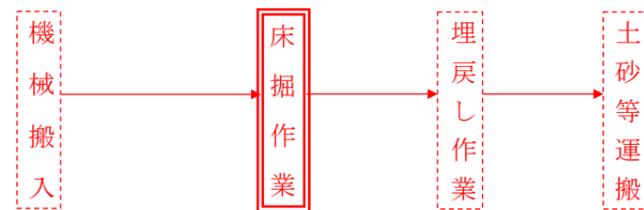
1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 床掘り（ICT）

- (1) 3D-MG又はMCバックホウ以外による作業土工（床掘り）

2. 施工概要

2-1 施工フロー



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 埋戻しは「1章土工⑤作業土工(埋戻工)」による。

7-2 積算例（ICT建機使用割合100%以外の場合）

④ 作業土工(床掘工) (略)

(新設)

3. 施工パッケージ

3-1 床掘り

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 床掘り(ICT) 積算条件区分一覧
(積算単位：m³)

| 土留方式の種類 | 障害の有無 |
|------------|-------|
| 無し | 無し |
| | 有り |
| 自立式 | 無し |
| | 有り |
| グラウンドアンカー式 | 無し |
| | 有り |
| 切梁腹起式 | 無し |
| | 有り |

(注) 1. 上表は、構造物の築造又は撤去を目的とした土砂の掘削等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。クレーン作業は含まない。

2. 基面整正を行う場合は、「1章土工④作業土工(床掘工)」により別途計上する。

3. 障害の有無

有り：①床掘作業において、障害物等により施工条件に制限がある場合（たとえば作業障害が多い場合）

②土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がある場合

無し：①構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合

②構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されない矢板のみの土留・仮締め切り工法掘削の場合

③土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がない場合

4.掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削作業を行う場合は、障害の有無で「有り」を適用する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 床掘り(ICT) 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|------|--|----|
| 機械 | K1 バックホウ（クローラ型）〔標準型・ICT施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）〕 山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）吊能力2.9t | 賃料 |
| | K2 ICT建設機械経費賃料加算額（バックホウ（ICT施工対応型）） | 賃料 |
| | K3 — | |
| 労務 | R1 運転手（特殊） | |
| | R2 普通作業員（山林砂防工） | |
| | R3 — | |
| | R4 — | |
| 材料 | Z1 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z2 — | |
| | Z3 — | |
| | Z4 — | |
| 市場単価 | S — | |

(注) 1. ICT建設機械経費賃料加算額(バックホウ(ICT施工対応型))は、地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

3-2 基面修正

「1章土工④作業土工(床掘工)」により別途計上する。

⑥ 作業土工(埋戻工) (略)

⑦ 人力運搬工 (略)

⑧ 安定処理工

1. ~2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 安定処理 積算条件区分一覧

(積算単位: m²)

| 使用機種 | 施工箇所 | 混合深さ | 固化材 100 m ² 当たり 使用量 | 混合回数 |
|--------|-------|-------------|-----------------------------------|------|
| スタビライザ | - | 0.6m以下 | (実数入力) | 1回 |
| | | 0.6mを超え1m以下 | | 2回 |
| バックホウ | 路床 | | | 1m以下 |
| | 構造物基礎 | 1m以下 | | - |
| | | 1mを超え2m以下 | | - |

(注) 1. 上表は、地盤表層部もしくは路床、構造物基礎の改良材散布混合、敷均し・締固め、養生中の飛散防止(シート掛け)、現場内小運搬(スタビライザは100m程度の仮置場~現場、バックホウの現場内小運搬(固化材の荷卸を含む)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. ~3. (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.2 安定処理 代表機材規格一覧

| 使用機種 | 施工箇所 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|--------|------|----|--|--------------------|
| スタビライザ | - | K1 | スタビライザ[路床改良用・排出ガス対策型(第2次基準値)] 処理深さ0.6m×幅2.0m | 混合深さ0.6m以下の場合 |
| | | | スタビライザ[路床改良用・排出ガス対策型(第2次基準値)] 処理深さ1.2m×幅2.0m | 混合深さ0.6mを超え1m以下の場合 |
| | | K2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付 排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.45 m ³ (平積0.35 m ³) 吊能力2.9t 吊 | 賃料 |
| | | K3 | ブルドーザ湿地[低騒音型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 7t級 | 賃料 |

⑤ 作業土工(埋戻工) (略)

⑥ 人力運搬工 (略)

⑦ 安定処理工 (略)

1. ~2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 安定処理 積算条件区分一覧

(積算単位: m²)

| 使用機種 | 施工箇所 | 混合深さ | 固化材 100 m ² 当たり 使用量 | 混合回数 |
|--------|-------|-------------|-----------------------------------|------|
| スタビライザ | - | 0.6m以下 | (実数入力) | 1回 |
| | | 0.6mを超え1m以下 | | 2回 |
| バックホウ | 路床 | | | 1m以下 |
| | 構造物基礎 | 1m以下 | | - |
| | | 1mを超え2m以下 | | - |

(注) 1. 上表は、地盤表層部もしくは路床、構造物基礎の改良材散布混合、敷均し・締固め、養生中の飛散防止(シート掛け)、現場内小運搬(スタビライザは100m程度の仮置場~現場、バックホウは50m程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. ~3. (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.2 安定処理 代表機材規格一覧

| 使用機種 | 施工箇所 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|--------|------|----|--|--------------------|
| スタビライザ | - | K1 | スタビライザ[路床改良用・排出ガス対策型(第2次基準値)] 処理深さ0.6m×幅2.0m | 混合深さ0.6m以下の場合 |
| | | | スタビライザ[路床改良用・排出ガス対策型(第2次基準値)] 処理深さ1.2m×幅2.0m | 混合深さ0.6mを超え1m以下の場合 |
| | | K2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付 排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.45 m ³ (平積0.35 m ³) 吊能力2.9t 吊 | 賃料 |
| | | K3 | ブルドーザ湿地[低騒音型・排出ガス対策型(第2次基準値)] | 賃料 |

| | | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|--------|--|----|
| | | 労務 | R1 | 運転手(特殊) | |
| | | | R2 | 普通作業員 | |
| | | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | | R4 | — | |
| | | 材料 | Z1 | セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンパック | |
| | | | Z2 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | | | Z3 | — | |
| | | | Z4 | — | |
| | | 市場単価 | S | — | |
| 使用機種 | 施工箇所 | 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
| バックホウ | 路床 | 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付 排出ガス対策型(2011年規制)] 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 吊能力2.9t 吊 | 賃料 |
| | | | K2 | タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 運転質量 8~20t | 賃料 |
| | | | K3 | 振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバイン式・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 運転質量3~4t | 賃料 |
| | | 労務 | R1 | 運転手(特殊) | |
| | | | R2 | 普通作業員 | |
| | | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | | R4 | — | |
| | | 材料 | Z1 | セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンパック | |
| | | | Z2 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | | | Z3 | — | |
| | | | Z4 | — | |
| | | 市場単価 | S | — | |
| | | バックホウ | 構造物基礎 | 機械 | K1 |
| K2 | 振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式・超低騒音型] 質量0.8~1.1t | | | | 賃料 |
| K3 | — | | | | |
| 労務 | R1 | | | 土木一般世話役 | |
| | R2 | | | 運転手(特殊) | |
| | R3 | | | 特殊作業員 | |
| | R4 | | | 普通作業員 | |
| 材料 | Z1 | | | セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンパック | |
| | Z2 | | | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z3 | | | — | |
| | Z4 | — | | | |
| 市場単価 | S | — | | | |

(注) バックホウ及び振動ローラは賃料とする。

| | | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|--------|---|----|
| | | | | 7t級 | |
| | | 労務 | R1 | 運転手(特殊) | |
| | | | R2 | 普通作業員 | |
| | | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | | R4 | — | |
| | | 材料 | Z1 | セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンパック | |
| | | | Z2 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | | | Z3 | — | |
| | | | Z4 | — | |
| | | 市場単価 | S | — | |
| 使用機種 | 施工箇所 | 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
| バックホウ | 路床 | 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付 排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 吊能力2.9t 吊 | 賃料 |
| | | | K2 | タイヤローラ [普通型・低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 運転質量 8~20t | 賃料 |
| | | | K3 | — | 賃料 |
| | | 労務 | R1 | 運転手(特殊) | |
| | | | R2 | 普通作業員 | |
| | | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | | R4 | — | |
| | | 材料 | Z1 | セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンパック | |
| | | | Z2 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | | | Z3 | — | |
| | | | Z4 | — | |
| | | 市場単価 | S | — | |
| | | バックホウ | 構造物基礎 | 機械 | K1 |
| K2 | 振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式・超低騒音型] 質量0.8~1.1t | | | | 賃料 |
| K3 | — | | | | |
| 労務 | R1 | | | 土木一般世話役 | |
| | R2 | | | 運転手(特殊) | |
| | R3 | | | 特殊作業員 | |
| | R4 | | | 普通作業員 | |
| 材料 | Z1 | | | セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンパック | |
| | Z2 | | | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z3 | | | — | |
| | Z4 | — | | | |
| 市場単価 | S | — | | | |

(注) バックホウ及び振動ローラは賃料とする。

2章 共通工

① 法面整形工 (ICT)

1.・2. (略)

3. 施工フロー
(略)

図3-1 法面整形工 (ICT) 工法選定フロー図
(略)

4. 施工パッケージ

4-1 法面整形 (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.1 法面整形 (ICT) 積算条件区分一覧

(積算単位：m2)

| 整形箇所 | 法面締固めの有無 | 土質 |
|------|----------|-------------------|
| 盛土部 | 有り | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 |
| | 無し | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 |
| 切土部 | - | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 |
| | | 軟岩 I |

(注) 1. 上表は、切土法面の表層部を削取りながらの法面整形又は盛土法面の表層部を削取りながらの法面整形及び築立てながらの法面(土羽)整形, 土羽土の現場内小運搬(20m程度)の他, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含み、クレーン作業は含まない。

2. ~3. (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表4.2 法面整形(ICT) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|------|--|----|
| 機械 | K1 バックホウ(クローラ型) [標準型・ICT施工対応型・超低騒音型 ・クレーン機能付き・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t | 賃料 |
| | K2 ICT建設機械経費賃料加算額 (バックホウ(ICT施工対応型)) | 賃料 |
| | K3 - | |
| 労務 | R1 運転手(特殊) | |
| | R2 土木一般世話役 | |
| | R3 普通作業員 | |
| | R4 - | |
| 材料 | Z1 軽油1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 - | |
| | Z3 - | |
| | Z4 - | |
| 市場単価 | S - | |

2章 共通工

① (参考)法面整形工(ICT)

1.・2. (略)

3. 施工フロー
(略)

図3-1 (参考)法面整形工 (ICT) 工法選定フロー図
(略)

4. 施工パッケージ

4-1 (参考)法面整形 (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.1 (参考)法面整形 (ICT) 積算条件区分一覧

(積算単位：m2)

| 整形箇所 | 法面締固めの有無 | 土質 |
|------|----------|-------------------|
| 盛土部 | 有り | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 |
| | 無し | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 |
| 切土部 | - | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 |
| | | 軟岩 I |

(注) 1. 上表は、切土法面の表層部を削取りながらの法面整形又は盛土法面の表層部を削取りながらの法面整形及び築立てながらの法面(土羽)整形, 土羽土の現場内小運搬(20m程度)の他, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. ~3. (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表4.2 (参考)法面整形(ICT) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|------|--|----|
| 機械 | K1 バックホウ(クローラ型) [標準型・ICT施工対応型・超低騒音型 ・クレーン機能付き・排出ガス対策型 (2011年規制)] 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t | 賃料 |
| | K2 ICT建設機械経費賃料加算額 (バックホウ(ICT施工対応型)) | 賃料 |
| | K3 - | |
| 労務 | R1 運転手(特殊) | |
| | R2 土木一般世話役 | |
| | R3 普通作業員 | |
| | R4 - | |
| 材料 | Z1 軽油1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 - | |
| | Z3 - | |
| | Z4 - | |
| 市場単価 | S - | |

(注) (略)

5. (略)

6. その他ICT建設機械経費等

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

6-1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

(1) 法面整形 (ICT)

(略)

6-2~6-3 (略)

6-4 3次元出来形管理・3次元データ納品及び外注経費等にかかる費用

3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。

・共通仮設費率補正係数 : 1.2

・現場管理費率補正係数 : 1.1

※小数点第3位四捨五入2位止め

なお、法面整形工 (ICT) において、経費の計上が適用となる出来形管理は、以下の(1)~(5)又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測とする。なお、その他の出来形管理の経費は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

(1)~(5) (略)

② 吹付法面とりこわし工~⑤ 基礎・裏込砕石工 (略)

⑥ コンクリートブロック積 (張) 工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリートブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 コンクリートブロック積 積算条件区分一覧

(積算単位: m²)

| 鉄筋規格 | 鉄筋 10 m ² 当たり使用量 |
|---------|-----------------------------|
| (表 3.2) | 0.1t 以下 |
| | 0.1t を超え 0.2t 以下 |

(注) 1. ~ 3.

(略)

4. 目地材料費は材料ロスを含んだ必要量を別途計上する。

5. ~6. (略)

(2) (略)

3-2 大型ブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

(注) (略)

5. (略)

6. その他ICT建設機械経費等

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

6-1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

(1) (参考)法面整形 (ICT)

(略)

6-2~6-3 (略)

6-4 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用

3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積上げるものとする。

(新設)

なお、法面整形工 (ICT) において、経費の計上が適用となる出来形管理は、以下の(1)~(5)又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測とする。なお、その他の出来形管理の経費は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

(1)~(5) (略)

② 吹付法面とりこわし工~⑤ 基礎・裏込砕石工 (略)

⑥ コンクリートブロック積 (張) 工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリートブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 コンクリートブロック積 積算条件区分一覧

(積算単位: m²)

| 鉄筋規格 | 鉄筋 10 m ² 当たり使用量 |
|---------|-----------------------------|
| (表 3.2) | 0.1t 以下 |
| | 0.1t を超え 0.2t 以下 |

(注) 1. ~ 3.

(略)

4. 目地材料費は必要量を別途計上する。

5. ~6. (略)

(2) (略)

3-2 大型ブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 大型ブロック積 積算条件区分一覧
(積算単位：㎡)

| |
|-----------|
| 水抜きパイプの有無 |
| 有り |
| 無し |

- (注) 1. (略)
 2. 鉄筋材料費は材料ロスを含んだ必要量を別途計上する。
 3. ～4. (略)
 5. 目地材料費は、材料ロスを含んだ必要量を別途計上する。
 6. (略)

(2) (略)

3-3～3-17 (略)

4. (略)

⑦ 石積(張)工～⑧ 平石張工 (略)

⑨ 場所打擁壁工(1)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 小型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 小型擁壁(A) 積算条件区分一覧

(積算単位：㎡)

| 擁壁平均高さ | コンクリート規格 | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | |
|---------|----------|---------------|-------------|---------------|---------------|
| (表 3.2) | (表 3.3) | 無し | 無し | 一般養生・特殊養生(練炭) | |
| | | | | 特殊養生(ジェットヒータ) | |
| | | | | 養生工無 | |
| | | | 有り | 一般養生・特殊養生(練炭) | |
| | | 特殊養生(ジェットヒータ) | | | |
| | | 養生工無 | | | |
| | | 有り | 無し | 無し | 一般養生・特殊養生(練炭) |
| | | | | | 特殊養生(ジェットヒータ) |
| 養生工無 | | | | | |
| 有り | 有り | | 有り | 一般養生・特殊養生(練炭) | |
| | | 特殊養生(ジェットヒータ) | | | |
| | | 養生工無 | | | |

- (注) 1. 上表は、小型擁壁(擁壁平均高さ 0.5m 以上 1.0m 以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、目地材(ひび割れ誘発目地除く)、水抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ))、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業を行う機械付補助労務、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートバイブレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ～8. (略)

表3.4 大型ブロック積 積算条件区分一覧
(積算単位：㎡)

| |
|-----------|
| 水抜きパイプの有無 |
| 有り |
| 無し |

- (注) 1. (略)
 2. 鉄筋材料費は必要量を別途計上する。
 3. ～4. (略)
 5. 目地材料費は、実数量(材料ロスを含んだ数量)を別途計上する。
 6. (略)

(2) (略)

3-3～3-17 (略)

4. (略)

⑦ 石積(張)工～⑧ 平石張工 (略)

⑨ 場所打擁壁工(1)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 小型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 小型擁壁(A) 積算条件区分一覧

(積算単位：㎡)

| 擁壁平均高さ | コンクリート規格 | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | |
|---------|----------|---------------|-------------|---------------|---------------|
| (表 3.2) | (表 3.3) | 無し | 無し | 一般養生・特殊養生(練炭) | |
| | | | | 特殊養生(ジェットヒータ) | |
| | | | | 養生工無 | |
| | | | 有り | 一般養生・特殊養生(練炭) | |
| | | 特殊養生(ジェットヒータ) | | | |
| | | 養生工無 | | | |
| | | 有り | 無し | 無し | 一般養生・特殊養生(練炭) |
| | | | | | 特殊養生(ジェットヒータ) |
| 養生工無 | | | | | |
| 有り | 有り | | 有り | 一般養生・特殊養生(練炭) | |
| | | 特殊養生(ジェットヒータ) | | | |
| | | 養生工無 | | | |

- (注) 1. 上表は、小型擁壁(擁壁平均高さ 0.5m 以上 1.0m 以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ))、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業を行う機械付補助労務、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートバイブレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ～8. (略)

3-2 重力式擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 重力式擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| 擁壁平均高さ | コンクリート規格 | 基礎砕石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 |
|-----------------|----------|---------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 1m 超 2m 未満 | (表 3.3) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | | | 養生工無 | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | | | 養生工無 | |
| 有り | | 無し | 一般養生 | | |
| | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | | |
| | | | 養生工無 | | |
| | | 有り | 一般養生 | | |
| | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | | |
| | | | 養生工無 | | |
| 2m 以上 5m 以下 | (表 3.3) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | 養生工無 | | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | | | |
| | | 有り | 無し | 一般養生 | |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | 養生工無 | | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | | | | | |
| 仮囲い内ジェットヒータ養生 | | | | | |
| 養生工無 | | | | | |

(注) 1. 上表は、重力式擁壁(擁壁平均高さ 1.0m以上 5.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、一般足場(擁壁平均高さが 2m未満の場合)、手摺先行型枠組足場(擁壁平均高さが 2m以上の場合)、目地材(ひび割れ誘発目地除く)、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒー)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ~9. (略)

(2) (略)

3-3 もたれ式擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

3-2 重力式擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 重力式擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| 擁壁平均高さ | コンクリート規格 | 基礎砕石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 |
|-----------------|----------|---------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 1m 超 2m 未満 | (表 3.3) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | | | 養生工無 | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | | | 養生工無 | |
| 有り | | 無し | 一般養生 | | |
| | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | | |
| | | | 養生工無 | | |
| | | 有り | 一般養生 | | |
| | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | | |
| | | | 養生工無 | | |
| 2m 以上 5m 以下 | (表 3.3) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | 養生工無 | | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | | | |
| | | 有り | 無し | 一般養生 | |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | |
| | | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | 養生工無 | | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| 特殊養生(練炭・ジェットヒー) | | | | | |
| 仮囲い内ジェットヒータ養生 | | | | | |
| 養生工無 | | | | | |

(注) 1. 上表は、重力式擁壁(擁壁平均高さ 1.0m以上 5.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、一般足場(擁壁平均高さが 2m未満の場合)、手摺先行型枠組足場(擁壁平均高さが 2m以上の場合)、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒー)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ~9. (略)

(2) (略)

3-3 もたれ式擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.8 もたれ式擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| コンクリート規格 | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 |
|------------------|---------------|------------------|------------------|-----------|
| (表 3.3) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | 養生工無 | |
| | | 有り | 一般養生 | |
| | | 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | | |
| | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | | | |
| | 養生工無 | | | |
| | 有り | 無し | 一般養生 | |
| | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | 養生工無 | |
| 有り | | 一般養生 | | |
| 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | | | | |
| 仮囲い内ジェットヒータ養生 | | | | |
| 養生工無 | | | | |

(注)1. 上表は、もたれ式擁壁(擁壁平均高さ3.0m以上8.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、足場工、目地材(ひび割れ誘発目地除く)、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生・特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ~8. (略)

(2) (略)

3-4 逆T型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 逆T型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| コンクリート規格 | 鉄筋量 | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 |
|----------|----------|---------|-------------|------------------|-----------|
| (表 3.3) | (表 3.11) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | | 養生工無 | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| 特殊養生 | | | | | |

表3.8 もたれ式擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| コンクリート規格 | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 |
|------------------|---------------|------------------|------------------|-----------|
| (表 3.3) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | 養生工無 | |
| | | 有り | 一般養生 | |
| | | 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | | |
| | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | | | |
| | 養生工無 | | | |
| | 有り | 無し | 一般養生 | |
| | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | 養生工無 | |
| 有り | | 一般養生 | | |
| 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | | | | |
| 仮囲い内ジェットヒータ養生 | | | | |
| 養生工無 | | | | |

(注)1. 上表は、もたれ式擁壁(擁壁平均高さ3.0m以上8.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、足場工、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生・特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ~8. (略)

(2) (略)

3-4 逆T型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 逆T型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| コンクリート規格 | 鉄筋量 | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 |
|------------------|----------|---------|-------------|------------------|-----------|
| (表 3.3) | (表 3.11) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | | 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | | 仮囲い内ジェットヒータ養生 | |
| | | | | 養生工無 | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|-------------------|--|----------------------|
| | | | | (練炭・ジェットヒータ) | | |
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 | | |
| | | | | 無し | | 一般養生 |
| | | | | | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) |
| | | | | 有り | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 |
| | | | | | | 一般養生 |
| | | | | 有り | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) |
| | | | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 |

(注) 1. 上表は、逆 T 型擁壁(擁壁平均高さ 3.0m以上 10.0m以下)のコンクリート、型枠 (はく離剤塗布及びケレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材 (ひび割れ誘発目地除く)、水抜パイプ、吸出し防止材 (点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具 (コンクリートパイプレータ、工事中水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等) の損料、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ～9. (略)

(2) (略)

3-5 L 型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 13 L 型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| コンクリート規格 | 鉄筋量 | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 |
|----------|----------|----------------------|-------------|----------------------|-----------|
| (表 3.3) | (表 3.11) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| | | | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 | |
| 有り | 無し | 一般養生 | | | |
| | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) | | | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|----------------------|--|----------------------|
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 | | |
| | | | | 一般養生 | | |
| | | | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) | | |
| | | | | 無し | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 |
| | | | | | | 一般養生 |
| | | | | 有り | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) |
| | | | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 |

(注) 1. 上表は、逆 T 型擁壁(擁壁平均高さ 3.0m以上 10.0m以下)のコンクリート、型枠 (はく離剤塗布及びケレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材 (点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具 (コンクリートパイプレータ、工事中水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等) の損料、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ～9. (略)

(2) (略)

3-5 L 型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 13 L 型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

| コンクリート規格 | 鉄筋量 | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 養生工の種類 | 圧送管延長距離区分 |
|----------|----------|----------------------|-------------|----------------------|-----------|
| (表 3.3) | (表 3.11) | 無し | 無し | 一般養生 | (表 3.6) |
| | | | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 | |
| | | | 有り | 一般養生 | |
| | | | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) | |
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 | |
| 有り | 無し | 一般養生 | | | |
| | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) | | | |

| | | | | |
|--|--|--|----|----------------------|
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 |
| | | | 有り | 一般養生 |
| | | | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) |
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 |

(注)1. 上表は、L型擁壁(擁壁平均高さ3.0m以上7.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材(ひび割れ誘発目地除く)、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ～9. (略)

(2) (略)

3-6～3-10 (略)

⑩ 場所打擁壁工(2)～⑪ プレキャスト擁壁工 (略)

⑫ 補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁・ジオテキスタイル補強土壁)

1. 適用範囲

本資料は、補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁・ジオテキスタイル補強土壁)の施工に適用する。なお、ジオテキスタイル補強土壁(鋼製枠タイプ)は「2章⑬補強盛土工」による。

1-1 適用できる範囲

- (1) 帯鋼補強土壁において、コンクリート壁面材(薄型壁面材も含む)によるもの
- (2) アンカー補強土壁において、コンクリート壁面材によるもの
- (3) ジオテキスタイル補強土壁において、コンクリート製壁面材と簡易鋼製枠を有する二重壁タイプによるもの帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁・ジオテキスタイル補強土壁の標準仕様を表1.1に示す。

表1.1 帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁・ジオテキスタイル補強土壁における壁面材・補強材の仕様

| 工種 | 帯鋼補強土壁 | アンカー補強土壁 | ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ) |
|--------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 標準壁面形状 | 十字型の1.5m×1.5m (高さ×長さ) | 1.0m×1.5～1.6m (高さ×長さ) | 0.9m×1.25m (高さ×長さ) |
| 補強材 | ストリップ幅:60～80mm | SNR400規格、SNR490規格 | ジオテキスタイル |
| 壁面材強度 | コンクリート設計基準強度:21～30N/mm ² | 40N/mm ² 以上 | 30N/mm ² |
| (削る) | (削る) | (削る) | |

| | | | | |
|--|--|--|----|----------------------|
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 |
| | | | 有り | 一般養生 |
| | | | | 特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) |
| | | | | 仮囲い内 ジェットヒータ養生 |

(注)1. 上表は、L型擁壁(擁壁平均高さ3.0m以上7.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. ～9. (略)

(2) (略)

3-6～3-10 (略)

⑩ 場所打擁壁工(2)～⑪ プレキャスト擁壁工 (略)

⑫ 補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁)

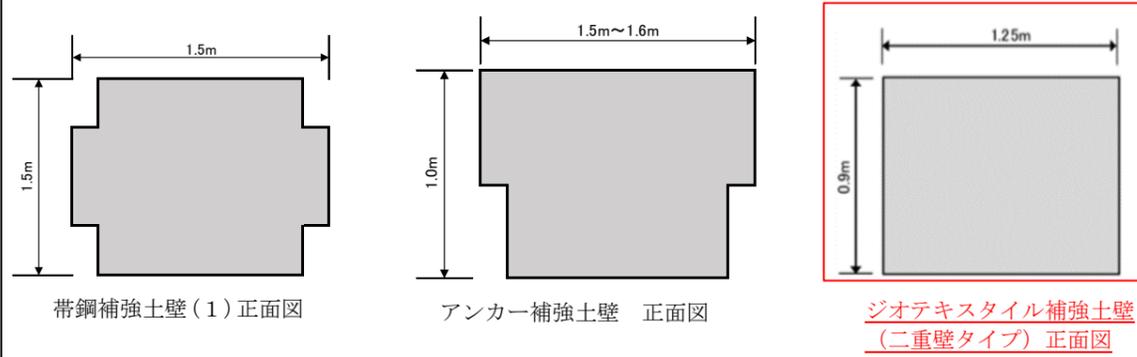
1. 適用範囲

本資料は、補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)において、コンクリート製壁面材(帯鋼補強土壁においては、薄型壁面材含む)によるものに適用する。なお、帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁の標準仕様を表1.1に示す。

表1.1 帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の仕様

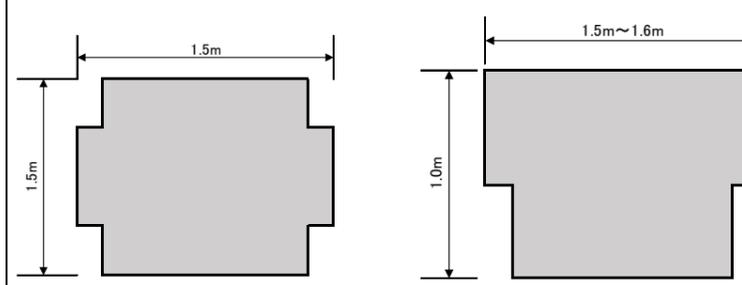
| 工種 | 帯鋼補強土壁 | アンカー補強土壁 | (新設) |
|--------|-------------------------------------|---|------|
| 標準壁面形状 | 十字型の1.5m×1.5m (高さ×長さ) | 1.0m×1.5～1.6m (高さ×長さ) | (新設) |
| 補強材 | ストリップ幅:60～80mm | SS400規格、SS490規格 | (新設) |
| 壁面材強度 | コンクリート設計基準強度:21～30N/mm ² | コンクリート設計基準強度:30N/mm ² 、40N/mm ² | (新設) |
| 盛土 | 1層仕上り高さ:25cm | 1層仕上り高さ:25cm | |

参考図. 各工種の標準壁面形状



- (注) 1. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形式である。
2. 本施工パッケージは、壁面最上部 (ハーフ)、最下段部 (ハーフ)、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用出来る。

参考図. 各工種の標準壁面形状

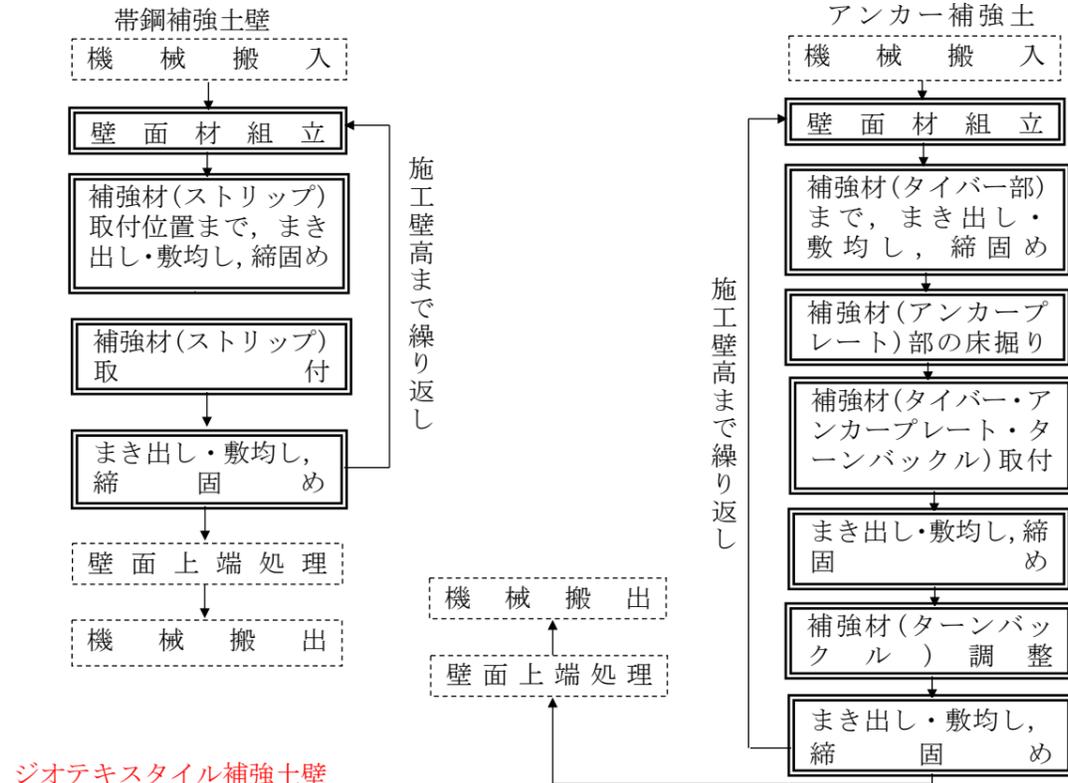


(新設)

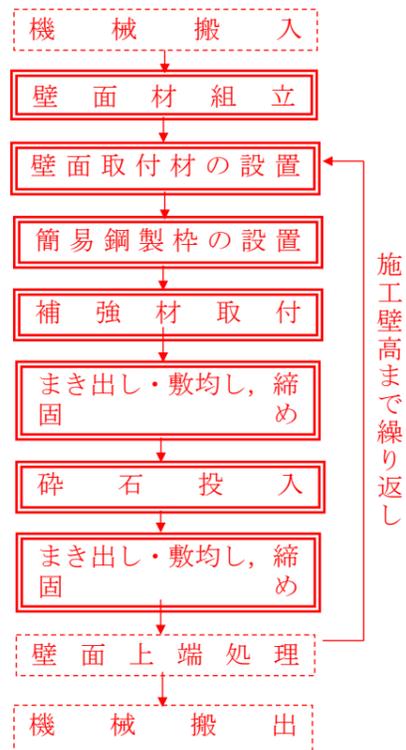
- (注) 1. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形式である。
2. 本施工パッケージは、壁面最上部 (ハーフ)、最下段部 (ハーフ)、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用出来る。

2. 施工概要

施工フローは下記を標準とする。



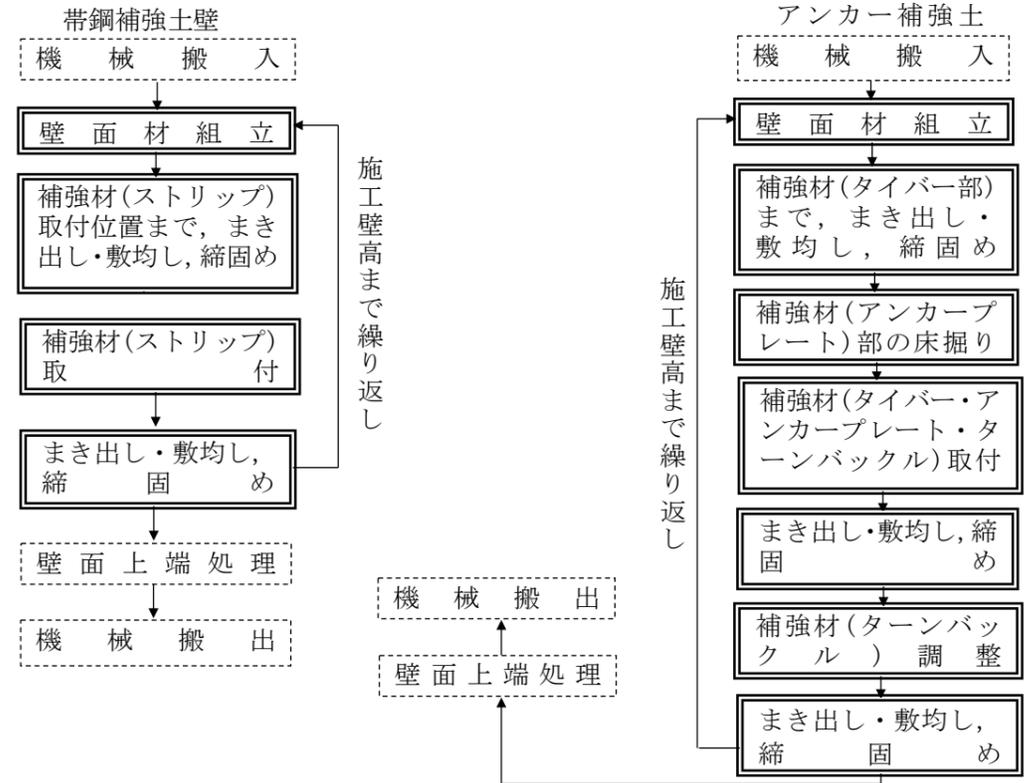
ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ)



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 施工概要

施工フローは下記を標準とする。



(新設)

(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 補強土壁壁面材組立・設置

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 補強土壁壁面材組立・設置 積算条件区分一覧
(積算単位：㎡)

| |
|----------------------------------|
| 工法区分 |
| 帯鋼補強土壁 (1) |
| アンカー補強土壁 |
| <u>ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ)</u> |

(注) 1. 上表は、帯鋼補強土壁 (1)・帯鋼補強土壁 (2)・アンカー補強土壁の壁面材の組立・設置、水平目地材、透水防砂材の設置の他、クランプ、定規、ワイヤ、吊金具、カップラー、くさび、スペーサー、角材、支柱等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。ただし、補強土壁壁面材 (材料費) は含まない。

2. 上表は、ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ) の壁面材組立・設置、パネル付属部材、縦目地シート、吸出し防止材 (縦目地用)、壁面取付材及び簡易鋼製枠の設置の他、吊ワイヤ、吊金具、ハンマ、バール等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。ただし、補強土壁壁面材 (材料費) は含まない。

3. 壁面材の材料費は別途計上する。

4. 基礎コンクリートについては、「3章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。

5. 現場条件により表3.2に示す代表機械の規格により難しい場合は、別途考慮する。

6. 排水管が必要な場合は別途計上する。

7. 足場が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.2 補強土壁壁面材組立・設置 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|---|------|
| 機械 | K1 | <u>バックホウ (クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積 0.5m³ (平積 0.4m³) 吊能力 2.9t</u> | 賃料 |
| | K2 | — | (削る) |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 運転手 (特殊) | |
| | R2 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | 特殊作業員 | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3. 施工パッケージ

3-1 補強土壁壁面材組立・設置

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 補強土壁壁面材組立・設置 積算条件区分一覧
(積算単位：㎡)

| |
|-------------|
| 工法区分 |
| 帯鋼補強土壁 (1) |
| アンカー補強土壁 |
| <u>(新設)</u> |

(注) 1. 上表は、補強土壁工 (帯鋼補強土壁 (1)・帯鋼補強土壁 (2)・アンカー補強土壁) の壁面材の組立・設置、水平目地材、透水防砂材、ボルトナットの設置の他、クランプ、定規、ワイヤ、吊金具、カップラー、くさび、スペーサー、角材、支柱等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。ただし、補強土壁壁面材 (材料費) は含まない。

(新設)

2. 壁面材の材料費は別途計上する。

3. 基礎コンクリートについては、「3章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。

4. 現場条件により表3.2に示す代表機械の規格により難しい場合は、別途考慮する。

5. 排水管が必要な場合は別途計上する。

6. 足場が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.2 補強土壁壁面材組立・設置 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|--|----|
| 機械 | K1 | <u>ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次)] 25t吊</u> | 賃料 |
| | K2 | <u>バックホウ (クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.5 m³ (平積 0.4 m³) 吊能力 2.9t</u> | 賃料 |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 運転手 (特殊) | |
| | R2 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | 特殊作業員 | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-2 補強土壁壁面材（材料費）

(1) 条件区分

補強土壁壁面材（材料費）に条件区分はない。

積算単位は㎡とする。

(注) 1. 帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁の材料費には、水平目地材、透水防砂材等を含む。

2. ジオテキスタイル補強土壁（二重壁タイプ）の材料費には、パネル付属部材、縦目材シート、吸出し防止材（縦目地用）、壁面取付材及び簡易鋼製枠等を含む。

3-3 補強材取付

3-3-1 補強材取付（帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 補強材取付 積算条件区分一覧
(積算単位：m)

| 工法区分 |
|-----------|
| 帯鋼補強土壁（1） |
| アンカー補強土壁 |

(注) 1. 上表は、補強土壁工（帯鋼補強土壁（1）・帯鋼補強土壁（2）・アンカー補強土壁）の補強材の取付、結合作業（ボルト・ナット等による）の他、アンカー補強土壁におけるターンバックルの設置・調整等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、補強材（材料費）は含まない。

2. 補強材の材料費は別途計上する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 補強材取付（帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁）代表機材規格一覧

| 項目 | | 代表機材規格 | 備考 |
|------|----|--------------|----|
| 機械 | K1 | — | |
| | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 普通作業員（山林砂防工） | |
| | R2 | 土木一般世話役 | |
| | R3 | 特殊作業員 | |
| | R4 | — | |
| 材料 | Z1 | — | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-3-2 補強材取付（ジオテキスタイル補強土壁（二重壁タイプ））

(1) 条件区分

補強材取付（ジオテキスタイル補強土壁（二重壁タイプ））における条件区分ない。

積算単位は、m²とする。

(注) 1. 上表は、補強土壁工（ジオテキスタイル補強土壁）の補強材の取付け、結合作業の他、補強材取付に使用する杭、ハンマ、スコップ、バール等の費用、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、補強材（材料費）は含まない。

2. 補強材の材料費は別途計上する。

3-2 補強土壁壁面材（材料費）

(1) 条件区分

補強土壁壁面材（材料費）に条件区分はない。

積算単位は㎡とする。

(注) 材料費には、水平目地材、透水防砂材、ボルト・ナット等を含む。
（新設）

3-3 補強材取付

（新設）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 補強材取付 積算条件区分一覧
(積算単位：m)

| 工法区分 |
|-----------|
| 帯鋼補強土壁（1） |
| アンカー補強土壁 |

(注) 1. 上表は、補強土壁工（帯鋼補強土壁（1）・帯鋼補強土壁（2）・アンカー補強土壁）の補強材の取付、結合作業の他、アンカー補強土壁におけるターンバックルの設置・調整等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、補強材（材料費）は含まない。

2. 補強材の材料費は別途計上する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 補強材取付 代表機材規格一覧

| 項目 | | 代表機材規格 | 備考 |
|------|----|--------------|----|
| 機械 | K1 | — | |
| | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 普通作業員（山林砂防工） | |
| | R2 | 土木一般世話役 | |
| | R3 | 特殊作業員 | |
| | R4 | — | |
| 材料 | Z1 | — | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

（新設）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 補強材取付(ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ)) 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|------|---------|--------------|
| 機械 | K1 | 二 |
| | K2 | 二 |
| | K3 | 二 |
| 労務 | R1 | 普通作業員(山林砂防工) |
| | R2 | 土木一般世話役 |
| | R3 | 特殊作業員 |
| | R4 | 二 |
| 材料 | Z1 | 二 |
| | Z2 | 二 |
| | Z3 | 二 |
| | Z4 | 二 |
| 市場単価 | S | 二 |

3-4 補強材(材料費)

3-4-1 補強材(材料費)(帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁)

(1) 条件区分

補強材(材料費)に条件区分はない。

積算単位はmとする。

(注) 材料費には、アングル、ターンバックル、アンカープレート、連結部材、ボルト・ナット等を含む。

3-4-2 補強材(材料費)(ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ))

(1) 条件区分

補強材(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位は、m²とする。

(注) 連結金具等を含む。

3-5 まき出し・敷均し、締固め

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 まき出し・敷均し、締固め 積算条件区分一覧
(積算単位：m³)

| 工法区分 |
|-----------------------------|
| 帯鋼補強土壁(1) |
| アンカー補強土壁 |
| <u>ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ)</u> |

- (注) 1. 上表は、補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁・ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ))のまき出し、敷均し、締固めの他、振動ローラ(舗装用・ハンドガイド式)、タンパの運転経費等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 施工量の範囲は、壁面上端までと補強材後部までの盛土を対象とする(参考図参照)。
3. 現場条件により表3.7に示す代表機械の規格により難しい場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

3-4 補強材(材料費)

(新設)

(1) 条件区分

補強材(材料費)に条件区分はない。

積算単位はmとする。

(注) 材料費には、アングル、ターンバックル、アンカープレート、連結部材等を含む。

(新設)

3-5 まき出し・敷均し、締固め

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 まき出し・敷均し、締固め 積算条件区分一覧
(積算単位：m³)

| 工法区分 |
|-----------|
| 帯鋼補強土壁(1) |
| アンカー補強土壁 |
| (新設) |

- (注) 1. 上表は、補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)のまき出し、敷均し、締固めの他、振動ローラ(舗装用・ハンドガイド式)、タンパの運転経費等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 施工量の範囲は、壁面上端までと補強材後部までの盛土を対象とする(参考図参照)。
3. 現場条件により表3.6に示す代表機械の規格により難しい場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 7 まき出し・敷均し、締固め 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | | 備考 |
|------|---------|--|------|
| 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] 山積0.5m ³ (平積0.4m ³) 吊能力2.9t | 賃料 |
| | K2 | 振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバイン式・排出ガス対策型(第3次基準値)] 運転質量3~4t | 賃料 |
| | K3 | — | (削る) |
| 労務 | R1 | 運転手(特殊) | |
| | R2 | 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | 特殊作業員 | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-6 (略)

3-7 砕石投入

(1) 条件区分

砕石投入は、ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ)にのみ適用する。
積算単位は、m³とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 8 砕石投入工 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | | 備考 |
|----|---------|--|----|
| 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] 山積0.5m ³ (平積0.4m ³) 吊能力2.9t | 賃料 |
| | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R2 | 特殊作業員 | |
| | R3 | 運転手(特殊) | |
| | R4 | 土木一般世話役 | |
| 材料 | Z1 | — | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |

表3. 6 まき出し・敷均し、締固め 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | | 備考 |
|------|---------|---|----|
| 機械 | K1 | ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型(第2次基準値)] 7t級 | 賃料 |
| | K2 | バックホウ(クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.5m ³ (平積0.4m ³) 吊能力2.9t | 賃料 |
| | K3 | 振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型(第2次基準値)] 質量3~4t | 賃料 |
| 労務 | R1 | 運転手(特殊) | |
| | R2 | 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | 特殊作業員 | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-6 (略)

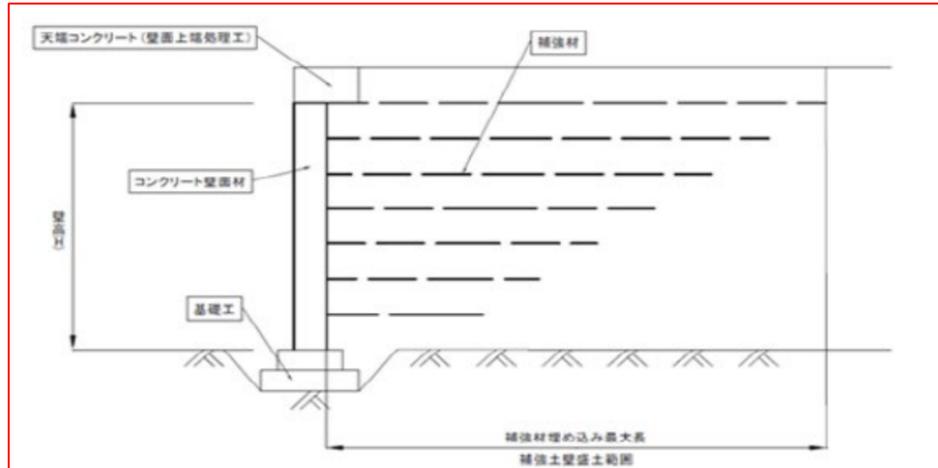
(新設)

3-8 壁面上端処理工

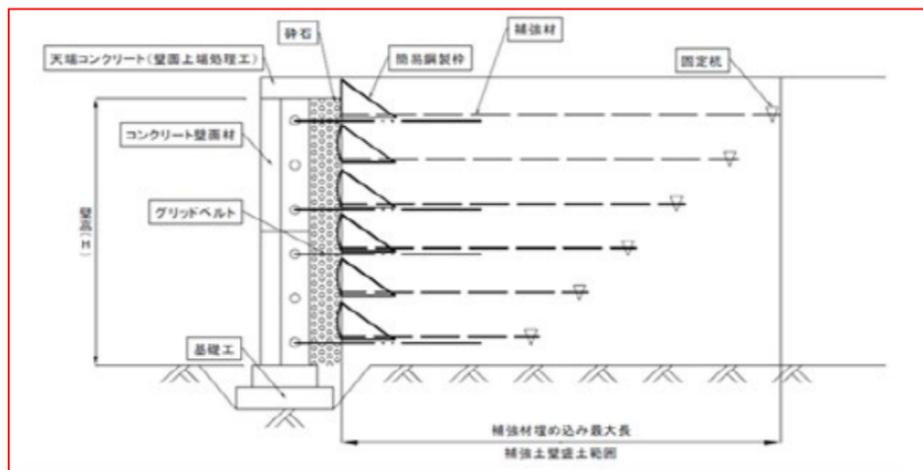
壁面上端処理を施工する場合は、下記による。

- ① コンクリート工
「3章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。
- ② 型枠工
「3章コンクリート工②型枠工」により別途計上する。
- ③ 鉄筋工
鉄筋工は、市場単価により別途計上する。

[参考図]



帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁工標準断面図



ジオテキスタイル補強土壁工標準断面図 (二重壁タイプ)

(注) 天端コンクリート施工等の足場については、別途考慮する。

⑬ 補強盛土工

1. 適用範囲

本資料は、ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強盛土及びジオテキスタイル補強土壁（鋼製枠タイプ）に適用する。ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

1-1 適用出来る範囲

3-7 壁面上端処理工

壁面上端処理を施工する場合は、下記による。

- ① コンクリート工
「3章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。
- ② 型枠工
「3章コンクリート工②型枠工」により別途計上する。
- ③ 鉄筋工
鉄筋工は、市場単価により別途計上する。

[参考図]

(新設)

(新設)

(注) 天端コンクリート施工等の足場については、別途考慮する。

⑬ ジオテキスタイル工

1. 適用範囲

本資料は、ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

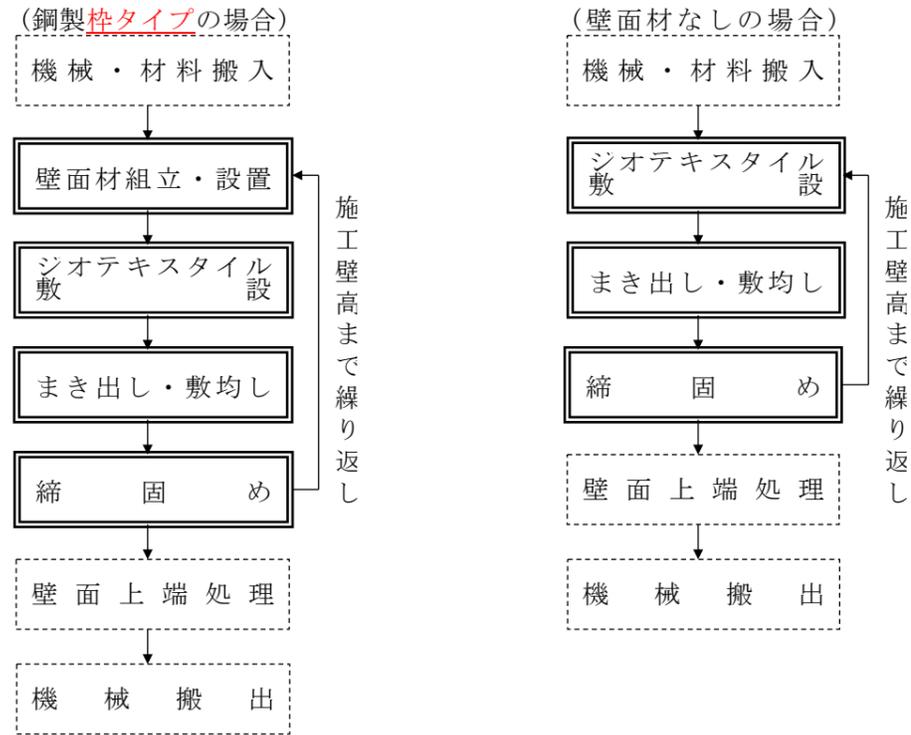
1-1 適用出来る範囲

- 1-1-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置
 - (1) 鋼製**枠タイプ**の場合
 - 1-1-2 (略)

1-2 適用出来ない範囲 (略)

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージに対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

- 3-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置
 - (1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置 代表機材規格一覧 (略)

表3.2 壁面材の種類

| 壁面材種類 | 規格 | | 備考 |
|----------------|--------|----------|------|
| | 幅 (mm) | 一層当たり施工高 | |
| 鋼製 枠タイプ | 2,000 | 500mm 以下 | タイプA |
| | 2,000 | 600mm 以下 | タイプB |
| | 1,000 | 600mm 以下 | タイプC |
| | 1,200 | 600mm 以下 | タイプD |

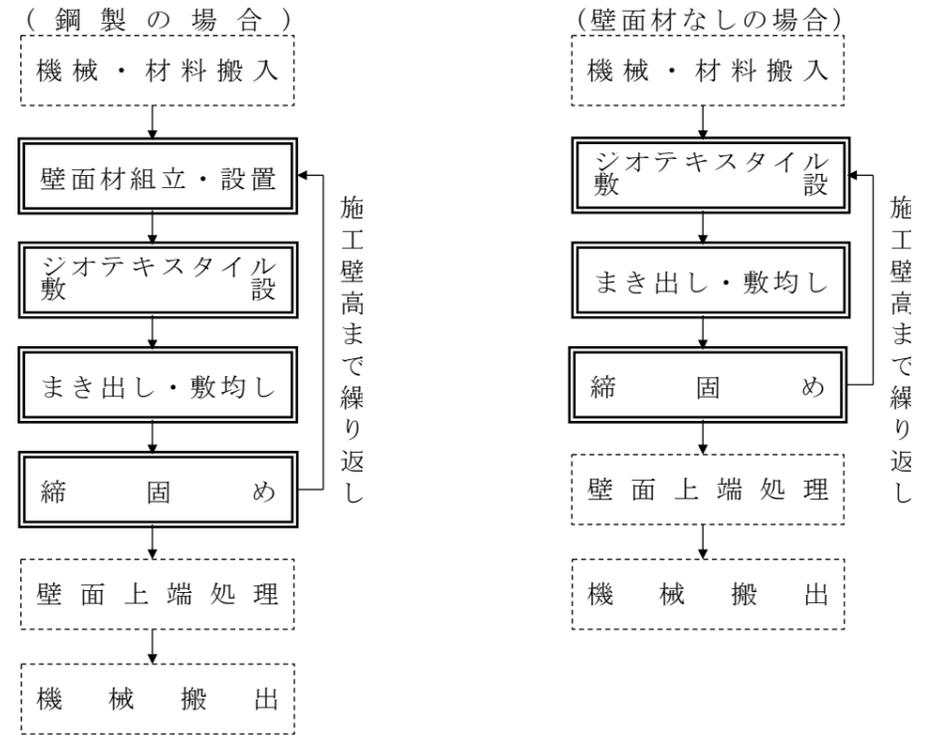
(注) 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

- 1-1-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置
 - (1) 鋼製**ユニット**の場合
 - 1-1-2 (略)

1-2 適用出来ない範囲 (略)

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージに対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

- 3-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置
 - (1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置 代表機材規格一覧 (略)

表3.2 壁面材の種類

| 壁面材種類 | 規格 | | 備考 |
|----------------|--------|----------|------|
| | 幅 (mm) | 一層当たり施工高 | |
| 鋼製 ユニット | 2,000 | 500mm 以下 | タイプA |
| | 2,000 | 600mm 以下 | タイプB |
| | 1,000 | 600mm 以下 | タイプC |
| | 1,200 | 600mm 以下 | タイプD |

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

3-2 (略)

3-3 ジオテキスタイル敷設

(1) 条件区分
(略)

(注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び盛土補強工のジオテキスタイルの敷設(ジオテキスタイル巻込み作業含む)の他、ジオテキスタイル敷設に使用する杭、ハンマ、スコップ、バール等、その施工に要する全ての費用を含む。ただし、ジオテキスタイル(材料費)は含まない。

2. ~ 4. (略)

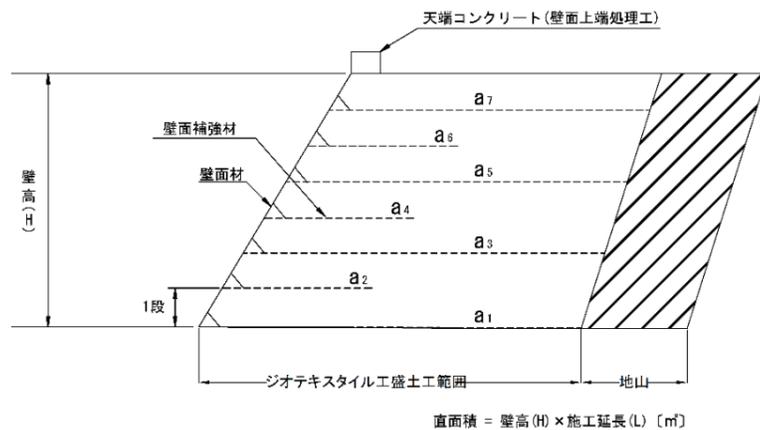


図3.1 補強盛土工標準断面図(参考図)

(2) (略)

3-4 まき出し・敷均し、締固め

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 まき出し・敷均し、締固め 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|------|--|----|
| 機械 | K1 バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 山積0.5 m ³ (平積0.4 m ³) | 賃料 |
| | K2 振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバイン式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t | |
| | K3 - | |
| 労務 | R1 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R2 特殊作業員 | |
| | R3 土木一般世話役 | |
| | R4 運転手(特殊) | |
| 材料 | Z1 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 - | |
| | Z3 - | |
| | Z4 - | |
| 市場単価 | S - | |

3-2 (略)

3-3 ジオテキスタイル敷設

(1) 条件区分
(略)

(注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び盛土補強工のジオテキスタイルの敷設(ジオテキスタイル巻込み作業含む)の他、ジオテキスタイル敷設に使用する杭、ハンマ、バール、結束線等、その施工に要する全ての費用を含む。ただし、ジオテキスタイル(材料費)は含まない。

2. ~ 4. (略)

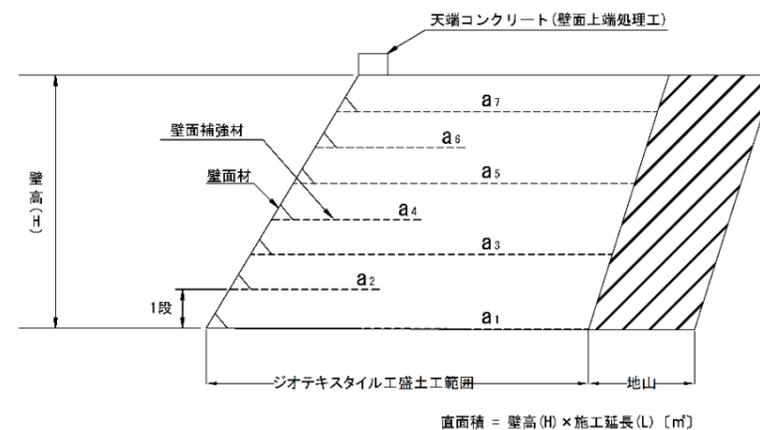


図3.1 ジオテキスタイル工標準断面図(参考図)

(2) (略)

3-4 まき出し・敷均し、締固め

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

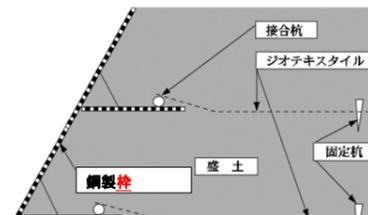
表3.4 ジオテキスタイル敷設 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|------|---|----|
| 機械 | K1 バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積0.5 m ³ (平積0.4 m ³) | 賃料 |
| | K2 - | |
| | K3 - | |
| 労務 | R1 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R2 特殊作業員 | |
| | R3 土木一般世話役 | |
| | R4 運転手(特殊) | |
| 材料 | Z1 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 - | |
| | Z3 - | |
| | Z4 - | |
| 市場単価 | S - | |

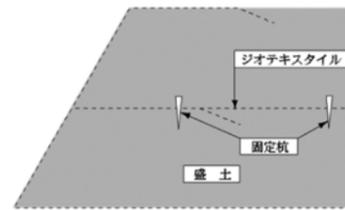
3-5~3-7 (略)

4. 参考資料

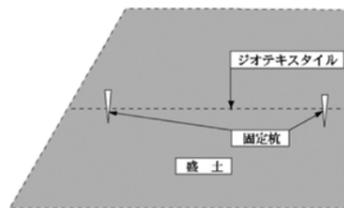
4-1 施工法(工法)参考図



図A 鋼製樁タイプ工法参考図



図B 巻込み工法(壁面材なし)参考図



図C 普通敷設工法(壁面材なし)参考図

表4.1 施工法別施工パッケージ適用表

| 適用 | 壁面材設置・組立 | ジオテキスタイル敷設 まき出し・敷均し, 締固め |
|---------------------------|----------|-----------------------------|
| 施工法(工法) 鋼製樁タイプ工法 図A | ○ | ○ |
| 巻込み工法 (壁面材なし) 図B | × | ○ |
| 普通敷設工法 (壁面材なし) 図C | × | ○ |

4-2 壁面材使用量

壁面材の実面積(直面積)100㎡当たり鋼製樁タイプ使用量は, 次表を参考とする。

表4.2 鋼製樁タイプ標準使用量

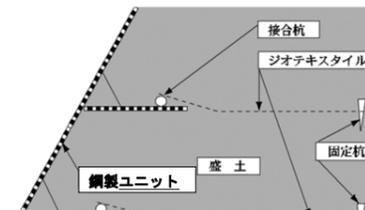
(直面積)100㎡当たり

| 壁面材種類 | タイプ | 一層当たり施工高 | 単位 | 数量 | 標準図 |
|--------|------|----------|----|-----|-----|
| 鋼製樁タイプ | タイプA | 500mm以下 | 個 | 100 | 図① |
| | タイプB | 600mm以下 | | 83 | |
| | タイプC | 600mm以下 | | 167 | |
| | タイプD | 600mm以下 | | 139 | |

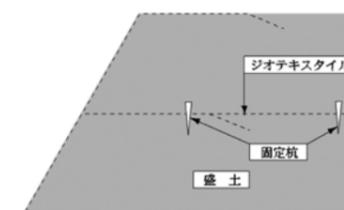
3-5~3-7 (略)

4. 参考資料

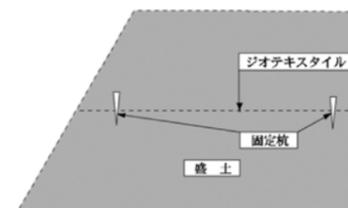
4-1 施工法(工法)参考図



図A 鋼製ユニット工法参考図



図B 巻込み工法(壁面材なし)参考図



図C 普通敷設工法(壁面材なし)参考図

表4.1 施工法別施工パッケージ適用表

| 適用 | 壁面材設置・組立 | ジオテキスタイル敷設 まき出し・敷均し, 締固め |
|---------------------------|----------|-----------------------------|
| 施工法(工法) 鋼製ユニット工法 図A | ○ | ○ |
| 巻込み工法 (壁面材なし) 図B | × | ○ |
| 普通敷設工法 (壁面材なし) 図C | × | ○ |

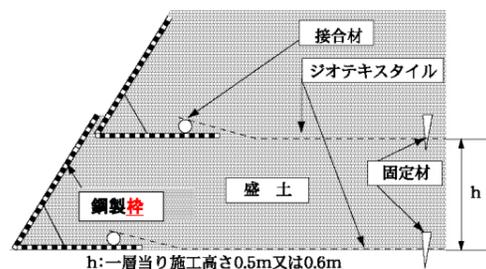
4-2 壁面材使用量

壁面材の実面積(直面積)100㎡当たり鋼製ユニット使用量は, 次表を参考とする。

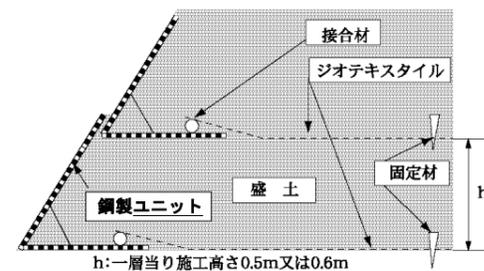
表4.2 鋼製ユニット標準使用量

(直面積)100㎡当たり

| 壁面材種類 | タイプ | 一層当たり施工高 | 単位 | 数量 | 標準図 |
|--------|------|----------|----|-----|-----|
| 鋼製ユニット | タイプA | 500mm以下 | 個 | 100 | 図① |
| | タイプB | 600mm以下 | | 83 | |
| | タイプC | 600mm以下 | | 167 | |
| | タイプD | 600mm以下 | | 139 | |



図① 鋼製枠タイプ施工数量標準図



図① 鋼製ユニット施工数量標準図

⑭ 排水構造物工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 ヒューム管 (B形管) (略)

3-2 ボックスカルバート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 ボックスカルバート 積算条件区分一覧

表 (略)

(注)1. 上表は、現場内小運搬 (運搬車から直接据え付ける場合も含む)、ボックスカルバートの設置、PC鋼材による縦締め、基礎砕石、均しコンクリート、型枠 (剥離材塗布及びケレン作業を含む)、養生、敷モルタル、目地モルタル、グラウト材、レバーブロック、油圧ジャッキ (ポンプを含む)、グラウトポンプ、ハンドミキサーの損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。

ただし、PC鋼材材料費、定着金具材料費は含まない。

2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。

3. PC鋼材を使用しない場合において、高力ボルト連結、ボンド連結等による施工にも適用できる。

4. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は最大値とする。

5. PC鋼材、定着金具の材料費は、別途必要量を計上する。

6. 製品表とは、一連のボックスカルバートの標準的な1部材の有効長であり、有効長未満の部材及び縮尺、片斜切、横孔等の特殊加工部材が含まれる場合も適用できる。

7. 縦締めは、直線部にのみ適用する。

8. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。

9. 基礎砕石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用出来る。

10. 撤去作業の場合、基礎砕石は含まない。

11. 製品長が1個当たり1.0mの場合、PC鋼材による縦締めの費用は含まない。

12. 床掘り、基面整正、埋戻し、残土処理は含まない。

表3.8～表3.9、図3-1 (略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

⑭ 排水構造物工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 ヒューム管 (B形管) (略)

3-2 ボックスカルバート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 ボックスカルバート 積算条件区分一覧

表 (略)

(注)1. 上表は、ボックスカルバートの設置、PC鋼材による縦締め、基礎材、均しコンクリート、型枠 (剥離材塗布及びケレン作業を含む)、養生、敷モルタル、目地モルタル、グラウト、運搬距離30m程度までの現場内小運搬、レバーブロック、油圧ジャッキ (ポンプを含む)、グラウトポンプ、ミキサーの損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。

ただし、PC鋼材材料費、定着金具材料費は含まない。

2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
(新設)

3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は最大値とする。

4. PC鋼材、定着金具は、別途必要量を計上する。

(新設)

5. 縦締めは、直線部にのみ適用する。

6. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。

7. 基礎砕石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用出来る。

8. 撤去作業の場合、基礎砕石は含まない。

9. 製品長が1個当たり1.0mの場合、PC鋼材による縦締めの費用は含まない。

10. 基面整正は含まない。

表3.8～表3.9、図3-1 (略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.10 ボックスカルバート 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|---|---|---|
| 機械 | K 1 | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 低騒音型 ・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25 t 吊 | ・賃料 ・内空高 2.5m以下の場合 |
| | K 2 | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 低騒音型 ・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50 t 吊 | ・賃料 ・内空高 2.5m超の場合 |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R 2 | 土木一般世話役 | |
| | R 3 | 特殊作業員 | |
| | R 4 | — | |
| 材料 | Z 1 | ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m≤H≤2.5mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.0m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m, 1.25m<H≤2.5mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B1500×H1000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 0m<H≤1.25mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m<H≤2.5mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m, 1.25m≤H≤2.5mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B3000×H3000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m≤B≤3.75m, 2.5m<H≤3.75mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B600×H600×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m, 0m<H≤1.25mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B1500×H1000×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 0m<H≤1.25mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B1000×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m, 1.25m<H≤2.5mの場合 |
| | ボックスカルバート RC B1500×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m<H≤2.5mの場合 | |
| Z 2 | — | | |
| Z 3 | — | | |
| Z 4 | — | | |
| 市場単価 | S | — | |

3-3~3-10 (略)

3-11 PC管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.28 PC管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

| 作業区分 | 管 径 | 固定基礎 | 生コンクリート規格 |
|------|-----------|--------|-----------|
| 据 付 | (表 3. 29) | 90° 巻き | (表 3. 5) |

表3.10 ボックスカルバート 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|---|---|---|
| 機械 | K 1 | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25 t 吊 | ・賃料 ・内空高 2.5m以下の場合 |
| | K 2 | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型(第1次基準値)] 40 t 吊 | ・賃料 ・内空高 2.5m超の場合 |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R 2 | 土木一般世話役 | |
| | R 3 | 特殊作業員 | |
| | R 4 | — | |
| 材料 | Z 1 | ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m≤H≤2.5mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.0m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m, 1.25m<H≤2.5mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B1500×H1000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 0m<H≤1.25mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m<H≤2.5mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m, 1.25m≤H≤2.5mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B3000×H3000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m≤B≤3.75m, 2.5m<H≤3.75mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B600×H600×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m, 0m<H≤1.25mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B1500×H1000×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 0m<H≤1.25mの場合 |
| | | ボックスカルバート RC B1000×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m, 1.25m<H≤2.5mの場合 |
| | ボックスカルバート RC B1500×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m | 作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m<H≤2.5mの場合 | |
| Z 2 | — | | |
| Z 3 | — | | |
| Z 4 | — | | |
| 市場単価 | S | — | |

3-3~3-10 (略)

3-11 PC管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.28 PC管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

| 作業区分 | 管 径 | 固定基礎 | 生コンクリート規格 |
|------|-----------|--------|-----------|
| 据 付 | (表 3. 29) | 90° 巻き | (表 3. 5) |

| | | | |
|-------|--|---------|---|
| | | 180° 巻き | |
| | | 無し | — |
| 撤去 | | — | — |
| 据付・撤去 | | — | — |

(注)1. 上表は、PC管の設置、基礎砕石、巻きコンクリート(コンクリート、型枠)、運搬距離30m程度までの現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、PC管の材料費は含まない。

2. ～6. 表3. 29 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 30 PC管 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|------|---|--|-------------------------------|
| 機械 | K 1 | トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]4.9t 吊 | ・賃料 ・管径が600mmの場合 |
| | | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]16t 吊 | ・賃料 ・管径が700mm～1,350mmの場合 |
| | | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]20t 吊 | ・賃料 ・管径が1,500mm～1,650mmの場合 |
| | | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]25t 吊 | ・賃料 ・管径が1,800mmの場合 |
| | | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]35t 吊 | ・賃料 ・作業区分が撤去、管径が2,000mmの場合 |
| | K 2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2011年規制)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | ・賃料 ・作業区分が据付の場合 |
| K 3 | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2011年規制)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³)吊能力2.9t | ・賃料 ・管径が1,350mm～1,800mm、固定基礎が180°巻きの場合の場合 | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R 2 | 型わく工 運転手(特殊) | 固定基礎が有る場合 上記以外の場合 |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | 特殊作業員 | |
| 材料 | Z 1 | 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60% | 固定基礎が有る場合 |
| | Z 2 | | |
| | Z 3 | | |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-12 (略)

⑮ 排水構造物工 現場打ち水路(本体)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち水路(本体)

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

| | | | |
|-------|--|---------|---|
| | | 180° 巻き | |
| | | 無し | — |
| 撤去 | | — | — |
| 据付・撤去 | | — | — |

(注)1. 上表は、PC管の設置、基礎砕石、巻きコンクリート(コンクリート、型枠)、運搬距離30m程度までの現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. ～6. 表3. 29 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 30 PC管 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|------|--|--|-------------------------------|
| 機械 | K 1 | トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]4.9t 吊 | ・賃料 ・管径が600mmの場合 |
| | | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]16t 吊 | ・賃料 ・管径が700mm～1,350mmの場合 |
| | | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]20t 吊 | ・賃料 ・管径が1,500mm～1,650mmの場合 |
| | | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]25t 吊 | ・賃料 ・管径が1,800mmの場合 |
| | | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]35t 吊 | ・賃料 ・作業区分が撤去、管径が2,000mmの場合 |
| | K 2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2011年規制)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | ・賃料 ・作業区分が据付の場合 |
| K 3 | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³)吊能力2.9t | ・賃料 ・管径が1,350mm～1,800mm、固定基礎が180°巻きの場合の場合 | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R 2 | 型わく工 運転手(特殊) | 固定基礎が有る場合 上記以外の場合 |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | 特殊作業員 | |
| 材料 | Z 1 | 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60% | 固定基礎が有る場合 |
| | Z 2 | | |
| | Z 3 | | |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-12 (略)

⑮ 排水構造物工 現場打ち水路(本体)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち水路(本体)

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.6 現場打ち水路(本体) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|------|--------|---|
| 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2011年規制)]山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 賃料 |
| | K2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2011年規制)] 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9t ・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合 |
| | K3 | 業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油 ・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合 |
| 労務 | R1 | 普通作業員(山林砂防工) |
| | R2 | 型わく工 |
| | R3 | 土木一般世話役 |
| | R4 | 特殊作業員 |
| 材料 | Z1 | 生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60% |
| | Z2 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13 鉄筋有りの場合 |
| | Z3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー 特殊養生(ジェットヒータ)の場合 |
| | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 |
| 市場単価 | S | 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物 鉄筋有りの場合 |

⑩ 排水構造物工 現場打ち集水桝・街渠桝(本体)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち集水桝・街渠桝(本体)

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的規格である。

表3.5 現場打ち集水桝・街渠桝(本体) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|----|--------|--|
| 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2011年規制)]山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 賃料 |
| | K2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2011年規制)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 ・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合 |

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.6 現場打ち水路(本体) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|------|--------|---|
| 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2011年規制)]山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 賃料 |
| | K2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準)] 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9t ・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合 |
| | K3 | 業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油 ・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合 |
| 労務 | R1 | 普通作業員(山林砂防工) |
| | R2 | 型わく工 |
| | R3 | 土木一般世話役 |
| | R4 | 特殊作業員 |
| 材料 | Z1 | 生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60% |
| | Z2 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13 鉄筋有りの場合 |
| | Z3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー 特殊養生(ジェットヒータ)の場合 |
| | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 |
| 市場単価 | S | 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物 鉄筋有りの場合 |

⑩ 排水構造物工 現場打ち集水桝・街渠桝(本体)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち集水桝・街渠桝(本体)

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的規格である。

表3.5 現場打ち集水桝・街渠桝(本体) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|----|--------|--|
| 機械 | K1 | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2011年規制)]山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 賃料 |
| | K2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2011年規制)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 ・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合 |

| | | | |
|------|----|--|--------------------------|
| | | 2.9t | |
| | K3 | 業務用可搬型ヒータ〔ジェットヒータ〕〔油だき・熱風・直火型〕熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油 | ・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合 |
| 労務 | R1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R2 | 型わく工 | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | 特殊作業員 | |
| 材料 | Z1 | 生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60% | |
| | Z2 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 特殊養生(ジェットヒータ)の場合 |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

⑰ 軟弱地盤処理工 (サンドマット工) ~⑱ 軟弱地盤処理工(粉体噴射攪拌工(DJM工法)) (略)

⑲ アンカー工 (ロータリーパーカッション式)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1~3-3 (略)

3-4 ボーリングマシン移設 (アンカー)

(1) 条件区分

ボーリングマシン移設 (アンカー) における積算条件区分はない。

積算単位は回とする。(据付・撤去1組で1回)

(2) (略)

3-5~3-6 (略)

⑳ 構造物とりこわし工~㉓ 目地・止水板設置工 (略)

㉔ 旧橋撤去工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 高欄撤去

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.1 高欄撤去 代表機労材規格一覧

| | | | |
|------|----|--------------------------------|------------------|
| | | 二 | |
| | K3 | | (新設) |
| 労務 | R1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R2 | 型わく工 | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | 特殊作業員 | |
| 材料 | Z1 | 生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60% | |
| | Z2 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 特殊養生(ジェットヒータ)の場合 |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

⑰ 軟弱地盤処理工 (サンドマット工) ~⑱ 軟弱地盤処理工(粉体噴射攪拌工(DJM工法)) (略)

⑲ アンカー工 (ロータリーパーカッション式)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1~3-3 (略)

3-4 ボーリングマシン移設 (アンカー)

(1) 条件区分

ボーリングマシン移設 (アンカー) における積算条件区分はない。

積算単位は回とする。

(2) (略)

3-5~3-6 (略)

⑳ 構造物とりこわし工~㉓ 目地・止水板設置工 (略)

㉔ 旧橋撤去工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 高欄撤去

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.1 高欄撤去 代表機労材規格一覧

| 項目 | | 代表機労材規格 | 備考 |
|------|----|--|----|
| 機械 | K1 | トラック [クレーン装置付] ベーストラック 4~4.5t 積 吊能力 2.9t | |
| | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 溶接工 | |
| | R2 | 特殊作業員 | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | 運転手 (特殊) | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-2~3-8 (略)

㉔ かご工~㉔ 函渠工 (2) (略)

㉔ 殻運搬

1. 適用範囲

本資料は、構造物撤去工における殻運搬に適用する。

1-1 適用出来る範囲

(1)~(4) (略)

1-2 適用出来ない範囲

(1)~(4) (略)

(5) 既設コンクリート構造物のとりこわし等により発生した殻(鉄筋・無筋)を人力で積み込む場合

2. (略)

3章 コンクリート工

① コンクリート工

1. ~2. (略)

3. コンクリート打設工法の選定
(略)

| 項目 | | 代表機労材規格 | 備考 |
|------|----|--------------------------------------|----|
| 機械 | K1 | トラック [クレーン装置付] ベーストラック 4t 級 吊能力 2.9t | |
| | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| 労務 | R1 | 溶接工 | |
| | R2 | 特殊作業員 | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | 運転手 (特殊) | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-2~3-8 (略)

㉔ かご工~㉔ 函渠工 (2) (略)

㉔ 殻運搬

1. 適用範囲

本資料は、構造物撤去工における殻運搬に適用する。

1-1 適用出来る範囲

(1)~(4) (略)

1-2 適用出来ない範囲

(1)~(4) (略)

(5) 既設コンクリート構造物のとりこわしにより発生した殻(鉄筋・無筋)を人力で積み込む場合

2. (略)

3章 コンクリート工

① コンクリート工

1. ~2. (略)

3. コンクリート打設工法の選定
(略)

(1) 無筋・鉄筋構造物

| | | | | | | | |
|---------|--------|--|-------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 打設地上高さ | 4.5m超 | 適用範囲外 | | | | | |
| | 4.5m以下 | バックホウ打設 (クレーン機能付) ただし $\leq 4.0m$ ※吊り走行なし | | コンクリートポンプ \square 打設 | コンクリートポンプ \square 打設 | 適用範囲外 | |
| | 1.0m超 | \square 打設 (現場内小運搬15m以下) | | | | | |
| | 1.0m以下 | | | | | | |
| | 0m | 10m 3 / \square 未満 | 10m 3 / \square 以上 | 100m 3 / \square 未満 | 100m 3 / \square 以上 | 500m 3 / \square 未満 | 500m 3 / \square 以上 |
| | -1.0m超 | バックホウ打設 (クレーン機能付) ただし $\leq 2.0m$ ※吊り走行なし | | コンクリートポンプ \square 打設 | コンクリートポンプ \square 打設 | 適用範囲外 | |
| -1.0m以下 | 適用範囲外 | | | | | | |
| -6.5m以上 | 適用範囲外 | | | | | | |
| -6.5m未満 | 適用範囲外 | | | | | | |

設計 \square 打設量

図 3.2 コンクリート打設工法の選定 (無筋・鉄筋構造物)

(1) 無筋・鉄筋構造物

| | | | | | | | |
|---------|--------|--|-------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 地上打設高さ | 4.5m超 | 適用範囲外 | | | | | |
| | 4.5m以下 | バックホウ打設 (クレーン機能付) ただし $\leq 4.0m$ ※吊り走行なし | | コンクリートポンプ \square 打設 | コンクリートポンプ \square 打設 | 適用範囲外 | |
| | 1.0m超 | \square 打設 (現場内小運搬15m以下) | | | | | |
| | 1.0m以下 | | | | | | |
| | 0m | 10m 3 / \square 未満 | 10m 3 / \square 以上 | 100m 3 / \square 未満 | 100m 3 / \square 以上 | 500m 3 / \square 未満 | 500m 3 / \square 以上 |
| | -1.0m超 | バックホウ打設 (クレーン機能付) ただし $\leq 2.0m$ ※吊り走行なし | | コンクリートポンプ \square 打設 | コンクリートポンプ \square 打設 | 適用範囲外 | |
| -1.0m以下 | 適用範囲外 | | | | | | |
| -6.5m以上 | 適用範囲外 | | | | | | |
| -6.5m未満 | 適用範囲外 | | | | | | |

設計 \square 打設量

図 3.2 コンクリート打設工法の選定 (無筋・鉄筋構造物)

(略)

4. 施工パッケージ

4-1 コンクリート

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表4.5 コンクリート 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|----|--|---|
| 機械 | コンクリートポンプ車[トラック架装・ブーム式]圧送能力 90~110 m 3 /h | 無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合 |
| | バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011年規制)] 山積 0.8m 3 (平積 0.6m 3) 吊能力 2.9t | ・賃料 ・無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合、又は小型構造物バックホウ打設の場合 |
| | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 16t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 17m 以下、水平打設距離約 17m 以下の場合 |
| | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 20t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 25m 以下、水平打設距離約 18m 以下の場合 |
| | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 25m 以下、水平打設距離約 20m 以下の場合 |
| | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 28m 以下、水平打設距離約 20m 以下の場合 |
| | クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型]50t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、水平距離約 30m 以下の場合 |

(略)

4. 施工パッケージ

4-1 コンクリート

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表4.5 コンクリート 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|----|---|---|
| 機械 | コンクリートポンプ車[トラック架装・ブーム式]圧送能力 90~110 m 3 /h | 無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合 |
| | バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.8m 3 (平積 0.6m 3) 吊能力 2.9t | ・賃料 ・無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合、又は小型構造物バックホウ打設の場合 |
| | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 16t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 17m 以下、水平打設距離約 17m 以下の場合 |
| | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 20t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 25m 以下、水平打設距離約 18m 以下の場合 |
| | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 25m 以下、水平打設距離約 20m 以下の場合 |
| | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 28m 以下、水平打設距離約 20m 以下の場合 |
| | クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型]50t 吊 | ・賃料 ・小型構造物で、水平距離約 30m 以下の場合 |

| | | | |
|------|-----|--|--|
| | K 2 | 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油 | 無筋・鉄筋構造物で、特殊養生 (練炭, ジェットヒータ) の場合, 又は小型構造物で、特殊養生 (ジェットヒータ) の場合 |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R 2 | 特殊作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | 運転手 (特殊) | 無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合, 無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合, 又は小型構造物バックホウ打設の場合 |
| 材料 | Z 1 | 生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W /C55% | |
| | Z 2 | 軽油 1,2号 パトロール給油 | 無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合, 無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合, 又は小型構造物バックホウ打設の場合, 又は小型構造物で、水平打設距離約 30m 以下の場合 |
| | Z 3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 無筋・鉄筋構造物で、特殊養生 (練炭, ジェットヒータ) の場合, 又は小型構造物で、特殊養生 (ジェットヒータ) の場合 |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

4-2 (略)

5. 施工歩掛

5-1 (略)

5-2 養生工

5-2-1 適用範囲

本歩掛は、表 4. 3 に示す施工パッケージ以外の養生工に適用する。

表 5. 3 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ

| | | |
|--------------|----------|--------------|
| ・ヒューム管 (B形管) | ・函渠 (1) | ・現場打基礎コンクリート |
| ・天端コンクリート | ・小型擁壁 | ・重力式擁壁 |
| ・もたれ式擁壁 | ・逆 T 型擁壁 | ・L 型擁壁 |
| ・コンクリート | | |

5-2-2 一般養生工

一般養生工における歩掛は、次表を標準とする。

表 5. 4 養生歩掛 (10 m³当たり)

| 名称 | 単位 | 無筋構造物 | 鉄筋構造物 | 小型構造物 |
|---------|----|-------|-------|-------|
| 土木一般世話役 | 人 | 0.08 | 0.05 | 0.18 |
| 普通作業員 | 人 | 0.25 | 0.13 | 0.52 |
| 諸雑费率 | % | 10 | 21 | 13 |

(注) (略)

| | | | |
|------|-----|--|--|
| | K 2 | 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油 | 無筋・鉄筋構造物で、特殊養生 (練炭, ジェットヒータ) の場合, 又は小型構造物で、特殊養生 (ジェットヒータ) の場合 |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R 2 | 特殊作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | 運転手 (特殊) | 無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合, 無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合, 又は小型構造物バックホウ打設の場合 |
| 材料 | Z 1 | 生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W /C55% | |
| | Z 2 | 軽油 1,2号 パトロール給油 | 無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合, 無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合, 又は小型構造物バックホウ打設の場合, 又は小型構造物で、水平打設距離約 30m 以下の場合 |
| | Z 3 | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 無筋・鉄筋構造物で、特殊養生 (練炭, ジェットヒータ) の場合, 又は小型構造物で、特殊養生 (ジェットヒータ) の場合 |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

4-2 (略)

5. 施工歩掛

5-1 (略)

5-2 養生工

5-2-1 適用範囲

本歩掛は、表 4. 3 に示す施工パッケージ以外の養生工に適用する。

表 5. 3 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ

| | | |
|--------------|-----------|--------------|
| ・ヒューム管 (B形管) | ・函渠 (1) | ・現場打基礎コンクリート |
| ・天端コンクリート | ・小型擁壁 (B) | ・重力式擁壁 |
| ・もたれ式擁壁 | ・逆 T 型擁壁 | ・L 型擁壁 |
| ・コンクリート | | |

5-2-2 一般養生工

一般養生工における歩掛は、次表を標準とする。

表 5. 4 養生歩掛 (10 m³当たり)

| 名称 | 単位 | 無筋構造物 | 鉄筋構造物 | 小型構造物 |
|-------|------|-------|-------|-------|
| (新設) | (新設) | (新設) | (新設) | (新設) |
| 普通作業員 | 人 | 0.31 | 0.16 | 0.64 |
| 諸雑费率 | % | 12 | 25 | 16 |

(注) (略)

5-3 養生工（特殊養生）

5-3-1 適用範囲

本歩掛は、表5.5に示す施工パッケージ以外の海岸、道路工事等における寒中コンクリートの養生に適用する。なお、養生方法は給熱養生を標準とし、異形ブロック製作における養生は、適用しない。

表5.5 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ

| | | |
|-------------|--------|--------------|
| ・ヒューム管（B形管） | ・函渠（1） | ・現場打基礎コンクリート |
| ・天端コンクリート | ・小型擁壁 | ・重力式擁壁 |
| ・もたれ式擁壁 | ・逆T型擁壁 | ・L型擁壁 |
| ・コンクリート | | |

5-3-2 特殊養生工

5-3-2-1 特殊養生工（練炭養生）

練炭による特殊養生歩掛は、次表を標準とする。

表5.6 特殊養生歩掛（練炭養生）（10 m³当たり）

| 名称 | 単位 | 無筋構造物 | 鉄筋構造物 | 小型構造物 |
|---------|----|-------|-------|-------|
| 土木一般世話役 | 人 | 0.25 | 0.15 | 0.46 |
| 普通作業員 | 人 | 0.72 | 0.44 | 1.3 |
| 諸雑費率 | % | 19 | 20 | 26 |

(注)1.・2. (略)

5-3-2-2 特殊養生工（ジェットヒータ養生）

(1) 機種を選定 (略)

(2) 施工歩掛

ジェットヒータによる特殊養生歩掛は、次表を標準とする。

表5.8 特殊養生歩掛（ジェットヒータ養生）（10 m³当たり）

| 名称 | 単位 | 無筋構造物 | 鉄筋構造物 | 小型構造物 |
|------------------------|----|-------|-------|-------|
| 土木一般世話役 | 人 | 0.21 | 0.12 | 0.69 |
| 普通作業員 | 人 | 0.6 | 0.35 | 2.0 |
| 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] 運転 | 日 | 1.6 | 1.8 | 7.8 |
| 諸雑費率 | % | 11 | 22 | 28 |

(注)1.~3. (略)

6. 単価表

(1) 圧送管組立、撤去費 10 m³当たり単価表 (略)

(2) 養生工（一般養生）10 m³当たり単価表

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|---------|----|----|----|------|
| 土木一般世話役 | | 人 | | 表5.4 |
| 普通作業員 | | 人 | | 人 |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | 人 |
| 計 | | | | |

(3) 養生工（特殊養生・練炭）10 m³当たり単価表

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|---------|----|----|----|------|
| 土木一般世話役 | | 人 | | 表5.6 |

5-3 養生工（特殊養生）

5-3-1 適用範囲

本歩掛は、表5.5に示す施工パッケージ以外の海岸、道路工事等における寒中コンクリートの養生に適用する。なお、養生方法は給熱養生を標準とし、異形ブロック製作における養生は、適用しない。

表5.5 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ

| | | |
|-------------|-----------|--------------|
| ・ヒューム管（B形管） | ・函渠（1） | ・現場打基礎コンクリート |
| ・天端コンクリート | ・小型擁壁 (B) | ・重力式擁壁 |
| ・もたれ式擁壁 | ・逆T型擁壁 | ・L型擁壁 |
| ・コンクリート | | |

5-3-2 特殊養生工

5-3-2-1 特殊養生工（練炭養生）

練炭による特殊養生歩掛は、次表を標準とする。

表5.6 特殊養生歩掛（練炭養生）（10 m³当たり）

| 名称 | 単位 | 無筋構造物 | 鉄筋構造物 | 小型構造物 |
|-------|------|-------|-------|-------|
| (新設) | (新設) | (新設) | (新設) | (新設) |
| 普通作業員 | 人 | 0.80 | 0.50 | 1.6 |
| 諸雑費率 | % | 25 | 25 | 32 |

(注)1.・2. (略)

5-3-2-2 特殊養生工（ジェットヒータ養生）

(1) 機種を選定 (略)

(2) 施工歩掛

ジェットヒータによる特殊養生歩掛は、次表を標準とする。

表5.8 特殊養生歩掛（ジェットヒータ養生）（10 m³当たり）

| 名称 | 単位 | 無筋構造物 | 鉄筋構造物 | 小型構造物 |
|------------------------|------|-------|-------|-------|
| (新設) | (新設) | (新設) | (新設) | (新設) |
| 普通作業員 | 人 | 0.74 | 0.43 | 2.4 |
| 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] 運転 | 日 | 1.6 | 1.8 | 7.8 |
| 諸雑費率 | % | 13 | 28 | 33 |

(注)1.~3. (略)

6. 単価表

(1) 圧送管組立、撤去費 10 m³当たり単価表 (略)

(2) 養生工（一般養生）10 m³当たり単価表

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|-------|----|------|----|------|
| (新設) | | (新設) | | (新設) |
| 普通作業員 | | 人 | | 表5.4 |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | 人 |
| 計 | | | | |

(3) 養生工（特殊養生・練炭）10 m³当たり単価表

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|------|----|------|----|------|
| (新設) | | (新設) | | (新設) |

| | | | | |
|-------|--|---|---|---|
| 普通作業員 | | 人 | | 人 |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | 人 |
| 計 | | | | |

(4) 養生工（特殊養生・ジェットヒータ）10 m³当たり単価表

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|------------------------|--|----|----|-------|
| 土木一般世話役 | | 人 | | 表 5.8 |
| 普通作業員 | | 人 | | 人 |
| 業務用可搬型ヒータ 〔ジェットヒータ〕 | 〔油だき・熱風・直火型〕熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) 油種 灯油 | 日 | | 人 |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | 人 |
| 計 | | | | |

(5) 機械運転単価表（略）

② 型枠工～③ 型枠工（省力化構造）（略）

4章. 河川海岸

① 消波根固めブロック工

1.・2.（略）

3. 施工パッケージ

3-1 消波根固めブロック製作

(1) 条件区分（略）

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.7 消波根固めブロック製作 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|---|---------|
| 機械 | K1 | ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕25t吊 | 賃料 |
| | K2 | - | |
| | K3 | - | |
| 労務 | R1 | 普通作業員 | |
| | R2 | 特殊作業員 | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | - | |
| 材料 | Z1 | 生コンクリート 高炉 21-8-25 (20) W/C 55% | |
| | Z2 | 鋼製型枠 異形ブロック 10t未満 | 賃料 |
| | Z3 | 練炭 マッチ練炭4号 | 給熱養生の場合 |
| | Z4 | - | |
| 市場単価 | S | - | |

3-2～3-5（略）

3-6 消波根固めブロック運搬

(1) 略

| | | | | |
|-------|--|---|---|-------|
| 普通作業員 | | 人 | | 表 5.6 |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | 人 |
| 計 | | | | |

(4) 養生工（特殊養生・ジェットヒータ）10 m³当たり単価表

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|------------------------|--|------|----|-------|
| (新設) | | (新設) | | (新設) |
| 普通作業員 | | 人 | | 表 5.8 |
| 業務用可搬型ヒータ 〔ジェットヒータ〕 | 〔油だき・熱風・直火型〕熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) 油種 灯油 | 日 | | 人 |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | 人 |
| 計 | | | | |

(5) 機械運転単価表（略）

② 型枠工～③ 型枠工（省力化構造）（略）

4章. 河川海岸

① 消波根固めブロック工

1.・2.（略）

3. 施工パッケージ

3-1 消波根固めブロック製作

(1) 条件区分（略）

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.7 消波根固めブロック製作 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|---|---------|
| 機械 | K1 | ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕25t吊 | 賃料 |
| | K2 | - | |
| | K3 | - | |
| 労務 | R1 | 普通作業員 | |
| | R2 | 特殊作業員 | |
| | R3 | 土木一般世話役 | |
| | R4 | - | |
| 材料 | Z1 | 生コンクリート 高炉 21-8-25 (20) W/C 55% | |
| | Z2 | 鋼製型枠 異形ブロック 10t未満 | 賃料 |
| | Z3 | 練炭 高練炭4号 | 給熱養生の場合 |
| | Z4 | - | |
| 市場単価 | S | - | |

3-2～3-5（略）

3-6 消波根固めブロック運搬

(1) 略

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 20 消波根固めブロック運搬 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|----------------------|----|
| 機械 | K 1 | トラック [普通型] 10~11 t 積 | |
| | K 2 | — | |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 運転手 (一般) | |
| | R 2 | — | |
| | R 3 | — | |
| | R 4 | — | |
| 材料 | Z 1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z 2 | — | |
| | Z 3 | — | |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

② 消波根固めブロック工 (ブロック撤去工) (0.25 t 以上 35.5 t 以下) ~③ 捨石工 (略)

5章. 河川海岸維持

① 巨石積 (張) 工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 巨石張 (練)

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 6 巨石張 (練) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|----|--------|--|-----------|
| 機械 | K 1 | ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 25t 吊 | 賃料 |
| | K 2 | バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | 裏込材が有りの場合 |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R 2 | 特殊作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | 運転手 (特殊) | 裏込材が有りの場合 |
| 材料 | Z 1 | 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60% | |

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 19 消波根固めブロック運搬 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|-------------------|----|
| 機械 | K 1 | トラック [普通型] 11 t 積 | |
| | K 2 | — | |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 運転手 (一般) | |
| | R 2 | — | |
| | R 3 | — | |
| | R 4 | — | |
| 材料 | Z 1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z 2 | — | |
| | Z 3 | — | |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

② 消波根固めブロック工 (ブロック撤去工) (0.25 t 以上 35.5 t 以下) ~③ 捨石工 (略)

5章. 河川海岸維持

① 巨石積 (張) 工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 巨石張 (練)

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 6 巨石張 (練) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|----|--------|---|-----------|
| 機械 | K 1 | ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 25t 吊 | 賃料 |
| | K 2 | バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | 裏込材が有りの場合 |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員 (山林砂防工) | |
| | R 2 | 特殊作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | 運転手 (特殊) | 裏込材が有りの場合 |
| 材料 | Z 1 | 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60% | |

| | | | |
|------|--------|---------------------|-----------------------|
| | Z 2 | 再生クラッシュラン RC-40 | 裏込材が有りの場合 |
| | Z 3 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | 裏込材が有りの場合 |
| | Z 4 | 遮水シート 厚1. 0+10. 0mm | 遮水シートもしくは、止水シートが有りの場合 |
| 市場単価 | S | - | |

3-2 巨石張(空)

- (1) 条件区分(略)
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.8 巨石張(空) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|---|--------------|
| 機械 | K 1 | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]25t吊 | 賃料 |
| | K 2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・ <u>超低騒音型</u> ・排出ガス対策型(2011年規制)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | |
| | K 3 | - | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R 2 | 特殊作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | 運転手(特殊) | |
| 材料 | Z 1 | 吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m | 吸出し防止材が有りの場合 |
| | Z 2 | 再生クラッシュラン RC-40(裏込材) | 裏込材が有りの場合 |
| | Z 3 | 軽油1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z 4 | 再生クラッシュラン RC-40(胴込材) | |
| 市場単価 | S | - | |

3-3 巨石積(練)

- (1) 条件区分(略)
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.10 巨石積(練) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|----|--------|---|-----------|
| 機械 | K 1 | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]25t吊 | 賃料 |
| | K 2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・ <u>超低騒音型</u> ・排出ガス対策型(2011年規制)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | 裏込材が有りの場合 |
| | K | - | |
| | R | 普通作業員(山林砂防工) | |

| | | | |
|------|--------|---------------------|-----------------------|
| | Z 2 | 再生クラッシュラン RC-40 | 裏込材が有りの場合 |
| | Z 3 | 軽油 1. 2号 パトロール給油 | 裏込材が有りの場合 |
| | Z 4 | 遮水シート 厚1. 0+10. 0mm | 遮水シートもしくは、止水シートが有りの場合 |
| 市場単価 | S | - | |

3-2 巨石張(空)

- (1) 条件区分(略)
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.8 巨石張(空) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|---|--------------|
| 機械 | K 1 | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]25t吊 | 賃料 |
| | K 2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | |
| | K 3 | - | |
| 労務 | R 1 | 普通作業員(山林砂防工) | |
| | R 2 | 特殊作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | 運転手(特殊) | |
| 材料 | Z 1 | 吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m | 吸出し防止材が有りの場合 |
| | Z 2 | 再生クラッシュラン RC-40(裏込材) | 裏込材が有りの場合 |
| | Z 3 | 軽油1. 2号 パトロール給油 | |
| | Z 4 | 再生クラッシュラン RC-40(胴込材) | |
| 市場単価 | S | - | |

3-3 巨石積(練)

- (1) 条件区分(略)
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.10 巨石積(練) 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|----|--------|---|-----------|
| 機械 | K 1 | ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]25t吊 | 賃料 |
| | K 2 | バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | 裏込材が有りの場合 |
| | K | - | |
| | R | 普通作業員(山林砂防工) | |

| | | | |
|------|--------|---------------------------|-------------------------------|
| 労務 | R | 特殊作業員 | |
| | R | 土木一般世話役 | |
| | R | 運転手(特殊) | 裏込材が有りの場合 |
| 材料 | Z | 生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C | |
| | Z | 再生クラッシュラン RC-40 | 裏込材が有りの場合 |
| | Z | 軽油 1.2号 パトロール給油 | 裏込材が有りの場合 |
| | Z 4 | 遮水シート 厚1.0+10.0mm | 遮水シートもしくは、 止水シートが有りの 場合 |
| 市場単価 | S | - | |

3-4~3-5 (略)

3-6 巨石採取

- (1) 条件区分 (略)
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.11 巨石採取 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|--|----|
| 機械 | K 1 | バックホウ(クローラ型) [標準型・ <u>超低騒音型</u> ・排出ガス対策型 (2011年規制)] 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | |
| | K 2 | バックホウ用アタッチメント [掴み装置] <u>開口幅 2,100~2,500mm 爪幅 450~1,000mm</u> | |
| | K | - | |
| 労務 | R | 運転手(特殊) | |
| | R | 土木一般世話役 | |
| | R | - | |
| | R | - | |
| 材料 | Z | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z | - | |
| | Z | - | |
| | Z | - | |
| 市場単価 | S | - | |

3-7 (略)

4. (略)

② 木杭打工~⑥ 笠コンクリートブロック据付工 (略)

6章. 治山・地すべり防止工 (略)

7章. 道路舗装

① 路盤工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1~3-3 (略)

3-4 上層路盤(車道・路肩部)

- (1) 条件区分 (略)

| | | | |
|------|--------|---------------------------|-------------------------------|
| 労務 | R | 特殊作業員 | |
| | R | 土木一般世話役 | |
| | R | 運転手(特殊) | 裏込材が有りの場合 |
| 材料 | Z | 生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C | |
| | Z | 再生クラッシュラン RC-40 | 裏込材が有りの場合 |
| | Z | 軽油 1.2号 パトロール給油 | 裏込材が有りの場合 |
| | Z 4 | 遮水シート 厚1.0+10.0mm | 遮水シートもしくは、 止水シートが有りの 場合 |
| 市場単価 | S | - | |

3-4~3-5 (略)

3-6 巨石採取

- (1) 条件区分 (略)
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.11 巨石採取 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|--|----|
| 機械 | K 1 | バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) | |
| | K 2 | バックホウ用アタッチメント [掴み装置] 最大把持外径 1.0m 級 | |
| | K | - | |
| 労務 | R | 運転手(特殊) | |
| | R | 土木一般世話役 | |
| | R | - | |
| | R | - | |
| 材料 | Z | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z | - | |
| | Z | - | |
| | Z | - | |
| 市場単価 | S | - | |

3-7 (略)

4. (略)

② 木杭打工~⑥ 笠コンクリートブロック据付工 (略)

6章. 治山・地すべり防止工 (略)

7章. 道路舗装

① 路盤工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1~3-3 (略)

3-4 上層路盤(車道・路肩部)

- (1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 15 上層路盤(車道・路肩部) 代表機材規格一覧

| 材料 | 平均幅員 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|--------|--------|--|--------------------------------|--|--|
| 瀝青安定処理 | 1.4m未満 | 機械 | K1 | 振動ローラ(舗装用)[ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | |
| | | | K2 | 振動コンパクタ [前進型] 機械質量 40~60 k g | |
| | | | K3 | — | |
| | | 労務 | R1 | 特殊作業員 | |
| | | | R2 | 普通作業員 | |
| | | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | | R4 | — | |
| | | 材料 | Z1 | アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40) | |
| | | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | |
| | | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| | | 市場単価 | S | — | |
| | | 1.4m以上3.0m以下 | 機械 | K1 | アスファルトフィニッシャー [ホイール型・ 低騒音型 ・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 1.4~3.0m |
| | K2 | | | 振動ローラ [搭乗・コンバインド式・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t | 賃料 |
| | K3 | | | タイヤローラ [普通型・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t | 賃料 |
| | 労務 | | R1 | 普通作業員 | |
| | | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | | R3 | 運転手 (特殊) | |
| | | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | 材料 | | Z1 | アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40) | |
| | | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z4 | | — | | |
| | 市場単価 | | S | — | |
| | 3.0m超 | | 機械 | K1 | アスファルトフィニッシャー [ホイール型・ 低騒音型 ・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m |
| | | K2 | | ロードローラ [マカダム・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 10t 締固め幅 2.1m | 賃料 |
| K3 | | タイヤローラ [普通型・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量 13t | | 賃料 | |
| 労務 | | R1 | 普通作業員 | | |
| | | R2 | 特殊作業員 | | |
| | | R3 | 運転手 (特殊) | | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | | |
| 材料 | | Z1 | アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40) | | |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 | |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 | |
| | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| Z4 | | — | | | |
| 市場単価 | | S | — | | |

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 15 上層路盤(車道・路肩部) 代表機材規格一覧

| 材料 | 平均幅員 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|--------|--------|---|--------------------------------|---|--|
| 瀝青安定処理 | 1.4m未満 | 機械 | K1 | 振動ローラ(舗装用)[ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | |
| | | | K2 | 振動コンパクタ [前進型] 機械質量 40~60 k g | |
| | | | K3 | — | |
| | | 労務 | R1 | 特殊作業員 | |
| | | | R2 | 普通作業員 | |
| | | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | | R4 | — | |
| | | 材料 | Z1 | アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40) | |
| | | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | |
| | | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| | | 市場単価 | S | — | |
| | | 1.4m以上3.0m以下 | 機械 | K1 | アスファルトフィニッシャー [ホイール型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 舗装幅 1.4~3.0m |
| | K2 | | | 振動ローラ [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t | 賃料 |
| | K3 | | | タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t | 賃料 |
| | 労務 | | R1 | 普通作業員 | |
| | | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | | R3 | 運転手 (特殊) | |
| | | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | 材料 | | Z1 | アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40) | |
| | | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z4 | | — | | |
| | 市場単価 | | S | — | |
| | 3.0m超 | | 機械 | K1 | アスファルトフィニッシャー [ホイール型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m |
| | | K2 | | ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 10t 締固め幅 2.1m | 賃料 |
| K3 | | タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量 13t | | 賃料 | |
| 労務 | | R1 | 普通作業員 | | |
| | | R2 | 特殊作業員 | | |
| | | R3 | 運転手 (特殊) | | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | | |
| 材料 | | Z1 | アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40) | | |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 | |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 | |
| | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| Z4 | | — | | | |
| 市場単価 | | S | — | | |

| | | | | |
|--------|------|----|---|----|
| 粒度調整碎石 | 機械 | K1 | モータグレーダ〔土工用・排出ガス対策型 (第2次基準値)〕 ブレード幅 3.1m | |
| | | K2 | ロードローラ〔マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)〕 運転質量 10t 締固め幅 2.1m | |
| | | K3 | タイヤローラ〔普通型・排出ガス対策型 (第2次基準値)〕 運転質量 8~20t | 賃料 |
| | 労務 | R1 | 特殊作業員 | |
| | | R2 | 運転手(特殊) | |
| | | R3 | 普通作業員 | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | 材料 | Z1 | 再生粒度調整碎石 RM-40 | |
| | | Z2 | 軽油 1.2号 バトロール給油 | |
| | | Z3 | — | |
| | | Z4 | — | |
| | 市場単価 | S | — | |

3-5 (略)

② 路盤工 (ICT)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 不陸整正 (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 不陸整正 (ICT) 積算条件区分一覧
(略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 4 不陸整正 (ICT) 代表機労材規格一覧
(略)

3-2 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 5 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 積算条件区分一覧
(略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 7 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 代表機労材規格一覧
(略)

3-3 上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 8 上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 積算条件区分一覧
(略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 10 上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 代表機労材規格一覧

| | | | | |
|--------|------|----|---|----|
| 粒度調整碎石 | 機械 | K1 | モータグレーダ〔土工用・排出ガス対策型 (第2次基準値)〕 ブレード幅 3.1m | |
| | | K2 | ロードローラ〔マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)〕 運転質量 10t 締固め幅 2.1m | |
| | | K3 | タイヤローラ〔普通型・排出ガス対策型 (第2次基準値)〕 運転質量 8~20t | 賃料 |
| | 労務 | R1 | 特殊作業員 | |
| | | R2 | 運転手(特殊) | |
| | | R3 | 普通作業員 | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | 材料 | Z1 | 再生粒度調整碎石 RM-40 | |
| | | Z2 | 軽油 1.2号 バトロール給油 | |
| | | Z3 | — | |
| | | Z4 | — | |
| | 市場単価 | S | — | |

3-5 (略)

② (参考) 路盤工 (ICT)

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 (参考) 不陸整正 (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 (参考) 不陸整正 (ICT) 積算条件区分一覧
(略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 4 (参考) 不陸整正 (ICT) 代表機労材規格一覧
(略)

3-2 (参考) 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 5 (参考) 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 積算条件区分一覧
(略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 7 (参考) 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 代表機労材規格一覧
(略)

3-3 (参考) 上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 8 (参考) 上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 積算条件区分一覧
(略)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 10 (参考) 上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 代表機労材規格一覧

(略)

4. ICT建設機械経費加算額 (略)

5. その他ICT建設機械経費等

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

5-1~5-3 (略)

5-4 3次元出来形管理・3次元データ納品及び外注経費等にかかる費用

3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。

・共通仮設費率補正係数 : 1.2

・現場管理費率補正係数 : 1.1

※小数点第3位四捨五入2位止め

(略)

③ アスファルト舗装工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.4 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部) 代表機材規格一覧

| 平均幅員 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|--------------------|----------|--|------------------------|--|
| 1.4m 未満 | 機械 | K1 振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | | |
| | | K2 振動コンパクタ [前進型] 機械質量 40~60 kg | | |
| | | K3 - | | |
| | 労務 | R1 特殊作業員 | | |
| | | R2 普通作業員 | | |
| | | R3 土木一般世話役 | | |
| | | R4 - | | |
| | 材料 | Z1 | 再生粗粒度アスコン(20) | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | | | 細粒度アスコン(13) | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ |
| | | | 開粒度アスコン(13) | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ |
| | | | 再生粗粒度アスコン(20) | 標準締固め後密度 各種(1.90以上 2.50t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | | |
| | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| | 市場 単価 | S | - | |
| 1.4m 以上 3.0m | 機械 | K1 アスファルトフィニッシャ [ホイール型・ <u>低騒音型</u> ・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 1.4~3.0m | 賃料 | |

(略)

4. ICT建設機械経費加算額 (略)

5. その他ICT建設機械経費等

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

5-1~5-3 (略)

5-4 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用

3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積上げるものとする。

(新設)

(略)

③ アスファルト舗装工

1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.4 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部) 代表機材規格一覧

| 平均幅員 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|--------------------|----------|---|-------------------------------|--|
| 1.4m 未満 | 機械 | K1 振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | | |
| | | K2 振動コンパクタ [前進型] 機械質量 40~60 kg | | |
| | | K3 - | | |
| | 労務 | R1 特殊作業員 | | |
| | | R2 普通作業員 | | |
| | | R3 土木一般世話役 | | |
| | | R4 - | | |
| | 材料 | Z1 | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | | | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ |
| | | | アスファルト混合物 開粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ |
| | | | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 各種(1.90以上 2.50t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | | |
| | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| | 市場 単価 | S | - | |
| 1.4m 以上 3.0m | 機械 | K1 アスファルトフィニッシャ [ホイール型・ <u>排出ガス対策型</u> (第3次基準値)] 舗装幅 1.4~3.0m | 賃料 | |

| | | | | |
|-------|------------------------|---|---|-------------------------------|
| 以下 | K2 | 振動ローラ（舗装用）〔搭乘・コンバインド式・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 | 賃料 | |
| | | 運転質量 3～4t | | |
| | | タイヤローラ〔普通型・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 | 賃料 | |
| | R1 | 普通作業員 | | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手（特殊） | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | | Z1 | 再生粗粒度 アスコン （20） | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | 細粒度 アスコン （13） | | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ | |
| | 開粒度 アスコン （13） | | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ | |
| | 再生粗粒度 アスコン （20） | | 標準締固め後密度 各種（1.90以上 2.50t/m ³ 未満） | |
| | Z2 | | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | Z3 | | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| Z4 | — | | | |
| 市場単価 | S | — | | |
| 3.0m超 | K1 | アスファルトフィニッシャ〔ホイール型・ 低騒音型 ・排出ガス対策型（2014年規制）〕 | 賃料 | |
| | | 舗装幅 2.3～6.0m | | |
| | | ロードローラ〔マカダム・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 | 賃料 | |
| | K2 | 運転質量 10t 締固め幅 2.1m | | |
| | | タイヤローラ〔普通型・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型（2011年規制）〕 | 賃料 | |
| | | 運転質量 13t | | |
| | R1 | 普通作業員 | | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手（特殊） | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | Z1 | 再生粗粒度 アスコン （20） | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ | |
| | | 細粒度 アスコン （13） | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ | |
| | | 開粒度 アスコン （13） | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ | |
| | | 再生粗粒度 アスコン （20） | 標準締固め後密度 各種（1.90以上 2.50t/m ³ 未満） | |
| Z2 | | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 | |
| | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 | |
| Z3 | | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| Z4 | — | | | |
| 市場単価 | S | — | | |

| | | | | |
|-------|----|--|---|------------|
| 以下 | K2 | 振動ローラ（舗装用）〔搭乘・コンバインド式・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 | 賃料 | |
| | | 運転質量 3～4t | | |
| | | タイヤローラ〔普通型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 | 賃料 | |
| | R1 | 普通作業員 | | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手（特殊） | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | Z1 | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物（20） | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ | |
| | | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物（13） | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ | |
| | | アスファルト混合物 開粒度 AS 混合物（13） | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ | |
| | | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物（20） | 標準締固め後密度 各種（1.90以上 2.50t/m ³ 未満） | |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| Z4 | — | | | |
| 市場単価 | S | — | | |
| 3.0m超 | K1 | アスファルトフィニッシャ〔ホイール型・排出ガス対策型（2011年規制）〕 | 賃料 | |
| | | 舗装幅 2.3～6.0m | | |
| | | ロードローラ〔マカダム・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 | 賃料 | |
| | K2 | 運転質量 10t 締固め幅 2.1m | | |
| | | タイヤローラ〔普通型・排出ガス対策型（2011年規制）〕 | 賃料 | |
| | | 運転質量 13t | | |
| | R1 | 普通作業員 | | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手（特殊） | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | Z1 | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物（20） | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ | |
| | | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物（13） | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ | |
| | | アスファルト混合物 開粒度 AS 混合物（13） | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ | |
| | | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物（20） | 標準締固め後密度 各種（1.90以上 2.50t/m ³ 未満） | |
| Z2 | | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 | |
| | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 | |
| Z3 | | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| Z4 | — | | | |
| 市場単価 | S | — | | |

表 3.5 表層(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

| 平均幅員 | 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|--------------------------|--------------------|--|--|
| 1.4m 未満 | 機械 | K1 振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | |
| | | K2 振動コンパクタ [前進型] 機械質量 40~60 kg | |
| | | K3 - | |
| | 労務 | R1 特殊作業員 | |
| | | R2 普通作業員 | |
| | | R3 土木一般世話役 | |
| | | R4 - | |
| | 材料 | Z1 密粒度アスコ (20) | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | | 細粒度アスコ (13) | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ |
| | | 開粒度アスコ (13) | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ |
| | | 密粒度アスコ (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50t/m ³ 未満) |
| | | Z2 アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | プライムコートの場合 タックコートの場合 |
| | | Z3 ガソリン レギュラー スタンド | |
| | Z4 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| 市場 単価 | S - | | |
| 1.4m 以上 3.0m 以下 | 機械 | K1 アスファルトフィニッシャ [ホイール型・ 低騒音型 ・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 1.4~3.0m | 賃料 |
| | | K2 振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型 (第3次基準値)] | 賃料 |
| | | K3 タイヤローラ [普通型・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t | 賃料 |
| | 労務 | R1 普通作業員 | |
| | | R2 特殊作業員 | |
| | | R3 運転手 (特殊) | |
| | | R4 土木一般世話役 | |
| | 材料 | Z1 密粒度アスコ (20) | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | | 細粒度アスコ (13) | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ |
| | | 開粒度アスコ (13) | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ |
| | | 密粒度アスコ (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50t/m ³ 未満) |
| | | Z2 アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | プライムコートの場合 タックコートの場合 |
| | | Z3 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z4 - | | |
| 市場 単価 | S - | | |
| 3.0m 超 | 機械 | K1 アスファルトフィニッシャ [ホイール型・ 低騒音型 ・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m | 賃料 |

表 3.5 表層(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

| 平均幅員 | 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|--------------------------|--------------------|--|--|
| 1.4m 未満 | 機械 | K1 振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | |
| | | K2 振動コンパクタ [前進型] 機械質量 40~60 kg | |
| | | K3 - | |
| | 労務 | R1 特殊作業員 | |
| | | R2 普通作業員 | |
| | | R3 土木一般世話役 | |
| | | R4 - | |
| | 材料 | Z1 アスファルト混合物 粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ |
| | | アスファルト混合物 開粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ |
| | | アスファルト混合物 粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50t/m ³ 未満) |
| | | Z2 アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | プライムコートの場合 タックコートの場合 |
| | | Z3 ガソリン レギュラー スタンド | |
| | Z4 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| 市場 単価 | S - | | |
| 1.4m 以上 3.0m 以下 | 機械 | K1 アスファルトフィニッシャ [ホイール型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 舗装幅 1.4~3.0m | 賃料 |
| | | K2 振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] | 賃料 |
| | | K3 タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t | 賃料 |
| | 労務 | R1 普通作業員 | |
| | | R2 特殊作業員 | |
| | | R3 運転手 (特殊) | |
| | | R4 土木一般世話役 | |
| | 材料 | Z1 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ |
| | | アスファルト混合物 開粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ |
| | | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50t/m ³ 未満) |
| | | Z2 アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | プライムコートの場合 タックコートの場合 |
| | | Z3 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z4 - | | |
| 市場 単価 | S - | | |
| 3.0m 超 | 機械 | K1 アスファルトフィニッシャ [ホイール型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m | 賃料 |

| | | | | |
|------|----|--|--|--|
| | K2 | ロードローラ [マカダム・ <u>超低騒音型</u> ・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 10t 締固め幅 2.1m | 賃料 | |
| | | K3 | タイヤローラ [普通型・ <u>超低騒音型</u> ・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量 13t | 賃料 |
| | R1 | R1 | 普通作業員 | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手 (特殊) | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | Z1 | Z1 | 密粒度 <u>アスコ</u> (20) | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | | Z1 | 細粒度 <u>アスコ</u> (13) | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ |
| | | Z1 | 開粒度 <u>アスコ</u> (13) | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ |
| | | Z1 | 密粒度 <u>アスコ</u> (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90以上 2.50t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| | Z4 | — | | |
| 市場単価 | S | — | | |

| | | | | |
|------|----|---|---|--|
| | K2 | ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 10t 締固め幅 2.1m | 賃料 | |
| | | K3 | タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量 13t | 賃料 |
| | R1 | R1 | 普通作業員 | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手 (特殊) | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | Z1 | Z1 | アスファルト混合物 密粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 2.35t/m ³ |
| | | Z1 | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.30t/m ³ |
| | | Z1 | アスファルト混合物 開粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 1.94t/m ³ |
| | | Z1 | アスファルト混合物 密粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90以上 2.50t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| | Z4 | — | | |
| 市場単価 | S | — | | |

3-2 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)

- (1) 条件区分 (略)
- (2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.8 基層(歩道部)・中間層(歩道部) 代表機材規格一覧

| 平均幅員 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|---------|----|-----------------|---|--|
| 1.4m 未満 | 機械 | K1 | 振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | |
| | | K2 | 振動コンパクト [前進型] 機械質量 40~60 kg | |
| | | K3 | — | |
| | 労務 | R1 | 特殊作業員 | |
| | | R2 | 普通作業員 | |
| | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | R4 | — | |
| | 材料 | Z1 | 再生粗粒度 <u>アスコ</u> (20) | 標準締固め後密度 2.20t/m ³ |
| | | | 細粒度 <u>アスコ</u> (13) | 標準締固め後密度 2.15t/m ³ |
| | | | 再生粗粒度 <u>アスコ</u> (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90以上 2.40t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | |
| | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| 市場単 | S | — | | |

3-2 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)

- (1) 条件区分 (略)
- (2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.8 基層(歩道部)・中間層(歩道部) 代表機材規格一覧

| 平均幅員 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 | |
|---------|----|-----------------|---|--|
| 1.4m 未満 | 機械 | K1 | 振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | |
| | | K2 | 振動コンパクト [前進型] 機械質量 40~60 kg | |
| | | K3 | — | |
| | 労務 | R1 | 特殊作業員 | |
| | | R2 | 普通作業員 | |
| | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | R4 | — | |
| | 材料 | Z1 | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 2.20t/m ³ |
| | | | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.15t/m ³ |
| | | | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90以上 2.40t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | |
| | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| 市場単 | S | — | | |

| 平均幅員 | | 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|--------|----|----|---|---|
| 1.4m以上 | 機械 | K1 | アスファルトフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅 1.4~3.0m | |
| | | K2 | 振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4 t | 賃料 |
| | | K3 | — | |
| | 労務 | R1 | 普通作業員 | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手 (特殊) | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | 材料 | Z1 | 再生粗粒度 アスコ (20) | 標準締固め後密度 2.20t/m ³ |
| | | | 細粒度 アスコ (13) | 標準締固め後密度 2.15t/m ³ |
| | | | 再生粗粒度 アスコ (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.40t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z4 | — | | |
| 市場単価 | S | — | | |

表 3.9 表層(歩道部) 代表機労材規格一覧

| 平均幅員 | | 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|--------|----|-----------------|--------------------------------------|---|
| 1.4m未満 | 機械 | K1 | 振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | |
| | | K2 | 振動コンパクト [前進型] 機械質量 40~60 kg | |
| | | K3 | — | |
| | 労務 | R1 | 特殊作業員 | |
| | | R2 | 普通作業員 | |
| | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | R4 | — | |
| | 材料 | Z1 | 再生密粒度 アスコ (13) | 標準締固め後密度 2.20t/m ³ |
| | | | 細粒度 アスコ (13) | 標準締固め後密度 2.15t/m ³ |
| | | | 再生密粒度 アスコ (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.40t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | |
| | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| 市場単価 | S | — | | |

| 平均幅員 | | 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|--------|----|----|--|---|
| 1.4m以上 | 機械 | K1 | アスファルトフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅 1.4~3.0m | |
| | | K2 | 振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4 t | 賃料 |
| | | K3 | — | |
| | 労務 | R1 | 普通作業員 | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手 (特殊) | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | 材料 | Z1 | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 2.20t/m ³ |
| | | | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.15t/m ³ |
| | | | 再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物 (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.40t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z4 | — | | |
| 市場単価 | S | — | | |

表 3.9 表層(歩道部) 代表機労材規格一覧

| 平均幅員 | | 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|--------|----|-----------------|--------------------------------------|---|
| 1.4m未満 | 機械 | K1 | 振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t | |
| | | K2 | 振動コンパクト [前進型] 機械質量 40~60 kg | |
| | | K3 | — | |
| | 労務 | R1 | 特殊作業員 | |
| | | R2 | 普通作業員 | |
| | | R3 | 土木一般世話役 | |
| | | R4 | — | |
| | 材料 | Z1 | 再生アスファルト混合物 再生密粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.20t/m ³ |
| | | | アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.15t/m ³ |
| | | | 再生アスファルト混合物 再生密粒度 AS 混合物 (13) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.40t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | |
| | Z4 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | | |
| 市場単価 | S | — | | |

| | | | | |
|--------|----|----|---|---|
| 1.4m以上 | 機械 | K1 | アスファルトフィニッシャー [クローラ型] 舗装幅 1.4~3.0m | 賃料 |
| | | K2 | 振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・ <u>超低騒音型</u> ・ 排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4 t | |
| | | K3 | — | |
| | 労務 | R1 | 普通作業員 | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手 (特殊) | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | 材料 | Z1 | 再生密粒度 <u>アスコ</u> (13) | 標準締固め後密度 2.20t/m ³ |
| | | | 細粒度 <u>アスコ</u> (13) | 標準締固め後密度 2.15t/m ³ |
| | | | 再生密粒度 <u>アスコ</u> (20) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.40t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z4 | — | | |
| 市場単価 | S | — | | |

| | | | | |
|--------|----|----|--|---|
| 1.4m以上 | 機械 | K1 | アスファルトフィニッシャー [クローラ型] 舗装幅 1.4~3.0m | 賃料 |
| | | K2 | 振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4 t | |
| | | K3 | — | |
| | 労務 | R1 | 普通作業員 | |
| | | R2 | 特殊作業員 | |
| | | R3 | 運転手 (特殊) | |
| | | R4 | 土木一般世話役 | |
| | 材料 | Z1 | 再生アスファルト混合物_再生密粒度 <u>AS</u> 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.20t/m ³ |
| | | | アスファルト混合物_細粒度 <u>AS</u> 混合物 (13) | 標準締固め後密度 2.15t/m ³ |
| | | | 再生アスファルト混合物_再生密粒度 <u>AS</u> 混合物 (13) | 標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.40t/m ³ 未満) |
| | | Z2 | アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 | プライムコートの場合 |
| | | | アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用 | タックコートの場合 |
| | | Z3 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z4 | — | | |
| 市場単価 | S | — | | |

3-3 アスカーブ
(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.10 アスカーブ 積算条件区分一覧
(略)

表 3.11 材料

| 積算条件 | 積算条件 |
|------|------------------------------------|
| 材料 | 細粒度 <u>アスコ</u> (13) |
| | 細粒度 <u>アスコ</u> (13F) |
| | 再生細粒度 <u>アスコ</u> (13) |
| | 再生細粒度 <u>アスコ</u> (13F) |
| | 各種 (締固め後密度 2.10 t/m ³) |

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.12 アスカーブ 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|----|---------|---|
| 機械 | K1 | ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2 t 積級 タイヤ損耗費及び補修費 (良好) を含む |
| | K2 | アスファルトカーバ [ガソリンエンジン駆動式] 能力 4.0~4.5 m ³ /h |
| | K3 | — |
| 労務 | R1 | 普通作業員 |
| | R2 | 土木一般世話役 |

3-3 アスカーブ
(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.10 アスカーブ 積算条件区分一覧
(略)

表 3.11 材料

| 積算条件 | 積算条件 |
|------|------------------------------------|
| 材料 | 細粒度 <u>アスコ</u> (13) |
| | 細粒度 <u>アスコ</u> (13F) |
| | 再生細粒度 <u>アスコ</u> (13) |
| | 再生細粒度 <u>アスコ</u> (13F) |
| | 各種 (締固め後密度 2.10 t/m ³) |

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.12 アスカーブ 代表機労材規格一覧

| 項目 | 代表機労材規格 | 備考 |
|----|---------|---|
| 機械 | K1 | ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2 t 積級 タイヤ損耗費及び補修費 (良好) を含む |
| | K2 | アスファルトカーバ [ガソリンエンジン駆動式] 能力 4.0~4.5 m ³ /h |
| | K3 | — |
| 労務 | R1 | 普通作業員 |
| | R2 | 土木一般世話役 |

| | | | |
|------|----|-----------------|--|
| | R3 | 特殊作業員 | |
| | R4 | 運転手 (一般) | |
| 材料 | Z1 | 再生細粒度アスコン (13) | |
| | Z2 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

④ 踏掛版 (略)

8章. 道路付属施設 (略)

9章. 道路維持修繕

① 路面切削工・② 舗装版破碎工 (略)

③ 舗装版切断工
1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版切断

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.2 舗装版切断 代表機材規格一覧

| 舗装版種別 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|---------------|---------------------------|---|---------------------------|
| アスファルト 舗装版 | 機械 | コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 切削深 20cm 級ブレード径 ϕ 56cm | 舗装版厚が 15cm 以下の場合 |
| | | コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 30cm 級ブレード径 ϕ 75cm | 舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合 |
| | | コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 40cm 級ブレード径 ϕ 96cm | 舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合 |
| | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| | コンクリート 舗装版 | 労務 | R1 土木一般世話役 |
| R2 特殊作業員 | | | |
| R3 普通作業員 | | | |
| R4 — | | | |
| | 材料 | コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ | 舗装版厚が 15cm 以下の場合 |
| | | コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ | 全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合 |
| | | コンクリートカッタ (ブレード) 径 38 インチ | 全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合 |
| | | ガソリンレギュラースタンド | 舗装版厚が 15cm 以下の場合 |
| Z2 | コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ | 全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合 | |

| | | | |
|------|----|----------------------------|--|
| | R3 | 特殊作業員 | |
| | R4 | 運転手 (一般) | |
| 材料 | Z1 | アスファルト混合物再生細粒度 AS 混合物 (13) | |
| | Z2 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z3 | ガソリン レギュラー スタンド | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

④ 踏掛版 (略)

8章. 道路付属施設 (略)

9章. 道路維持修繕

① 路面切削工・② 舗装版破碎工 (略)

③ 舗装版切断工
1.・2. (略)

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版切断

(1) 条件区分 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.2 舗装版切断 代表機材規格一覧

| 舗装版種別 | 項目 | 代表機材規格 | 備考 |
|---------------|---------------------------|--|---------------------------|
| アスファルト 舗装版 | 機械 | コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 切削深 20cm 級ブレード径 56cm | 舗装版厚が 15cm 以下の場合 |
| | | コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 30cm 級ブレード径 75cm | 舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合 |
| | | コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 40cm 級ブレード径 96cm | 舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合 |
| | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| | コンクリート 舗装版 | 労務 | R1 土木一般世話役 |
| R2 特殊作業員 | | | |
| R3 普通作業員 | | | |
| R4 — | | | |
| | 材料 | コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ | 舗装版厚が 15cm 以下の場合 |
| | | コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ | 全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合 |
| | | コンクリートカッタ (ブレード) 径 38 インチ | 全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合 |
| | | ガソリンレギュラースタンド | 舗装版厚が 15cm 以下の場合 |
| Z2 | コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ | 全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合 | |

| | | | | |
|---|-----------------------|-----------------------|---|----------------------|
| コンクリート + アスファルト (カバ ー) 舗装版 | 機械 | Z3 | コンクリートカッタ(ブレード)径30インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 |
| | | | コンクリートカッタ(ブレード)径14インチ | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 |
| | | Z4 | コンクリートカッタ(ブレード)径22インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 |
| | | | ガソリンレギュラースタンド | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 |
| | 市場単価 | S | コンクリートカッタ(ブレード)径14インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 |
| | | | ー | |
| | 材料 | K1 | コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 切削深20cm級ブレード径φ56cm | 全体厚が15cm以下の場合 |
| | | | コンクリートカッタ [バキューム式(超低騒音型)・湿式] 切削深30cm級ブレード径φ75cm | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 |
| | | | コンクリートカッタ [バキューム式(超低騒音型)・湿式] 切削深40cm級ブレード径φ96cm | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 |
| | | K2 | ー | |
| | | K3 | ー | |
| | | R1 | 土木一般世話役 | |
| | | | 特殊作業員 | |
| | | | 普通作業員 | |
| ー | | | | |
| Z1 | | Z1 | コンクリートカッタ(ブレード)径22インチ | 舗装版厚が15cm以下の場合 |
| | コンクリートカッタ(ブレード)径30インチ | | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 | |
| | コンクリートカッタ(ブレード)径38インチ | | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 | |
| | Z2 | ガソリンレギュラースタンド | 舗装版厚が15cm以下の場合 | |
| | | コンクリートカッタ(ブレード)径22インチ | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 | |
| | Z3 | コンクリートカッタ(ブレード)径30インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 | |
| | | コンクリートカッタ(ブレード)径14インチ | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 | |
| | | コンクリートカッタ(ブレード)径22インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 | |
| Z4 | ガソリンレギュラースタンド | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 | | |
| | コンクリートカッタ(ブレード)径14インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 | | |
| 市場単価 | S | ー | | |

④ 舗装版クラック補修工～⑯ 路肩整正(人力による土はね) (略)

(削る)

| | | | | |
|---|-----------------------|-----------------------|--|----------------------|
| コンクリート + アスファルト (カバ ー) 舗装版 | 機械 | Z3 | コンクリートカッタ(ブレード)径30インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 |
| | | | コンクリートカッタ(ブレード)径14インチ | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 |
| | | Z4 | コンクリートカッタ(ブレード)径22インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 |
| | | | ガソリンレギュラースタンド | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 |
| | 市場単価 | S | コンクリートカッタ(ブレード)径14インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 |
| | | | ー | |
| | 材料 | K1 | コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 切削深20cm級ブレード径56cm | 全体厚が15cm以下の場合 |
| | | | コンクリートカッタ [バキューム式(超低騒音型)・湿式] 切削深30cm級ブレード径75cm | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 |
| | | | コンクリートカッタ [バキューム式(超低騒音型)・湿式] 切削深40cm級ブレード径96cm | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 |
| | | K2 | ー | |
| | | K3 | ー | |
| | | R1 | 土木一般世話役 | |
| | | | 特殊作業員 | |
| | | | 普通作業員 | |
| ー | | | | |
| Z1 | | Z1 | コンクリートカッタ(ブレード)径22インチ | 舗装版厚が15cm以下の場合 |
| | コンクリートカッタ(ブレード)径30インチ | | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 | |
| | コンクリートカッタ(ブレード)径38インチ | | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 | |
| | Z2 | ガソリンレギュラースタンド | 舗装版厚が15cm以下の場合 | |
| | | コンクリートカッタ(ブレード)径22インチ | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 | |
| | Z3 | コンクリートカッタ(ブレード)径30インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 | |
| | | コンクリートカッタ(ブレード)径14インチ | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 | |
| | | コンクリートカッタ(ブレード)径22インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 | |
| Z4 | ガソリンレギュラースタンド | 全体厚が15cmを超え30cm以下の場合 | | |
| | コンクリートカッタ(ブレード)径14インチ | 全体厚が30cmを超え40cm以下の場合 | | |
| 市場単価 | S | ー | | |

④ 舗装版クラック補修工～⑯ 路肩整正(人力による土はね) (略)

⑳ 防護柵復旧工

① 鋼橋床版工 (略)

② 橋梁排水管設置工

1. 適用範囲

本資料は、鋼管、VP管(φ100mm~200mm)、FRP管(φ100mm~200mm)による各種系統タイプ及び溝部の橋梁排水管を設置する作業に適用し、排水桝設置及び排水管製作は含まない。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 コンクリートアンカーボルト設置

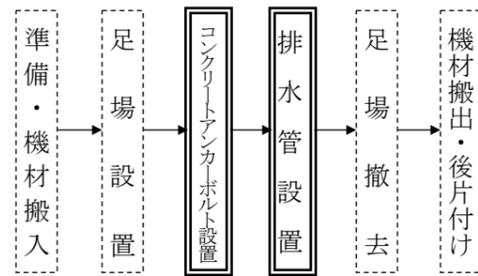
(1) 橋梁、シェッドの排水管取付金具を設置するためのコンクリートアンカーボルト穿孔及び設置

1-1-2 排水管

(1) 鋼管(φ100mm~φ200mm)、VP管(φ100mm~φ200mm)、FRP管(φ100mm~200mm)による各種系統タイプ及び溝部における橋梁排水管の設置

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
2. 既設配水管の取替作業を行う際、配水管撤去作業は別途考慮する。

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリートアンカーボルト設置

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表3.1 コンクリートアンカーボルト設置 積算条件区分一覧

(積算単位：本)

| |
|-------|
| 足場の有無 |
| 無し |
| 有り |

(注) 1. 橋梁、シェッドの排水管取付金具を設置するためのコンクリートアンカーボルト穿孔及び設置の他、電力に関する経費等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等含む)を含む。
2. 足場の設置は、別途計上する。
3. 現場条件等により代表機材一覧(表3.2)に示す機械・規格により難しい場合は、別途考慮する。

① 鋼橋床版工 (略)

② 橋梁排水管設置工

1. 適用範囲

本資料は、鋼管、VP管(φ100mm~200mm)による各種系統タイプ及び溝部の橋梁排水管を設置する作業に適用し、排水桝設置及び排水管製作は含まない。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 コンクリートアンカーボルト設置

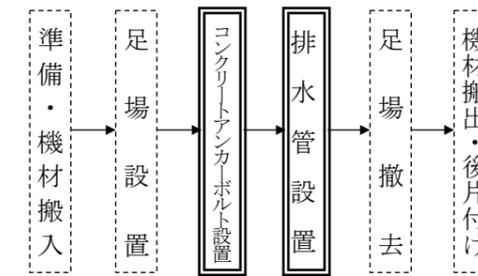
(1) 橋梁、シェッドの排水管取付金具を設置するためのコンクリートアンカーボルト穿孔及び設置

1-1-2 排水管

(1) 鋼管(φ100mm~φ200mm)、VP管(φ100mm~φ200mm)による各種系統タイプ及び溝部における橋梁排水管の設置

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリートアンカーボルト設置

(1) 条件区分

コンクリートアンカーボルト設置における積算条件区分はない。
積算単位は本とする。

(新設)

(注) 1. 橋梁、シェッドの排水管取付金具を設置するためのコンクリートアンカーボルト穿孔及び設置の他、電力に関する経費等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等含む)を含む。
2. 足場等が必要な場合は、別途計上する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 2 コンクリートアンカーボルト設置 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|--|-----|
| 機械 | K 1 | 高所作業車 トラック架装リフト・ブーム型・幅広デッキタイプ 作業床高さ 10～12m未満 | ・賃料 |
| | K 2 | — | |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 特殊作業員 | |
| | R 2 | 普通作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | — | |
| 材料 | Z 1 | あと施工アンカー 芯棒打込み式 M1 2 | |
| | Z 2 | — | |
| | Z 3 | — | |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-2 排水管

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表3. 3 排水管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

| 足場の有無 |
|-------|
| 無し |
| 有り |

(注) 1. 上表は、橋梁、シェッドの取付金具、排水管（蛇腹管・エルボ等の排水管付属品の設置も含む）の設置の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等含む）を含む。ただし、排水管（材料費）は含まない。

2. 排水管の材料費は別途計上する。

3. 足場の設置は、別途計上する。

4. 現場条件等により代表機材一覧（表3. 4）に示す機械・規格により難しい場合は、別途考慮する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 4 排水管設置 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|----|--------|--|-----|
| 機械 | K 1 | 高所作業車 トラック架装リフト・ブーム型・幅広デッキタイプ 作業床高さ 10～12m未満 | ・賃料 |
| | K 2 | — | |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 特殊作業員 | |
| | R 2 | 普通作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | — | |

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 1 コンクリートアンカーボルト設置 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|------|--------|----------------------|------|
| 機械 | K 1 | — | (新設) |
| | K 2 | — | |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 特殊作業員 | |
| | R 2 | 普通作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | — | |
| 材料 | Z 1 | あと施工アンカー 芯棒打込み式 M1 2 | |
| | Z 2 | — | |
| | Z 3 | — | |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-2 排水管

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表3. 2 排水管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

| 管種区分 |
|------|
| VP管 |
| 鋼管 |

(注) 1. 上表は、橋梁、シェッドの取付金具、排水管（蛇腹管・エルボ等の排水管付属品の設置も含む）の設置の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等含む）を含む。ただし、排水管（材料費）は含まない。

2. 排水管の材料費は別途計上する。

3. 足場等が必要な場合は、別途計上する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 3 排水管 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|----|--------|---------|---------------|
| 機械 | K 1 | — | ・賃料 ・鋼管の場合 |
| | K 2 | — | |
| | K 3 | — | |
| 労務 | R 1 | 特殊作業員 | |
| | R 2 | 普通作業員 | |
| | R 3 | 土木一般世話役 | |
| | R 4 | — | |
| 材料 | Z 1 | — | |

| | | | |
|------|-----|---|--|
| 材料 | Z 1 | — | |
| | Z 2 | — | |
| | Z 3 | — | |
| | Z 4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

3-3 排水管（材料費）（略）

11章. その他

① 現場発生品及び支給品運搬

1. 適用範囲（略）

2. 施工パッケージ

2-1 現場発生品・支給品運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 2.1 現場発生品・支給品運搬 積算条件区分一覧

(積算単位：回)

| トラック機種 | 片道運搬距離 | 1回当たり平均積載質量 |
|--|----------|--|
| クレーン装置付 2t 積 2t 吊 ベーストラック 2t 積, 吊能力 2t (参考) 荷台長 L=3.0m 荷台幅 W=1.6m | (表 2. 2) | 0.1t 以下 |
| | | 0.1t 超 0.2t 以下 |
| | | 0.2t 超 0.3t 以下 |
| | | 0.3t 超 0.5t 以下 |
| | | 0.5t 超 0.8t 以下 |
| | | 0.8t 超 1.1t 以下 |
| | | 1.1t 超 1.5t 以下 |
| | | 1.5t 超 2.0t 以下 |
| | | クレーン装置付 4t 積 2.9t 吊 ベーストラック 4~4.5t 積, 吊能力 2.9t (参考) 荷台長 L=3.4m 荷台幅 W=2.0m |
| 0.1t 超 0.2t 以下 | | |
| 0.2t 超 0.3t 以下 | | |
| 0.3t 超 0.5t 以下 | | |
| 0.5t 超 0.8t 以下 | | |
| 0.8t 超 1.1t 以下 | | |
| 1.1t 超 1.5t 以下 | | |
| 1.5t 超 2.0t 以下 | | |
| 2.0t 超 2.6t 以下 | | |
| 2.6t 超 2.95t 以下 | | |

(注) (略)

表 2.1 片道運搬距離 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 2.3 現場発生品・支給品運搬 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|----|--------|--------------|----|
| 機械 | K1 | トラック クレーン装置付 | |

| | | | |
|--|------|---|---|
| | Z 2 | — | |
| | Z 3 | — | |
| | Z 4 | — | |
| | 市場単価 | S | — |

3-3 排水管（材料費）（略）

11章. その他

① 現場発生品及び支給品運搬

1. 適用範囲（略）

2. 施工パッケージ

2-1 現場発生品・支給品運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 2.1 現場発生品・支給品運搬 積算条件区分一覧

(積算単位：回)

| トラック機種 | 片道運搬距離 | 1回当たり平均積載質量 |
|--|----------|--|
| クレーン装置付 2t 積 2t 吊 ベーストラック 2t 級, 吊能力 2t (参考) 荷台長 L=3.0m 荷台幅 W=1.6m | (表 2. 2) | 0.1t 以下 |
| | | 0.1t 超 0.2t 以下 |
| | | 0.2t 超 0.3t 以下 |
| | | 0.3t 超 0.5t 以下 |
| | | 0.5t 超 0.8t 以下 |
| | | 0.8t 超 1.1t 以下 |
| | | 1.1t 超 1.5t 以下 |
| | | 1.5t 超 2.0t 以下 |
| | | クレーン装置付 4t 積 2.9t 吊 ベーストラック 4t 級, 吊能力 2.9t (参考) 荷台長 L=3.4m 荷台幅 W=2.0m |
| 0.1t 超 0.2t 以下 | | |
| 0.2t 超 0.3t 以下 | | |
| 0.3t 超 0.5t 以下 | | |
| 0.5t 超 0.8t 以下 | | |
| 0.8t 超 1.1t 以下 | | |
| 1.1t 超 1.5t 以下 | | |
| 1.5t 超 2.0t 以下 | | |
| 2.0t 超 2.6t 以下 | | |
| 2.6t 超 2.95t 以下 | | |

(注) (略)

表 2.1 片道運搬距離 (略)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 2.3 現場発生品・支給品運搬 代表機材規格一覧

| 項目 | 代表機材規格 | | 備考 |
|----|--------|--------------|----|
| 機械 | K1 | トラック クレーン装置付 | |

| | | | |
|------|----|----------------------------------|--|
| | | ベーストラック 2t <u>積</u> 吊能力 2t | |
| | | トラック クレーン装置付 | |
| | | ベーストラック 4~4.5t <u>積</u> 吊能力 2.9t | |
| 労務 | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| | R1 | 運転手 (特殊) | |
| | R2 | 普通作業員 | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

② 作業日当たり標準作業量

1. 適用 (略)
2. 作業日当たり標準作業量

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | |
|---------|------------|---------|-----------|------------------------------|
| 土工 | ①・② (略) | | | |
| | ③ 整地 | | | |
| | 作業区分 | 敷均し作業内容 | 障害の有無 | 作業日当たり標準作業量 |
| | 残土受入れ地での処理 | — | <u>二</u> | 434 m ³ /日 |
| | 敷均し (ルーズ) | 標準 | <u>無し</u> | <u>430</u> m ³ /日 |
| | | | <u>有り</u> | <u>380</u> m ³ /日 |
| | | 標準以外 | <u>無し</u> | <u>550</u> m ³ /日 |
| | | | <u>有り</u> | <u>480</u> m ³ /日 |
| | | (削る) | | (削る) |
| | | (削る) | | (削る) |
| ④~⑨ (略) | | | | |

| | | | |
|------|----|------------------------------|--|
| | | ベーストラック 2t <u>級</u> 吊能力 2t | |
| | | トラック クレーン装置付 | |
| | | ベーストラック 4t <u>級</u> 吊能力 2.9t | |
| 労務 | K2 | — | |
| | K3 | — | |
| | R1 | 運転手 (特殊) | |
| | R2 | 普通作業員 | |
| 材料 | Z1 | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Z2 | — | |
| | Z3 | — | |
| | Z4 | — | |
| 市場単価 | S | — | |

② 作業日当たり標準作業量

1. 適用 (略)
2. 作業日当たり標準作業量

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | |
|---------|------------|--------------------|------|-----------------------|
| 土工 | ①・② (略) | | | |
| | ③ 整地 | | | |
| | 作業区分 | 敷均し作業内容 | (新設) | 作業日当たり標準作業量 |
| | 残土受入れ地での処理 | — | | 434 m ³ /日 |
| | 敷均し (ルーズ) | 標準 | (新設) | 430 m ³ /日 |
| | | | (新設) | (新設) |
| | | 標準以外 | (新設) | 550 m ³ /日 |
| | | | (新設) | (新設) |
| | | 狭小幅員 (幅2.5m以上4m未満) | | 140 m ³ /日 |
| | | トラフィカビリティが確保出来ない場合 | | 620 m ³ /日 |
| ④~⑨ (略) | | | | |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|-----|---------|
| 床掘工 | ①～④ (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------------------|-------|----------------------|-------|------------|----|----|----|----|----------------------|----|----------------------|-----|----|----------------------|----|----------------------|-----------|----|----------------------|----|----------------------|-------|----|----------------------|----|----------------------|
| <u>床掘工</u> <u>(ICT)</u> | <p>① <u>床掘り (ICT)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>土質</th> <th>施工方法</th> <th>土留方式の種類</th> <th>障害の有無</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">土砂</td> <td rowspan="6">標準</td> <td rowspan="2">無し</td> <td>有り</td> <td>196m³/日</td> </tr> <tr> <td>無し</td> <td>240m³/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">自立式</td> <td>有り</td> <td>196m³/日</td> </tr> <tr> <td>無し</td> <td>240m³/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">グラントアンカー式</td> <td>有り</td> <td>196m³/日</td> </tr> <tr> <td>無し</td> <td>240m³/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">切梁腹起式</td> <td>有り</td> <td>196m³/日</td> </tr> <tr> <td>無し</td> <td>240m³/日</td> </tr> </tbody> </table> | 土質 | 施工方法 | 土留方式の種類 | 障害の有無 | 作業日当り標準作業量 | 土砂 | 標準 | 無し | 有り | 196m ³ /日 | 無し | 240m ³ /日 | 自立式 | 有り | 196m ³ /日 | 無し | 240m ³ /日 | グラントアンカー式 | 有り | 196m ³ /日 | 無し | 240m ³ /日 | 切梁腹起式 | 有り | 196m ³ /日 | 無し | 240m ³ /日 |
| 土質 | 施工方法 | 土留方式の種類 | 障害の有無 | 作業日当り標準作業量 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土砂 | 標準 | 無し | 有り | 196m ³ /日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 無し | 240m ³ /日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 自立式 | 有り | 196m ³ /日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 無し | 240m ³ /日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | グラントアンカー式 | 有り | 196m ³ /日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 無し | 240m ³ /日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 切梁腹起式 | 有り | 196m ³ /日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 無し | 240m ³ /日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|----------------|---|
| 土工 (ICT) | <p>① 掘削 (ICT) ※[ICT建機使用割合 100%] 表 (略)</p> <p>② 路体 (築堤) 盛土 (ICT) 表 (略)</p> <p>③ 路床盛土 (ICT) 表 (略)</p> |
| 埋戻工 | ①・② (略) |
| 人力運搬工 | ① (略) |
| 安定処理工 | ①・② (略) |
| 法面整形工 | ① (略) |
| 法面整形工 (ICT) | ① 法面整形 (ICT) |
| 吹付法面とりこわし工 | ① (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|-----|---------|
| 床掘工 | ①～④ (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|-------------|-------------|
| <u>(新設)</u> | <u>(新設)</u> |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|--------------------------------|---|
| <u>(参考) 土工</u> <u>(ICT)</u> | <p>① <u>(参考) 掘削 (ICT) ※[ICT建機使用割合 100%]</u> 表 (略)</p> <p>② <u>(参考) 路体 (築堤) 盛土 (ICT)</u> 表 (略)</p> <p>③ <u>(参考) 路床盛土 (ICT)</u> 表 (略)</p> |
| 埋戻工 | ①・② (略) |
| 人力運搬工 | ① (略) |
| 安定処理工 | ①・② (略) |
| 法面整形工 | ① (略) |
| 法面整形工 (ICT) | ① <u>(参考) 法面整形 (ICT)</u> |
| 吹付法面とりこわし工 | ① (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|------------------------------|---------|
| 吹付法面 とりこわ し工 | ① (略) |
| 張りコン クリート 工 | ①・② (略) |
| プレキャス トコンクリ ート板設置 工 | ①・② (略) |
| 人工張芝工 | ①・② (略) |
| 基礎・裏込 砕石工 | ① (略) |
| コンクリ ートプロ ック積 (張)工 | ① (略) |
| 石積(張) 工 | ①～③ (略) |
| 平石張工 | ① (略) |
| 場所打擁 壁工(1) | ① (略) |
| 場所打擁 壁工(2) | ① (略) |
| プレキャ スト擁壁 工 | ① (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|------------------------------|---------|
| 吹付法面 とりこわ し工 | ① (略) |
| 張りコン クリート 工 | ①・② (略) |
| プレキャス トコンクリ ート板設置 工 | ①・② (略) |
| 人工張芝工 | ①・② (略) |
| 基礎・裏込 砕石工 | ① (略) |
| コンクリ ートプロ ック積 (張)工 | ① (略) |
| 石積(張) 工 | ①～③ (略) |
| 平石張工 | ① (略) |
| 場所打擁 壁工(1) | ① (略) |
| 場所打擁 壁工(2) | ① (略) |
| プレキャ スト擁壁 工 | ① (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 | |
|---|--|-----------------------------|
| 補強土壁工 (帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁, ジオテキスタイル補強土壁, ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ)) | ① 補強土壁壁面材組立・設置 | |
| | 作業種別 | 作業日当たり標準作業量 |
| | 帯鋼補強土壁 | 35 m ² /日 |
| | アンカー補強土壁 | 30 m ² /日 |
| | <u>ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ)</u> | <u>50.0 m²/日</u> |
| | ② 補強材取付 | |
| | 作業種別 | 作業日当たり標準作業量 |
| | 帯鋼補強土壁 | 227 m/日 |
| | アンカー補強土壁 | 116 m/日 |
| | <u>ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ)</u> | <u>128 m²/日</u> |
| | ③ まき出し・敷均し, 締固め | |
| | 作業種別 | 作業日当たり標準作業量 |
| | 帯鋼補強土壁 | 95 m ³ /日 |
| アンカー補強土壁 | 95 m ³ /日 | |
| <u>ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ)</u> | <u>95 m³/日</u> | |
| ④ 砕石投入 | | |
| 作業種別 | 作業日当たり標準作業量 | |
| <u>ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ)</u> | <u>71 m³/日</u> | |
| 補強土壁工 | ① 壁面材組立・設置 | |
| | 壁面材種類 | 作業日当たり標準作業量 算出面積 |
| | 鋼製枠タイプ | 59 m ² /日 直面積 |
| | ② ジオテキスタイル敷設 | |
| | 作業日当たり標準作業量 | 120 m ² /日 |
| | (注) 1. (略) 2. ジオテキスタイルの敷設面積の算出については, 次式の通りとする。 ジオテキスタイル敷設面積 (m ²) = a1 + a2 + a3 … a1, a2, a3… : 補強盛土工 1 段当たり敷設面積 (m ²) (参考図参照) | |
| | ③ まき出し・敷均し, 締固め | |
| | 作業日当たり標準作業量 | 95 m ³ /日 |
| | (注) 1. 上表は, 補強盛土工 1 段当たりのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用出来る。 2. (略) | |
| | [参考図] 補強盛土工標準断面図 (略) | |

| 工種名 | 設 定 内 容 | |
|---|--|--------------------------|
| 補強土壁工 (帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁) | ① 補強土壁壁面材組立・設置 | |
| | 作業種別 | 作業日当たり標準作業量 |
| | 帯鋼補強土壁 | 40.0 m ² /日 |
| | アンカー補強土壁 | 33.3 m ² /日 |
| | (新設) | (新設) |
| | ② 補強材取付 | |
| | 作業種別 | 作業日当たり標準作業量 |
| | 帯鋼補強土壁 | 227 m/日 |
| | アンカー補強土壁 | 117 m/日 |
| | (新設) | (新設) |
| | ③ まき出し・敷均し, 締固め | |
| | 作業種別 | 作業日当たり標準作業量 |
| | 帯鋼補強土壁 | 172 m ³ /日 |
| アンカー補強土壁 | 172 m ³ /日 | |
| (新設) | (新設) | |
| (新設) | | |
| ジオテキスタイル工 | ① 壁面材組立・設置 | |
| | 壁面材種類 | 作業日当たり標準作業量 算出面積 |
| | 鋼製ユニット | 59 m ² /日 直面積 |
| | ② ジオテキスタイル敷設 | |
| | 作業日当たり標準作業量 | 120 m ² /日 |
| | (注) 1. (略) 2. ジオテキスタイルの敷設面積の算出については, 次式の通りとする。 ジオテキスタイル敷設面積 (m ²) = a1 + a2 + a3 … a1, a2, a3… : ジオテキスタイル工 1 段当たり敷設面積 (m ²) (参考図参照) | |
| ③ まき出し・敷均し, 締固め | | |
| 作業日当たり標準作業量 | 89 m ³ /日 | |
| (注) 1. 上表は, ジオテキスタイル工 1 段当たりのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用出来る。 2. (略) | | |
| [参考図] ジオテキスタイル工標準断面図 (略) | | |

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|-----|---------------|-----|-----|----|-----|----|----|----|--|--------|-----|--|--|-----|--|--|-----|--|--|-------|---|---|---|---|---|---|---|----|---|------------------|---|---|----|---|---|---|----|----|----|----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|---|--|--|--|-----|---------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--------|-----|--|--|-----|--|--|-----|--|--|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------------------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|--|--|-----|---------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--------|-----|--|--|-----|--|--|-----|--|--|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------------------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|--|--|
| 構造物補修工（ひび割れ補修工（充てん工法）） | ①（略） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 構造物補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法）） | ①（略） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 構造物補修工（断面修復工（左官工法）） | ①・②（略） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 排水構造物工 | ①（略） ② ボックスカルバート （１）ボックスカルバート単体 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th colspan="9">PC 鋼材を使用しない場合</th> </tr> <tr> <th>製品長（m）</th> <th colspan="3">1.0</th> <th colspan="3">1.5</th> <th colspan="3">2.0</th> </tr> <tr> <th>枠 番 号</th> <th>④</th><th>⑤</th><th>②</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>①</th><th>②③</th><th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業日当たり標準作業量（m/日）</td> <td>8</td><td>5</td><td>10</td><td>7</td><td>7</td><td>5</td><td>20</td><td>17</td><td>12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="10">PC 鋼材による縦連結の場合</th> </tr> <tr> <th colspan="5">1.5</th> <th colspan="5">2.0</th> </tr> <tr> <th>②</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>①</th><th>②③</th><th>④</th><th>②</th><th>④</th><th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>15</td><td>11</td><td>8</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> （注）撤去の作業日当たり標準作業量は、上表×2とする。 <u>（２）ボックスカルバート+基礎砕石</u> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th colspan="9">PC 鋼材を使用しない場合</th> </tr> <tr> <th>製品長（m）</th> <th colspan="3">1.0</th> <th colspan="3">1.5</th> <th colspan="3">2.0</th> </tr> <tr> <th>枠 番 号</th> <th>④</th><th>⑤</th><th>②</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業日当たり標準作業量（m/日）</td> <td>7</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td><td>6</td><td>4</td><td>17</td><td>14</td><td>14</td><td>10</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="10">PC 鋼材による縦連結の場合</th> </tr> <tr> <th colspan="5">1.5</th> <th colspan="5">2.0</th> </tr> <tr> <th>②</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th><th>②</th><th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>13</td><td>10</td><td>10</td><td>7</td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <u>（３）ボックスカルバート+均しコンクリート</u> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th colspan="9">PC 鋼材を使用しない場合</th> </tr> <tr> <th>製品長（m）</th> <th colspan="3">1.0</th> <th colspan="3">1.5</th> <th colspan="3">2.0</th> </tr> <tr> <th>枠 番 号</th> <th>④</th><th>⑤</th><th>②</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業日当たり標準作業量（m/日）</td> <td>6</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>5</td><td>4</td><td>12</td><td>10</td><td>11</td><td>8</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="10">PC 鋼材による縦連結の場合</th> </tr> <tr> <th colspan="5">1.5</th> <th colspan="5">2.0</th> </tr> <tr> <th>②</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th><th>②</th><th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>6</td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | 製品長（m） | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | 枠 番 号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ②③ | ④ | 作業日当たり標準作業量（m/日） | 8 | 5 | 10 | 7 | 7 | 5 | 20 | 17 | 12 | PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ②③ | ④ | ② | ④ | ⑤ | 5 | 4 | 4 | 3 | 15 | 11 | 8 | | | | 区 分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | 製品長（m） | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | 枠 番 号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | 作業日当たり標準作業量（m/日） | 7 | 5 | 8 | 7 | 6 | 4 | 17 | 14 | 14 | 10 | PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | ② | ④ | 5 | 4 | 4 | 3 | 13 | 10 | 10 | 7 | | | 区 分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | 製品長（m） | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | 枠 番 号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | 作業日当たり標準作業量（m/日） | 6 | 4 | 6 | 5 | 5 | 4 | 12 | 10 | 11 | 8 | PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | ② | ④ | 4 | 3 | 3 | 3 | 10 | 8 | 8 | 6 | | |
| 区 分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 製品長（m） | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 枠 番 号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ②③ | ④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 作業日当たり標準作業量（m/日） | 8 | 5 | 10 | 7 | 7 | 5 | 20 | 17 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ②③ | ④ | ② | ④ | ⑤ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 4 | 4 | 3 | 15 | 11 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 製品長（m） | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 枠 番 号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 作業日当たり標準作業量（m/日） | 7 | 5 | 8 | 7 | 6 | 4 | 17 | 14 | 14 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | ② | ④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 4 | 4 | 3 | 13 | 10 | 10 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 製品長（m） | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 枠 番 号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 作業日当たり標準作業量（m/日） | 6 | 4 | 6 | 5 | 5 | 4 | 12 | 10 | 11 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | ② | ④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 3 | 3 | 3 | 10 | 8 | 8 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|-----|---------------|-----|-----|---|-----|----|---|--|--|--------|-----|--|--|-----|--|--|-----|--|--|-------|---|---|---|---|---|---|---|----|---|------------------|---|---|---|---|---|---|----|----|---|----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|--|--|--|
| 構造物補修工（ひび割れ補修工（充てん工法）） | ①（略） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 構造物補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法）） | ①（略） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 構造物補修工（断面修復工（左官工法）） | ①・②（略） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 排水構造物工 | ①（略） ② ボックスカルバート （１）ボックスカルバート単体 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th colspan="9">PC 鋼材を使用しない場合</th> </tr> <tr> <th>製品長（m）</th> <th colspan="3">1.0</th> <th colspan="3">1.5</th> <th colspan="3">2.0</th> </tr> <tr> <th>枠 番 号</th> <th>④</th><th>⑤</th><th>②</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>①</th><th>②③</th><th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業日当たり標準作業量（m/日）</td> <td>6</td><td>3</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>17</td><td>11</td><td>9</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="10">PC 鋼材による縦連結の場合</th> </tr> <tr> <th colspan="5">1.5</th> <th colspan="5">2.0</th> </tr> <tr> <th>②</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th><th>①</th><th>②③</th><th>④</th><th>②</th><th>④</th><th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>13</td><td>8</td><td>5</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> （注）撤去の作業日当たり標準作業量は、上表×2とする。 <u>（新設）</u> <u>（新設）</u> | 区 分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | 製品長（m） | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | 枠 番 号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ②③ | ④ | 作業日当たり標準作業量（m/日） | 6 | 3 | 8 | 6 | 4 | 3 | 17 | 11 | 9 | PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ②③ | ④ | ② | ④ | ⑤ | 4 | 4 | 3 | 2 | 13 | 8 | 5 | | | |
| 区 分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 製品長（m） | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 枠 番 号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ②③ | ④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 作業日当たり標準作業量（m/日） | 6 | 3 | 8 | 6 | 4 | 3 | 17 | 11 | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ②③ | ④ | ② | ④ | ⑤ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 4 | 3 | 2 | 13 | 8 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| (4) ボックスカルバート+基礎砕石+均しコンクリート | | | | | | | | | | | |
|---|---------------|---|---|-----|---|-----|-----|---|----|---|--|
| 区分 | PC鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | | |
| 製品長 (m) | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | | |
| 枠番号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | |
| 作業日当たり標準作業量 (m/日) | 5 | 4 | 6 | 5 | 4 | 3 | 11 | 9 | 10 | 7 | |
| 区分 | PC鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | |
| 製品長 (m) | 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | |
| 枠番号 | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | | | |
| 作業日当たり標準作業量 (m/日) | 4 | 3 | 3 | 2 | 9 | 7 | 8 | 5 | | | |
| <p>(注) 1. 上表(2)～(4)の作業日当たり標準作業量には、<u>それぞれ</u>次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作・設置、撤去・均しコンクリート打設・養生 ・ボックスカルバート設置 <p>2. 上表2表の枠番号①～⑥区分は、ボックスカルバート内空幅・内空高区分の図による。</p> | | | | | | | | | | | |
| | ③～⑫ (略) | | | | | | | | | | |
| 排水構造物工(溶接金網及び埋設鋼板型枠) | ①・② (略) | | | | | | | | | | |
| 排水構造物工(現場打ち水路(本体)) | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 排水構造物工(現場打ち集水柵・街渠柵(本体)) | ① (略) | | | | | | | | | | |
| サンドマット工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 粉体噴射攪拌工(DJM工法) | ①～③ (略) | | | | | | | | | | |
| アンカー工(ロータリーパーカッション式) | ①～⑤ (略) | | | | | | | | | | |
| 構造物とりこわし工 | ①・② (略) | | | | | | | | | | |

| (2) ボックスカルバート+雑工種(基礎砕石・均しコンクリート) | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|---|---|-----|---|-----|-----|---|---|---|--|
| 区分 | PC鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | | |
| 製品長 (m) | 1.0 | | | 1.5 | | | 2.0 | | | | |
| 枠番号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | |
| 作業日当たり標準作業量 (m/日) | 4 | 2 | 4 | 4 | 2 | 2 | 10 | 5 | 7 | 4 | |
| 区分 | PC鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | | | | |
| 製品長 (m) | 1.5 | | | | | 2.0 | | | | | |
| 枠番号 | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ | | | |
| 作業日当たり標準作業量 (m/日) | 3 | 3 | 2 | 1 | 9 | 4 | 5 | 3 | | | |
| <p>(注) 1. 上表(2)の作業日当たり標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作・設置、撤去・均しコンクリート打設・養生 ・ボックスカルバート設置 <p>2. 上表(2)の作業日当たり標準作業量は、ボックスカルバート設置延長換算値である。</p> <p>3. 上表2表の枠番号①～⑥区分は、ボックスカルバート内空幅・内空高区分の図による。</p> | | | | | | | | | | | |
| | ③～⑫ (略) | | | | | | | | | | |
| 排水構造物工(溶接金網及び埋設鋼板型枠) | ①・② (略) | | | | | | | | | | |
| 排水構造物工(現場打ち水路(本体)) | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 排水構造物工(現場打ち集水柵・街渠柵(本体)) | ① (略) | | | | | | | | | | |
| サンドマット工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 粉体噴射攪拌工(DJM工法) | ①～③ (略) | | | | | | | | | | |
| アンカー工(ロータリーパーカッション式) | ①～⑤ (略) | | | | | | | | | | |
| 構造物とりこわし工 | ①・② (略) | | | | | | | | | | |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|---|---------|
| コンクリート削孔工 | ①～③ (略) |
| 吸出し防止材設置工 | ① (略) |
| 目地・止水板設置工 | ① (略) |
| 旧橋撤去工 | ①～⑧ (略) |
| かご工 | ①・② (略) |
| 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 | ①～④ (略) |
| 現場取卸費 | ① (略) |
| 函渠工(1) | ① (略) |
| 函渠工(2) | ① (略) |
| 殻運搬 | ① (略) |
| コンクリート工 | ①・② (略) |
| 型枠工 | ①・② (略) |
| 型枠工(省力化構造) | ① (略) |
| 消波根固めブロック工 | ①～③ (略) |
| 消波根固めブロック工(ブロック撤去工) (0.25 t以上35.5 t以下) | ① (略) |
| 捨石工 | ① (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|---|---------|
| コンクリート削孔工 | ①～③ (略) |
| 吸出し防止材設置工 | ① (略) |
| 目地・止水板設置工 | ① (略) |
| 旧橋撤去工 | ①～⑧ (略) |
| かご工 | ①・② (略) |
| 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 | ①～④ (略) |
| 現場取卸費 | ① (略) |
| 函渠工(1) | ① (略) |
| 函渠工(2) | ① (略) |
| 殻運搬 | ① (略) |
| コンクリート工 | ①・② (略) |
| 型枠工 | ①・② (略) |
| 型枠工(省力化構造) | ① (略) |
| 消波根固めブロック工 | ①～③ (略) |
| 消波根固めブロック工(ブロック撤去工) (0.25 t以上35.5 t以下) | ① (略) |
| 捨石工 | ① (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | | | | | | | | |
|------------------------------------|---|--------------|----|------------|------------|----|--------------|---------------------|--------------|---------------------|--------------|
| 巨石積 (張)工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 木杭打工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 護岸基礎ブ ロック工 | ①～③ (略) | | | | | | | | | | |
| かごマッ ト工(スロ ープ型) | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 袋詰玉石 工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 笠コンク リートブ ロック据 付工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| ソイルセ メント工 | ①～③ (略) | | | | | | | | | | |
| 地すべり 防止工 (集排水ボ ーリング 工) | ①・② (略) | | | | | | | | | | |
| 路盤工 (I CT) | ① 不陸整正 (ICT), 下層路盤 (ICT), 上層路盤 (ICT) (1日・1層当り) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>工 種</th> <th>単位</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不陸整正 (ICT)</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">m2</td> <td style="text-align: center;">1,920 m2/日・層</td> </tr> <tr> <td>下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)</td> <td style="text-align: center;">1,350 m2/日・層</td> </tr> <tr> <td>上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)</td> <td style="text-align: center;">1,350 m2/日・層</td> </tr> </tbody> </table> (注) (略) | 工 種 | 単位 | 作業日当り標準作業量 | 不陸整正 (ICT) | m2 | 1,920 m2/日・層 | 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) | 1,350 m2/日・層 | 上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) | 1,350 m2/日・層 |
| 工 種 | 単位 | 作業日当り標準作業量 | | | | | | | | | |
| 不陸整正 (ICT) | m2 | 1,920 m2/日・層 | | | | | | | | | |
| 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) | | 1,350 m2/日・層 | | | | | | | | | |
| 上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) | | 1,350 m2/日・層 | | | | | | | | | |
| アスファ ルト舗装 工 | ①・② (略) | | | | | | | | | | |
| 半たわみ 性(コン ポジット) 舗装 工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 排水性ア スファル ト舗装工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 透水性ア スファル ト舗装工 | ①・② (略) | | | | | | | | | | |

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | | | | | | | | |
|------------------------------------|---|--------------|----|------------|----------------|----|--------------|-------------------------|--------------|-------------------------|--------------|
| 巨石積 (張)工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 木杭打工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 護岸基礎ブ ロック工 | ①～③ (略) | | | | | | | | | | |
| かごマッ ト工(スロ ープ型) | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 袋詰玉石 工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 笠コンク リートブ ロック据 付工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| ソイルセ メント工 | ①～③ (略) | | | | | | | | | | |
| 地すべり 防止工 (集排水ボ ーリング 工) | ①・② (略) | | | | | | | | | | |
| (参考)路 盤工 (I CT) | ① (参考)不陸整正 (ICT), (参考)下層路盤 (ICT), (参考)上層路 盤 (ICT) (1日・1層当り) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>工 種</th> <th>単位</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(参考)不陸整正 (ICT)</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">m2</td> <td style="text-align: center;">1,920 m2/日・層</td> </tr> <tr> <td>(参考)下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)</td> <td style="text-align: center;">1,350 m2/日・層</td> </tr> <tr> <td>(参考)上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)</td> <td style="text-align: center;">1,350 m2/日・層</td> </tr> </tbody> </table> (注) (略) | 工 種 | 単位 | 作業日当り標準作業量 | (参考)不陸整正 (ICT) | m2 | 1,920 m2/日・層 | (参考)下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) | 1,350 m2/日・層 | (参考)上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) | 1,350 m2/日・層 |
| 工 種 | 単位 | 作業日当り標準作業量 | | | | | | | | | |
| (参考)不陸整正 (ICT) | m2 | 1,920 m2/日・層 | | | | | | | | | |
| (参考)下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) | | 1,350 m2/日・層 | | | | | | | | | |
| (参考)上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) | | 1,350 m2/日・層 | | | | | | | | | |
| アスファ ルト舗装 工 | ①・② (略) | | | | | | | | | | |
| 半たわみ 性(コン ポジット) 舗装 工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 排水性ア スファル ト舗装工 | ① (略) | | | | | | | | | | |
| 透水性ア スファル ト舗装工 | ①・② (略) | | | | | | | | | | |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|--------------------------------|---------|
| 踏掛版 | ① (略) |
| 立入り防止柵工 | ①～⑥ (略) |
| 防雪柵設置及び撤去工 | ①・② (略) |
| 防雪柵現地張出し・収納工 | ① (略) |
| 雪崩予防柵設置工 | ①・② (略) |
| 落下物等防止柵設置工 | ① (略) |
| トンネル内装板設置工 | ① (略) |
| 道路附属物設置工 | ① (略) |
| スノーポール設置・撤去工 | ① (略) |
| 路面切削工 | ①・② (略) |
| 舗装版破砕工 | ①・② (略) |
| 舗装版切断工 | ① (略) |
| 舗装版クラック補修工 | ① (略) |
| 橋梁補強工(鋼板巻立て) (1) (2) | ① (略) |
| 橋梁補強工(コンクリート巻立て) (1) (2) | ① (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|--------------------------------|---------|
| 踏掛版 | ① (略) |
| 立入り防止柵工 | ①～⑥ (略) |
| 防雪柵設置及び撤去工 | ①・② (略) |
| 防雪柵現地張出し・収納工 | ① (略) |
| 雪崩予防柵設置工 | ①・② (略) |
| 落下物等防止柵設置工 | ① (略) |
| トンネル内装板設置工 | ① (略) |
| 道路附属物設置工 | ① (略) |
| スノーポール設置・撤去工 | ① (略) |
| 路面切削工 | ①・② (略) |
| 舗装版破砕工 | ①・② (略) |
| 舗装版切断工 | ① (略) |
| 舗装版クラック補修工 | ① (略) |
| 橋梁補強工(鋼板巻立て) (1) (2) | ① (略) |
| 橋梁補強工(コンクリート巻立て) (1) (2) | ① (略) |

| 工種名 | 設 定 内 容 |
|------------------|---------|
| 橋梁地覆補修工 | ①～④ (略) |
| 橋梁補修工(支承取替工) | ①～④ (略) |
| 橋梁補修工(現場溶接鋼桁補強工) | ① (略) |
| 落橋防止装置工 | ①～④ (略) |
| トンネル漏水対策工 | ①・② (略) |
| 道路除草工 | ①～⑦ (略) |
| 路面清掃工(人力清掃工) | ① (略) |
| 側溝清掃工(人力清掃工) | ① (略) |
| 集水桝清掃工(人力清掃工) | ① (略) |
| 沓座拡幅工 | ① (略) |
| 路肩整正(人力による土はね) | ① (略) |
| (削る) | (削る) |

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|------|-------------|---------------------|---------|-------|---------|------|-------------|---------------------|---------|-------|---------|
| 橋梁地覆補修工 | ①～④ (略) | | | | | | | | | | | | |
| 橋梁補修工(支承取替工) | ①～④ (略) | | | | | | | | | | | | |
| 橋梁補修工(現場溶接鋼桁補強工) | ① (略) | | | | | | | | | | | | |
| 落橋防止装置工 | ①～④ (略) | | | | | | | | | | | | |
| トンネル漏水対策工 | ①・② (略) | | | | | | | | | | | | |
| 道路除草工 | ①～⑦ (略) | | | | | | | | | | | | |
| 路面清掃工(人力清掃工) | ① (略) | | | | | | | | | | | | |
| 側溝清掃工(人力清掃工) | ① (略) | | | | | | | | | | | | |
| 集水桝清掃工(人力清掃工) | ① (略) | | | | | | | | | | | | |
| 沓座拡幅工 | ① (略) | | | | | | | | | | | | |
| 路肩整正(人力による土はね) | ① (略) | | | | | | | | | | | | |
| 防護柵復旧工 | <p>① ガードレール復旧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>作業日当たり標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート、土中建込用支柱及びレール</td> <td>3.6 m/日</td> </tr> <tr> <td>レールのみ</td> <td>5.0 m/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 作業日当たり標準作業量は、普通作業員1名の場合。</p> <p>② ガードパイプ復旧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>作業日当たり標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート、土中建込用支柱及びパイプ</td> <td>4.9 m/日</td> </tr> <tr> <td>パイプのみ</td> <td>6.8 m/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 作業日当たり標準作業量は、普通作業員1名の場合。</p> | 作業区分 | 作業日当たり標準作業量 | コンクリート、土中建込用支柱及びレール | 3.6 m/日 | レールのみ | 5.0 m/日 | 作業区分 | 作業日当たり標準作業量 | コンクリート、土中建込用支柱及びパイプ | 4.9 m/日 | パイプのみ | 6.8 m/日 |
| 作業区分 | 作業日当たり標準作業量 | | | | | | | | | | | | |
| コンクリート、土中建込用支柱及びレール | 3.6 m/日 | | | | | | | | | | | | |
| レールのみ | 5.0 m/日 | | | | | | | | | | | | |
| 作業区分 | 作業日当たり標準作業量 | | | | | | | | | | | | |
| コンクリート、土中建込用支柱及びパイプ | 4.9 m/日 | | | | | | | | | | | | |
| パイプのみ | 6.8 m/日 | | | | | | | | | | | | |

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | |
|---------------|-----------------|-----------------------|---------------|-----|
| 鋼橋床版工 | ① (略) | | | |
| 橋梁排水管設置工 | ① 排水管 | | | |
| | 作 業 名 | 作業日当たり標準作業量 | | 摘 要 |
| | | <u>足場有り</u> | <u>足場無し</u> | |
| | コンクリートアンカーボルト設置 | 56 本/日 | <u>76 本/日</u> | |
| 排水管設置 (削る) | 17 m/日 (削る) | <u>22 m/日</u> (削る) | (削る) (削る) | |
| 現場発生品及び支給品運搬 | ① (略) | | | |

③ 1日未満で完了する作業の積算 (略)

| 工種名 | 設 定 内 容 | | | |
|--------------|-----------------|-------------|--------------|-----|
| 鋼橋床版工 | ① (略) | | | |
| 橋梁排水管設置工 | ① 排水管 | | | |
| | 作 業 名 | 作業日当たり標準作業量 | | 摘 要 |
| | | <u>(新設)</u> | <u>(新設)</u> | |
| | コンクリートアンカーボルト設置 | 56 本/日 | <u>(新設)</u> | |
| 排水管設置 | 17 m/日 | <u>(新設)</u> | <u>(VP管)</u> | |
| 排水管設置 | <u>13 m/日</u> | | <u>(鋼管)</u> | |
| 現場発生品及び支給品運搬 | ① (略) | | | |

③ 1日未満で完了する作業の積算 (略)

附 則
この通知は、令和4年4月1日から適用する。